

# 琵琶湖博物館 年報

10号 平成17(2005)年度



LAKE BIWA MUSEUM  
琵琶湖博物館

---

## ごあいさつ

---

2005年度は、琵琶湖博物館が開館して10年目にあたります。博物館としてはまだまだ短い年月ながら、多くの皆様のご協力とご支援を頂いたおかげで、さまざまな活動を続け、あるいは少しずつ新しい事業をも進めることができました。頂戴しました種々のご厚情に対し、心から感謝致します。

この年の主な行事としては、まず、第13回企画展示『歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見ー』の開催があげられます。これは、地域の人たちとの共同研究「滋賀県のオサムシの分布」を基盤にして、身近に生息しているのにあまり知られていない甲虫のオサムシに焦点をあて、「飛ばない昆虫」であることや「歩く宝石」と呼ばれる理由など、その不思議な暮らしについて紹介したものです。実物標本を多数展示するとともに、大人も子どもも楽しめるようにと、いくつか工夫をしてみました。また、生きたオサムシに実際にふれあう展示、『飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー』をも同時に行いました。幸いにこれらは、私どもの最初の予想をも超えて、多くの方々が見て下さる結果となったのです。

このほか、『淡海の川ー水害、そして川とともに生きるー』と『タガベエのため池探検ー人と歩む歴史と未来ー』との、2つのギャラリー展を開きました。これらも準備段階から、「フィールドレポーター」や「はしかけ」の方々、さらには県内の教員・研究者などの協力を得たものです。また、期間中には展示室などで、それら協力して下さった方々とともに、さまざまな体験活動や関連行事を行ないました。

2002年12月に策定した「琵琶湖博物館中長期目標<地域だれでも・どこでも博物館>」に関しては、その具体的な取り組み方策や必要な環境の整備を明示するために、「琵琶湖博物館中長期基本計画」を作りました。またその中で、地域の人々の活動・交流の幅を広げるための「<集う><使う><創る>新空間」の整備、判りやすい情報を敏速に伝達するためのホームページの大規模な更新、全天候型昼食・集合施設の設置、などはすでに実施し、その利用が始まっています。ついでに申せば、2005年度のこの年報から、順序などが少し変更されているのにお気付きの方がいるかも知れませんが、それは、この中長期目標に基づく構成に合せてみたものです。

さらに、博物館利用を促すための効果的な広報活動と効率的な運営を行うために、「広報・経営戦略検討チーム」を作って検討を行い、「琵琶湖博物館広報・経営戦略」を作りました。

2006年度は10周年という、琵琶湖博物館の一つの節目の時期になります。何を新しく行うか、何は止めることにするか、さまざまに考え、大胆にそれを行い始めてみたいと考えております。個々の博物館活動はもとより、このような全般的な問題に関しましても、厳しくかつ積極的なご意見・ご批判を頂きますよう、お願い申し上げます。

2006年9月23日

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 川那部 浩哉

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	<b>4</b>
1 資料が活用できる博物館	4
資料整備活動	4
(1) 収蔵資料	4
(2) 寄贈者および提供者一覧	7
(3) 購入資料一覧	8
(4) 水族繁殖生物	8
(5) 資料の利用	9
(6) 資料保管	15
(7) 燻蒸	16
(8) 資料評価委員	16
2 研究を進めて活かせる博物館	17
研究調査活動	17
(1) 総合研究	17
(2) 共同研究	17
(3) 専門研究	18
(4) 公表された主な研究業績	19
(5) 研究助成を受けた研究	21
(6) 琵琶湖博物館研究発表会	22
(7) 特別研究セミナー	23
(8) 研究セミナー	24
(9) 特別研究員の受け入れ	25
(10) 海外交流活動	25
3 新たな参加と発見ができる博物館	26
展示活動	26
(1) 常設展示の主な更新	26
(2) 第13回企画展示	28
(3) 企画展関連展示	31
(4) ギャラリー展示	31
(5) トピック展示	36
展示交流事業	36
(1) 水族展示の交流	36
(2) 展示交流員と話そう	38
(3) 来館者との交流会	39
4 体験と交流を促す博物館	40
一般利用者へのサービス事業	40
(1) 観察会・見学会等	40
(2) 博物館講座	41
(3) 体験教室	45
学校連携事業および体験学習	45
(1) 教職員等研修	45
(2) 視察対応	46
(3) 学校団体向け体験学習	47
(4) 一般団体向け体験学習	48
(5) 「体験学習の日」の活動	48

(6) 職場体験実習	49
(7) 博物館実習	49
国際交流活動	50
(1) 「JICA博物館集中コース」の実施	50
(2) 海外からの視察	51
(3) 海外派遣	53
5 対話と応援ができる博物館	54
利用者主体の事業	54
(1) フィールドレポーター	55
(2) はしかけ制度	55
地域交流活動への支援事業	68
(1) 地域活動の支援(博物館内)	68
(2) 地域活動の支援(博物館外対応)	72
(3) 博物館ガイダンス	77
(4) 質問コーナー・フロアトーク	78
情報発信活動	79
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	79
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	82
(3) 印刷物	83
<b>II 環境の整備</b>	84
1 拠点としての施設整備	84
(1) 利用者用施設の整備	84
(2) 情報システムの整備	84
(3) 来館者アンケート調査結果	84
2 柔軟な運営組織	88
(1) 組織	88
(2) 職員	89
3 社会的支援と新しい経営	93
(1) 利用状況(2005年度入館者数)	93
1) 総入館者数	93
2) 学校等入館者数	94
3) 月別・曜日別入館者数	95
(2) 新聞掲載記録	96
(3) 雑誌等掲載記録	107
(4) テレビ放映・ラジオ放送記録	110
(5) 予算	113
4 存在基盤の確立	114
(1) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	114
(2) 企画・計画	114
<b>III 2005年度をふり返って</b>	115
1 研究部	115
2 事業部	116
3 総務部	117
<b>IV 博物館利用のご案内</b>	119
2006年度 職員紹介	120

\*表紙の写真：企画展示「歩く宝石－飛ばない昆虫のふしぎ発見－」の展示風景

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物資料、生体を扱う水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分ごとの体系にしたがって整理を行っている。

以下に2005年度の資料整備状況を示す。

### (1) 収蔵資料

収蔵資料は地学標本、植物標本、動物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2005年度末現在で、博物館登録資料は379,805で、収蔵概数は659,308となった。

これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

【収蔵資料のまとめ】

2006年3月現在

	登録資料数	収蔵概数	2005年度登録数	受入総数
地学	26,674	30,678	882	566
植物	76,390	163,173	12	6
動物	92,390	228,418	3,954	5,220
微生物	0	24,000	0	160
水族(生体)	21,560	21,560	14,172	14,172
考古	0	1,346箱と334点	0	0
歴史	0	194件	0	3件
民俗	0	6,133	0	99
環境	0	45箱と703点	0	87
図書	85,243と1,782タイトル	104,166	3,873と632タイトル	3,401と632タイトル
映像	75,766	78,558	0	2,792
合計	379,805	659,308	23,525	27,132

【各分野別の詳細】

地学標本	2005年度				整理状況・作業内容・公開など	累積	
	登録数	採集数	寄贈・提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
化石	502	141	337	478		18,590	21,368
岩石・鉱物	369	0	87	87		5,982	6,109
堆積物	0	0	1	1		1,779	2,221
プレパラート	11	0	0	0		323	980
小計	882	141	425	566		26,674	30,678

植物標本	2005年度						累積	
	登録数	採集数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	12	0	0	3	3	植物さく葉標本製作・登録・管理マニュアル作製、村瀬忠義標本目録収録分WEB公開、DB改良完成、博物館DB(全科協)へのデータ提供、博物館DB(英文)の検討	76,390	163,000
菌類乾燥標本	0	0	0	3	3		0	116
水草包埋標本	0	0	0	0	0		0	57
小計	12	0	0	6	6		76,390	163,173

動物標本	2005年度						累積		
	登録数	採集数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物(魚類除く)	9	2	1	46	51		537	767	
内訳	哺乳類骨格標本	5	1	0	0	1	データベース登録作業	192	192
	哺乳類剥製標本	1	0	0	0	0		8	8
	哺乳類	0	0	0	0	0		100	100
	鳥類骨格標本	0	0	0	23	23	標本受入1点、整理、計測、骨格標本製作	61	106
	鳥類乾燥標本(巢、卵、レプリカ等含む)	0	1	0	23	24	23点、乾燥標本製作23点	137	321
	爬虫類骨格標本	0	0	1	0	1		32	33
	爬虫類剥製標本	3	0	0	2	2	標本受入、整理、登録作業	6	6
爬虫類	0	0	0	0	0		1	1	
魚類(淡水魚類)	2,233	0	0	1,585	1,585		46,264	77,219	
内訳	乾燥骨格標本	10	0	0	0	0	咽頭歯標本の作成、登録、計測10件	2,446	2,446
	DNA分析用標本	540	0	0	13	13	登録540件	3,633	3,633
	液浸標本	1,683	0	0	1,572	1,572	寄贈標本・受け入れ標本の同定、ラベル添付、配架、登録1,683件・アルコール液点検、補充、ホルマリンよりの置換294件	40,185	71,140
昆虫	1,712	948	0	1,167	2,115		34,125	131,897	
内訳	昆虫液浸標本	868	471	0	0	471	Web公開に伴うDB英文化準備完了、ソーティング(小分け・粗同定)、同定、ラベル添付および修正、収納整理作業1,177本、参照標本作成4本、アルコール液点検・補充30,200本	12,089	30,200
	昆虫乾燥標本	844	477	0	1,167	1,644	村山修一蝶類コレクションタイプ標本の登録844件、整理・標本作製1798点	22,036	101,697
貝類	0	345	0	622	967	ソーティング(小分け・粗同定)、ラベルの作成および添付、仮データ入力各約900点・新規登録、登録番号ラベルの作成および添付、ホルマリンからの置換各2031件・アルコール液点検約12,000本	11,464 (登録抹消2件)	13,000 + 未整理約1,000	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物(甲殻類、寄生虫など)	0	191	0	453	502	甲殻類標本の仮データベース(VBA)作成、甲殻類標本の仮登録486件、旧琵琶湖研究所の標本整理296件(データ入力+アルコール置換)	0	5,535	
小計	3,954	1,486	1	3,873	5,220		92,390	228,418	

微生物標本	2005年度						累積	
	登録数	撮影数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
珪藻標本	0	0	0	160	160	データベース構築準備、写真を整理中	0	6,000
光学・電子顕微鏡写真	0	3,062	0	0	0		0	18,000
小計	0	3,062	0	160	160		0	24,000

水族資料(生体)	2005年度						累積		
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	12,679	820	2,752	1,139	7,968	12,679		20,072	20,072
内訳	魚類	4,675	784	2,752	1,139	4,675		18,544	18,544
	両生類	35	35			35		11	11
	爬虫類	0	0			0		22	22
	鳥類	1	1			1		7	7
無脊椎動物	1,493	1,057	82	306	48	1,493		1,488	1,488
内訳	昆虫	465	160	58	199	48	465	72	72
	貝類	573	463	24	86	573		474	474
	甲殻類	455	434		21	455		942	942
小計	14,172	1,877	2,834	1,445	8,016	14,172		21,560	21,560

考古資料	2005年度			累積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
遺跡遺物(舟、瓦を除く)	0	0		0	1,313(箱)と320
丸木船	0	0		0	5
瓦	0	0		0	22(箱)
灯籠	0	0		0	3
貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
展示関係(ガリラヤ湖関係含む)	0	0		0	11(箱)
小計	0	0		0	1,346箱と334点

歴史資料	2005年度					累計		
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開等	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図。絵画等	0	2	0	0	2	東寺文書調書作成整理30点、小牧家旧資料調書作成整理1,100点	0	156
二次資料(レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	31
その他	0	0	0	0	0		0	7
小計	0	3	0	0	3		0	194

民俗資料	2005年度				累積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	91	91	写真撮影20点、実測図作成20点、トレース図作成480点、資料目録2冊刊行、資料・収蔵庫清掃・点検、民具札作成、公開用データベース作成	0	4,264
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		0	1,839
二次資料(木造船模型)	0	8	8		0	30
小計	0	99	99		0	6,133

環境資料	2005年度				累積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0		0	72
生活用具類	0	87	87	受入作業と資料収納作業	0	25
民具類	0	0	0		0	22(箱)と577
二次資料(レプリカなど)	0	0	0		0	23(箱)と25
海外の湖沼船	0	0	0		0	4
小計	0	87	87		0	45箱と703点

図書資料	2005年度					累積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容など	登録資料数	収蔵概数
書籍	2,501	715	1,314	2,029	開架図書9,460冊、雑誌72件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、蔵書点検51,000点、学術雑誌製本314冊、ニュースレターの整理、図書装備2,500冊	51,611	63,830
文献	1,372	0	1,372	1,372		33,632	40,336
雑誌	632タイトル	167タイトル	465タイトル	632タイトル		1,782タイトル	
小計	3,873と632タイトル	715と167タイトル	2,686と465タイトル	3,401と632タイトル		85,243と1,782タイトル	104,166

映像資料	2005年度					累積		
	登録数	撮影数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	2,792	2,792		75,766	78,558
動画資料	0	0	0	0	0		0	0
小計	0	0	0	2,792	2,792		75,766	78,558

(2) 寄贈者および提供者一覧

敬称省略 (点数)

【地学資料】

化石標本： 北川陽一郎(228) 石田志朗(7) 北林栄一(88) Ahmad Smadi(5) 中沢和雄(2)  
岡村喜明(7)

岩石・鉱物標本： 木村一郎(7) 石田志朗(17) 黒川眞孝(3) 石村陽子(1) Ahmad Smadi(2)  
中沢和雄(15) 高島累層研究会(42)

火山灰標本： 北川陽一郎(1)

現世骨格標本： 桑島 宏(1) 岡村喜明(1)

【植物標本】

さく葉標本： 平松和也(1) 大塚泰介(1) 桑垣 瑞(1)

菌類標本： 小原寿子(1) 寺田千恵子(2)

【動物標本(乾燥)】

昆虫標本： 東 浩司(10) 石田未基(49) 伊東善之(50) 上原千春(68) 遠藤真樹(23)

岡田 隆(2) 加固啓英(1) 鎌田美智子(1) 河瀬直幹(33) 神林元樹(2)

北村美香(1) 小泉享詳(2) 近藤篤子(1) 佐々木 剛(117) 柴栄康雄(2)

杉野由佳(2) 関 慎太郎(1) 高橋 央(1) 高橋和征(89) 高橋 督(3)

高橋 基(23) 田口正夫(14) 武田 繁(1) 田中健晴(1) 田中道子(1)

中川 優(444) 仲田二代美(1) 中村 徹(41) 七野芳彦(13) 西尾文里(1)

初田幸穂・山元真理(1) 広谷ちひろ(2) 藤本勝行(15) 布施幸江(1) 水野敏明(1)

三宅磯司(1) 矢野 健(3) 山内英治(24) 山中裕子(1) 吉居晴美・中川 優(118)

若狭喜弘(1) 若林 護(1)

【動物標本(液浸)】

魚類標本： 大原健一(70) 桑原雅之(31) 東 幹夫(1389) 上原千春・佐々木 剛(4)

前畑政善(1) 榊永一宏(4) 辻 美穂(2) 西野麻知子(7瓶) 琵琶湖研究所(20瓶)

高田昌彦(7) 中島経夫(12) 遠藤真樹(2) 楠岡 泰(1) 佐藤智之(4)

鵜飼剛平(2)

微小生物標本： たんさいぼうの会(110) 幡野真隆(9) 甲津久生(33) 吉川俊一(3)

貝類標本： NPO法人「びわこ豊稔の郷」(269) 石田未基(43) 上西 実(7) 大原健一(1)

大谷. J. ウィリアムス(2) 岡田 隆(1) 金沢 光(1) 金尾滋史(11) 楠岡 泰(3)

小林収(1) 佐藤智之・山田康幸(1) 杉野由佳(1) 関 慎太郎(10) 高見明宏(15)

田中政之(3) 出口武洋(42) 出口武洋・杉野由佳・浦部美佐子(2) 中井克樹(240)

中島経夫(3) 長田智生・吉川真一郎・柴山弘史(20) 西 邦雄(3) 藤倉 寛(3)

琵琶湖研究所(196) マーク. J. グライガー(1) 前畑政善(1) 松田征也(55)

吉川真一郎・柴山弘史(24)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本 (甲殻類・寄生虫など) :

大高明文(1) 西野麻知子(440) 新宮 知(1) 有山啓之(2) 寺田敏夫(1)

藤本裕和(1) Wu ShuPing(4) 和田太一(1) 中村剛之(1) 宮崎一夫(1)

平井重治(1)

【民俗資料】

膳・椀など： 高橋英一(95)

地機関係用具： 吉川佳代(7)

高機など： 野添 博(13)

木造船模型： 奥村良三(8)

茶釜： 木村忠史(1)  
 着物・足袋、雑巾など： 森江清太郎(33件)  
 飯櫃など： 佐野正雄(4)  
 飯櫃保温ふご： 太田 学(1)

【図書資料】

書籍： 石田志朗(1) 富田克敏(69) 三山元暎(1) 早稲田大学考古学会(1) 村瀬修一(1)  
 中村由紀子(1) 中江 彰(1) 天理大学(1) 細川修平(1) Dafzel, Day(1) 福永円澄(1)  
 北河内自然愛好会(1) 淵上清二(1) 軟体動物研究所(2) 滋賀県同和問題研究所(1)  
 山岡 剛(32) 北川良也(1) 柴川敏之(1) 法要寺区(1) 河野光子(2) 松葉千年(1)  
 神田連合自治区(1) 浅見素石(1) 亀井節夫(6) 川部浩市(1) 畑中英二(1)  
 森 健司(2) 吉川太逸(2) 化学研究所(1) 畚野 剛(101) 早川貞臣(1)  
 竹内利夫(1) 地学学会(1) 福田栄治(1)

(3)購入資料一覧

	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	近江国堅田庄 居初家文書	約180点		年代：貞享年間(1684-1688年)~明治期
	延喜式	25点		年代：享保8(1723)年
昆虫乾燥標本	日本産ゲンゴロウ類標本	25点		

(4)水族繁殖生物

種名	学名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i> subsp.	133
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	450
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	280
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	310
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	185
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp.1	170
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	4
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	94
カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>	25
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	260
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	39
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	35
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	441
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	116
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	452
タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus</i>	30
ドジョウ科		
スジシマドジョウ小型種琵琶湖型	<i>Cobiti</i> sp.2 subsp.4	123
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	568
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	101
ムサシトミヨ	<i>Pungitius</i> sp.	565

ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	377
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp.	2800
外国産魚類		
コイ科		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	120
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	65
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	11
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	324
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	5
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	193
ダントウボウ	<i>Megalobrama amblycephala</i>	30
コウライハス	<i>Opsariichthys uncirostris bidens</i>	183
メダカ科		
ランプリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicanus</i>	137
カワスズメ科		
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	18
サンフィッシュ科		
ロングイヤーサンフィッシュ	<i>Lepomis megalotis</i>	97
ギギ科		
コウライギギ	<i>Coreobagrus fulvidraco</i>	68
昆虫類		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	24
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	3
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	45

## (5) 資料の利用

### 1) 資料の貸出

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	28	能登川町立博物館	トンボ幼虫模型 1点	企画展「能登川のホタルと水生生物」に展示
9	5	虎姫時遊館	トンボ標本 390点、トンボ幼虫模型 1点	「秋の風情に親しむ」企画展に展示
11	15	朽木いきものふれあいの里	オサムシ標本 117、模型 3点	ミニオサムシ展in朽木に展示
2	20	伊藤昇	オオダイオオナガゴミムシ 2点	研究

### 2) 資料の譲与

【水族】	カワバタモロコ	18点	近畿大学
	モツゴ	10点	近畿大学
	イトモロコ	3点	近畿大学
	デメモロコ	3点	近畿大学
	ヒナモロコ	3点	近畿大学
	アブラヒガイ	3点	近畿大学
	ウシモツゴ	3点	近畿大学
	シナイモツゴ	3点	近畿大学

### 3)特別観覧

2005年度は、以下のとおり特別観覧を行った。

#### <映像>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
4	1	株式会社 環境総合テクノス	・オオクチバス ・ブルーギル ・ニゴロブナ ・ホンモロコ	都市再生プロジェクト「琵琶湖・淀川水域の再生」計画書およびその概要版に使用のため	静止画(魚類)
4	14	社団法人 農山漁村文化協会	・前野コレクション ・古谷コレクション	協会発刊『写のものがたり 昭和のくらし 5 川と湖』に掲載	静止画
4	20	株式会社 環境総合テクノス	・電子図鑑「滋賀の魚たち」より	京都府舞鶴市商工観光センター内ふれあい水槽での特別展示に使用	静止画(魚類)
4	28	(株)文溪堂	・カワウ ・カイツブリ ・シロヒレタビラ ・イチモンジタナゴ ・オオクチバス ・アオコ発生の様子	小学校学習副教材	映像資料(静止画)
4	26	水のめぐみ館「アクア琵琶」	琵琶湖にすむ生き物	水槽展示の中の生き物を説明する魚名板に写真を掲載する	静止画(魚類)
5	4	水のめぐみ館「アクア琵琶」	・カマツカ ・ムギツク ・ドジョウ ・タテボシガイ ・ササノハガイ ・ドブガイ	水のめぐみ館「アクア琵琶」水槽展示の魚名板に使用	静止画(魚類)
5	10	湖北地域振興局田園振興課	・メダカ ・ギンブナ ・ドンコ ・モツゴ	早崎内湖環境調査に係る広報用パンフレットに利用	静止画(魚類)
5	13	守山市公文書館	・苗代での種まき ・田植え ・牛舎から顔を出す牛 ・もんぺ姿	「守山市誌」(全10巻)の「歴史編」に掲載(平成17年発刊)	静止画(前野コレクション)
5	22	毎日新聞社大津支局	・ニゴロブナ ・ホンモロコ ・イサザ	湖魚が減少傾向にあることの報道	静止画(魚類)
5	26	朝日学生新聞社	・ニゴロブナ	朝日小学生新聞「魚のゆりかご水田プロジェクト」記事内参考写真として使用	静止画(魚類)

5	29	守山琵琶湖よし笛アン サンプル	・ヨシに関する写真	よし笛コンサート会場でプロジェ クター投影	静止画(植物)
5	27	琵琶湖河川事務所	・写真で見る生活史	琵琶湖河川事務所主催「瀬田川 水辺協議会」の「水辺の景観」 説明資料の一部として利用	静止画 (前野コレクション)
6	4	京都新聞滋賀本社	・アユモドキ	新聞紙上で紹介するため	静止画(魚類)
7	6	(株)笠倉出版社	・ピワコオオナマズ	笠倉出版社発行「本当にいる『日 本の未知生物』案内」への掲載	静止画(魚類)
7	11	京都府乙訓土木事務所	・ゲンゴロウブナ ・ニゴイ ・ギンブナ ・ドジョウ ・ハス ・ナマズ ・オイカワ ・メダカ ・カワムツ ・ドンコ ・モツゴ	住民参加による魚類調査におい て住民に配付する資料として利 用	静止画(魚類)
7	15	大津市建設部河川課	・「琵琶湖&川の魚」 図案に使用の全魚種	ワークショップの資料として使 用し、配布する。(1魚種毎のカー ドを作成しゲームを行う)	静止画(魚類)
7	20	近畿農政局 野洲川沿岸農地防災事 業所	・サツキマス(アマゴ) ・カワムツ ・カワバタモロコ ・トウヨシノボリ	国営野洲川沿岸地区農地防災事 業PR資料に掲載のため	静止画(魚類)
8	21	朝日放送株式会社 報道情報局社会情報セ ンター	・ゲンゴロウブナ1 ・ゲンゴロウブナ2	朝日放送「ムーブ」番組内コーナ ーのインサート画像に使用	静止画(魚類)
8	31	みんなの滋賀新聞	・ブルーギル ・オイカワ ・トウヨシノボリ	新聞掲載(みんなの滋賀新聞)	静止画(魚類)
9	4	滋賀県農政水産部 農村振興課	・暑い日	農村振興課HPの「魚のゆりかご 水田プロジェクト」のサイトで 利用	静止画 (藤村コレクション)
9	10	京都府企画環境部	・カワヒバリガイ ・カミツキガメ ・オオクチバス ・セタシジミ	京都府のホームページ(京都府 レッドデータブックキッズ版)に 掲載し、自然保護啓発として利 用するため	映像資料(静止 画)

9	17	内閣府大臣官房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アユモドキ1</li> <li>・アユモドキ2</li> </ul>	インターネットの政府公報オンラインHP(内閣府運営)においてのフラッシュコンテンツ制作「絶滅危機の動物を救え」内にて利用	静止画(魚類)
9	24	滋賀県琵琶湖環境部水政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルーギル</li> <li>・オオクチバス</li> </ul>	平成17年(2005年度)版環境白書への掲載	静止画(魚類)
10	3	滋賀環境ビジネスメッセ 滋賀大学実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アオウオ</li> <li>・ニジマス</li> <li>・ニゴロブナ</li> <li>・アブラヒガイ</li> <li>・オオクチバス</li> <li>・ヌマチチブ</li> <li>・ビワコオオナマズ</li> <li>・アユ</li> <li>・カダヤシ</li> <li>・ハクレン</li> <li>・ビワヒガイ</li> <li>・イワトコナマズ</li> <li>・コクチバス</li> <li>・ブルーギル</li> <li>・ビワマス</li> <li>・ウツセミカジカ</li> <li>・ソウギョ</li> <li>・イサザ</li> <li>・ホンモロコ</li> <li>・ハス</li> <li>・カムルチー</li> <li>・ゲンゴロウブナ</li> <li>・ワタカ</li> </ul>	琵琶湖環境ビジネスメッセ2005において「学習型観光システムのプロトコルタイプ 開発と実証実験」に使用	静止画(魚類)
10	5	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビワコオオナマズ</li> <li>・イワトコナマズ</li> </ul>	貴機構機関誌「BY BLUE」17号(11月発行)の水と食文化を紹介するページにて利用	静止画(魚類)
10	28	(株)エディトリアル・オフィス・ワイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イワトコナマズ</li> <li>・ビワコオオナマズ</li> </ul>	集英社児童書「ナマズ図鑑」に掲載のため	静止画(魚類)
11	8	マキノ土に学ぶ里研修センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビワコオオナマズ</li> <li>・イワトコナマズ</li> <li>・ニゴロブナ</li> <li>・ビワマス</li> </ul>	マキノ「土に学ぶ里」利用のしおりに掲載	静止画(魚類)
11	11	読売新聞大津支局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワタカ</li> <li>・ゲンゴロウブナ</li> </ul>	新聞掲載	静止画(魚類)
12	1	(株)エディトリアル・オフィス・ワイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナマズ化石(未登録)</li> </ul>	集英社刊ナマズ図鑑に掲載のため	映像資料(静止画)

12	6	(株) ニュージェック 都市地域整備グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円山町のヨシ刈り</li> <li>・ ヨシの湿原と投網</li> <li>・ ヨシと和船の水郷風景</li> <li>・ 西の湖の水路とヨシ原</li> <li>・ ヨシ刈り</li> <li>・ 近江八幡の瓦工場</li> </ul>	近江八幡市主催「八幡堀修景計画策定委員会」における資料として利用	静止画 (前野コレクション)
12	14	読売新聞大津支局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビワマス</li> <li>・ ニゴロブナ</li> <li>・ ビワヒガイ</li> <li>・ アブラヒガイ</li> <li>・ ビワコオオナマズ</li> <li>・ スジシマドジョウ大型種</li> <li>・ ホンモロコ</li> <li>・ イワトコナマズ</li> <li>・ ビワヨシノボリ</li> <li>・ スゴモロコ</li> <li>・ イサザ</li> <li>・ スジシマドジョウ小型種琵琶湖型</li> <li>・ ワタカ</li> <li>・ ウツセミカジカ</li> <li>・ ゲンゴロウブナ</li> <li>・ ハス</li> </ul>	新聞掲載 (正月特集記事)	静止画 (魚類)
1	4	中日新聞大津支局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イチモンジタナゴ</li> </ul>	中日新聞滋賀版新年企画に掲載	静止画 (魚類)
1	6	飯山市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昆虫標本の作り方 (甲虫の場合) より</li> <li>・ 昆虫標本の作り方 (蝶の仲間の場合) より</li> </ul>	飯山市ふるさと館における子ども達への「ワークシート」に利用	映像資料 (静止画)
1	13	滋賀県 水政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニゴロブナ</li> <li>・ 琵琶湖博物館オリジナルポスター</li> <li>・ 「琵琶湖&amp;川の魚」図案</li> </ul>	「滋賀の環境」作成のため	映像資料 (静止画)
1	16	京都府企画環境部環境政策室		小学生向き環境啓発冊子「環境まなぶっく」(2006)作成のため	静止画 (魚類)
1	16	テレビマンユニオン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イチモンジタナゴ</li> <li>・ カワバタモロコ</li> </ul>	テレビ朝日「宇宙船 地球号」にて放送	静止画 (魚類)
1	23	大曲町史委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中テーマ 大津</li> <li>・ 湖南地域より (別紙リスト)</li> </ul>	町史発刊のため	静止画 (藤村コレクション)

1	27	インテムコンサルティング株式会社	・ニゴロブナ	世界銀行「World Bank」のレポート"Labeling , Traceability and Ecolabelling of Fishery Products in Japan" に掲載のため	静止画 (魚類)
1	29	人間文化研究機構	・沖島町の朝の棧橋	人間文化研究機構第2回講演会シンポジウムの記録冊子(人間文化vol.2) に資料図版として掲載のため(嘉田由紀子「制御か共感か? 水害エスノグラフィーの試み」 ページ内に掲載)	静止画 (前野コレクション)
1	31	毎日新聞五條通信部	・カジカ	2月3日付毎日新聞第3奈良面「よみがえれ清流 吉野川物語」カット写真として掲載	静止画 (魚類)
2	20	島根県立しまね海洋館	・オオフサモ ・オオカナダモ ・コカナダモ ・ボタンウキクサ ・ホテイアオイ	特別企画展「エイリアンスpecies」の外来生物紹介のため	静止画 (水生植物)
2	21	近畿農政局 新湖北農業水利事業所	・古琵琶湖層のはぎ取り標本写真	農林水産行政の広報において、土壌の説明に使用する。	静止画 (地学)
3	6	宇佐市教育委員会 安心院地域教育課	・ミエゾウ全体図 (イラスト図)	市報掲載のため	静止画 (図版)
3	10	株式会社 雅麗	・ビワヒガイ	柏書房「俳句の魚菜図鑑」	静止画 (魚類)
3	14	琵琶湖干拓小中之湖土地改良区	・ヤマトゴイ ・ヒシ ・ニゴロブナ ・キショウブ ・メダカ ・ヨシ ・ドブガイ	小中之湖地区の地域用水機能増進事業を紹介するパンフレットに掲載のため	静止画 (魚類) 静止画 (水生植物)
3	16	近江八幡市	・長命寺港近くの民家、舟板塀 ・長命寺港で見かけた丸子船 ・沖島島民の曳き網漁 ・沖島の石切場 ・近江八幡の瓦工場	近江八幡市発行『近江八幡の歴史』第2巻「匠と技」に掲載のため	静止画 (前野コレクション)

3	25	近畿地方整備局 木津川上流河川事務所	・アカザ	パンフレット掲載	静止画（魚類）
3	25	滋賀県湖北地域振興局 環境課	・ホンモロコ ・ピワマス ・ニゴロブナ ・ピワコオオナマズ	環境学習啓発冊子「誰でもできる環境調査ハンドブック」への掲載	静止画（魚類）
3	25	伊賀市環境保全市民会議 レッドデータブック 作成委員会	・イチモンジタナゴ	伊賀市環境保全市民会議発行「伊賀のレッドデータブック」に掲載	静止画（魚類）

### <館内閲覧>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
5	17	松岡長一郎	甲賀市地域の化石標本	「甲賀市史」第1巻編纂のため
7	12	Wojciech Niedbala	クマムシ類ホロタイプ標本	調査・研究のため
7	20	柴田陽一	小牧家旧蔵資料（雑誌、新聞、書簡等）	調査・研究のため
	22			
	25			
3	6	米田 実	鮎河層群産の化石標本	「甲賀市史」第1巻編纂のため

### (6)資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素燻蒸など、防虫・防かび対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査などを行っている。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 時間ごとに計測し、全データを保存。 温湿度の変化を年間を通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	月1回原則として第1金曜日に実施
生物環境調査	有害生物調査 ・2005年6月28日～7月12日 昆虫トラップ226カ所 資料担当(設置・回収・分析) ・2005年10月16日空中菌・ゴミサンプリング各20カ所 (設置・回収・分析) ・2005年11月16日～30日 pH測定・昆虫トラップ調査 各21カ所・190カ所(設置・回収・分析) ・2006年3月3日～3月17日 昆虫トラップ201カ所 資料担当(設置・回収) ・定期調査により、環境指標生物(チャタテムシ)が1.0/日以上超える場合は、処置を施す方針をたてた。

## (7) 燻 蒸

琵琶湖博物館では、資料を安全に長期間保管し活用していくために、年に1回収蔵庫燻蒸を行い、収集した資料や活用後の資料については収蔵庫への搬入の前に、燻蒸庫での燻蒸を随時行っている。琵琶湖博物館には、大型・小型の2台の燻蒸庫がある。大型燻蒸庫では、ヨウ化メチル(アイオガード)と炭酸ガスによる燻蒸を行うことができる。小型燻蒸庫では、炭酸ガスによる燻蒸を行うことができる。併せて、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2005年度の燻蒸実施状況は以下の通りである。

### ○収蔵庫燻蒸

- ・実施期間：2005年9月4日～9日
- ・実施収蔵庫：植物収蔵庫、環境収蔵庫
- ・使用ガス：エキヒューム(酸化エチレン)

### ○大形燻蒸庫燻蒸

- ・実施回数：6回
- 内訳 アイオガード3回、炭酸ガス3回

### ○小形燻蒸庫燻蒸

- ・実施回数：4回

### ○冷凍処理 随時

### ○脱酸素処理

- ・実施回数：3回

## (8) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行われ、研究の成果とその発信が魅力的であればあるほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

特に琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2005年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。また、それ以外の専門研究については、研究部代表者会議において審査を実施した。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の1件であった。

- ・ 東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類を展開の軸とした環境史に関する研究ー  
代表者：中島経夫，研究期間：1996～2006年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。

- ・ 滋賀県内の魚類分布調査および琵琶湖博物館収蔵魚類標本の充実  
代表者：中島経夫，研究期間：2000～2005年度
- ・ 東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化的研究  
代表者：榊永一宏，研究期間：2002～2006年度
- ・ 珪藻電子図鑑の増補改良  
代表者：大塚泰介，研究期間：2003～2007年度
- ・ 内湖・水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究  
代表者：前畑 政善，研究期間：2003～2008年度
- ・ 滋賀県の蝶類分布および生態に関する研究  
代表者：内田明彦，研究期間：2003～2006年度
- ・ 貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について  
代表者：芳賀裕樹，研究期間：2004年～2005年
- ・ 古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元  
代表者：高橋啓一，研究期間：2004～2006年度
- ・ 古琵琶湖出現期の古環境解析  
代表者：里口保文，研究期間：2005～2007年度
- ・ マシジミの遺伝育種学的研究  
代表者：松田征也，研究期間：2005～2007年度
- ・ カワウの物質輸送に関する研究成果の整合と統合  
代表者：亀田佳代子，研究期間：2005年度
- ・ 琵琶湖の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究  
代表者：草加伸吾，研究期間：2005年度～2007年度

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

#### <申請専門研究>

- ・日本中世における人工水系の展開とその歴史的意義—堀を中心に— (橋本道範)
- ・古琵琶湖層群における植物相の変化と常緑広葉樹の衰退 (山川千代美)

#### <専門研究>

##### 環境史研究領域

- ・土山町から発見されたクジラ化石の分類学的研究 (高橋啓一)
- ・コイ科魚類の咽頭歯の研究 (中島経夫)
- ・琵琶湖歴史環境の世界史的評価に関する研究 (牧野久実)
- ・古琵琶湖層群に挟在する火山灰層の噴出源の検討 (里口保文)
- ・野洲川流域平野における遺跡立地の環境考古学的研究 (宮本真二)
- ・双翅目アシナガバエ科昆虫の系統分類と生物地理 (榊永一宏)

##### 生態系研究領域

- ・水田利用魚類の生態と外来種の関連 (前畑政善)
- ・水田魚道普及のための政策課題について (杉谷博隆)
- ・植生と水質調節：一降雨流出時の水質変化の組織解析 (草加伸吾)
- ・繊毛虫にとって共生藻類を持つ意義 (楠岡 泰)
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究 (中井克樹)
- ・淡水貝類の保全に関する研究 (松田征也)
- ・琵琶湖水系におけるピワマスとアマゴの関係 (桑原雅之)
- ・地域環境問題における意思決定 (牧野厚史)
- ・琵琶湖南湖の沈水植物に関する研究 (芳賀裕樹)
- ・多自然型川づくりに関する研究 (武部 強)
- ・ケヤキ苗木生産に関する研究 (金子修一)
- ・エリ網汚損原因糸状藻類の生理・生態について (孝橋賢一)
- ・カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明 (亀田佳代子)
- ・琵琶湖岸における利活用の変遷 (矢野晋吾)
- ・多変量解析による河川珪藻群集の研究 (大塚泰介)
- ・滋賀県の淡水カイミジンコの分布と生態の分析 (ロビン・J・スミス)

##### 博物館学研究領域

- ・博物館が提供する学習機能の体系化 (布谷知夫)
- ・近江の歴史の固有性と普遍性に関する考古学的研究 (用田政晴)
- ・鰓脚類と顎脚類 (甲殻類) の分類学や個体発生学に関する研究 (マーク・J・グライガー)
- ・琵琶湖集水域における水生生物 (魚類など) の生命活動の記録 (写真撮影, 録音など) 方法と技術の研究ならびに博物館的表現・伝達方法に関する研究 (秋山廣光)
- ・オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究 (八尋克郎)
- ・博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究 (戸田 孝)
- ・イバラモのシュート群動態と雌雄異株性に関する研究 (芦谷美奈子)
- ・琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発 (中村公一)
- ・博物館と学校とのよりよい連携の在り方をさぐる (谷口雅之)
- ・博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見 (中藤容子)

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
鳥越 皓之	早稲田大学人間科学学術院 教授
原田 英司	京都大学名誉教授
鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
佐々木 亨	北海道大学大学院文学研究科 助教授
三田村緒佐武	滋賀県立大学環境科学部 教授
藤井 譲治	京都大学大学院文学研究科長 教授
篠原 徹	国立歴史民俗博物館 教授
内林 善彦	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 主査
川那部浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
上原 正男	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4)公表された主な研究業績

学芸職員が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍で公表されたオリジナルの論文、あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/kenkyu/>) に掲載した。

嘉田由紀子 (2005) 制御か共感か? -住民による環境調査に見る幸せの形. 先端社会研究, 2, 関西学院大学出版会: 269 - 300.

嘉田由紀子 (2005) 「水の公共性」をめぐる政策と知のあり方 - 「制御する知」と「共感を育む知」. 都市問題, 6 (96), 東京都市調査会: 46 - 55.

嘉田由紀子 (2005) 環境と暮らしの変遷 -生活環境主義の考え方. 月刊NIRA政策研究, 18 (8), 総合研究開発機構: 19 - 26.

布谷知夫 (2005) 博物館の理念と運営. 雄山閣, 東京: 234 p.

布谷知夫 (2005) 展示と来館者との相互の働きかけ. 書評: 並木美砂子著「動物園における親子コミュニケーション」, 博物館学雑誌, 1 (31): 49 - 52.

Izuho, M. and Takahashi, K. (2005) Correlation of paleolithic industries and paleoenvironmental change in Hokkaido (Japan). Current Research in the Pleistocene, (22): 19 - 22.

高橋啓一・出穂雅実・添田雄二・張 鈞翔 (2005) 日本産マンモスゾウ化石の年代測定結果からわかったその生息年代といくつかの新知見. 化石研究会会誌, (38) 2: 116 - 125.

大島 浩・高橋啓一 (2005) 長野県上水内郡中条村から発見されたミエゾウ *Stegodon miensis* 頭蓋の形態学的研究. 化石研究会会誌, (38) 2: 90 - 97.

用田政晴 (2006) 安土瓢箪山古墳の壺と「埴輪」. 淡海文化財論叢, 1, 淡海文化財論叢刊行会: 87 - 93.

牧野久実 (2005) 丸子船の横断面に見られる和船の原型要素について. 史学, 4 (73), 三田史学会, 東京: 109 - 129.

牧野久実 (2005) 丸子船の舳先について. 史学, 2・3 (73), 三田史学会, 東京: 34 - 49.

牧野久実 (2005) ヌジ人名史料による家系図の作成について. 統計数理, 2 (53), 統計数理研究所, 東京: 285 - 296.

牧野久実 (2005) 古典時代のキンネレット湖における湖上輸送琵琶湖研究の成果を参考に. 史学, 3 (74), 三田史学会, 東京: 217 - 247.

里口保文・山川千代美 (2006) 伊吹山麓の米原市寺林地域に分布する礫質堆積層の年代. 第四紀研究, 45 (1), 日本第四紀学会: 29 - 39.

- Masunaga, K., D. Yang and Saigusa, T. (2005) Taxonomy of the genus *Acymatopus* Takagi (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological Science*, 8 (3) : 301 - 311.
- Masunaga, K., Saigusa, T. and P. Grootaert (2005) Revision of the genus *Thambemyia* Oldroyd (Diptera: Dolichopodidae) with description of a new subgenus. *Entomological Science*, 8(4) : 439 - 455.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) A new *Diostracus* species from Sichuan China (Diptera: Dolichopodidae). *Aquatic Insects*, 27 (1) : 57 - 62.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) Notes on species of *Tachytrechus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 130 (4) : 449 - 503.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) Notes on species of *Paraclius* from Continental China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 130 (4) : 493 - 497.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) A review of the species of *Thambemyia* Oldroyd (Diptera: Dolichopodidae) from China. *Aquatic Insects*, 27 (4) : 299 - 307.
- Masunaga, K. and Saigusa, T. (2005) East Asian phylogeography of *Diostracus* (Diptera: Dolichopodidae) a torrenticolous genus of long-legged flies. *Proceedings Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology, Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology* : 14.
- 杉谷博隆 (2005) 自然再生推進法から見た住民参加型ビオトープづくりの課題. *農業土木学会誌*, 73 (11), 農業土木学会 : 1061 - 1065.
- Hobara, S., Koba, K., Osono, T., Tokuchi, N., Ishida, A. and Kameda, K. (2005) Nitrogen and phosphorus enrichment and balance in forests colonized by cormorants : implications of the influence of soil adsorption. *Plant and Soil*, 268 : 89 - 101.
- Osono, T., Hobara, S., Koba, K., Kameda, K. and Takeda, H. (2006) Immobilization of avian excreta-derived nutrients and reduced lignin decomposition in needle and twig litter in a temperate coniferous forest. *Soil Biology and Biochemistry*, 38 : 517 - 525.
- Ohtsuka, T. (2005) Epipellic diatoms blooming in Isahaya Tidal Flat in the Ariake Sea Japan before the drainage following the Isahaya-Bay Reclamation Project. *Phycological Research*, 53, 日本藻類学会 : 138 - 148.
- Fujita, Y. and Ohtsuka, T. (2005) Diatoms from paddy fields in northern Laos. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会 : 71 - 89.
- 有田重彦・大塚泰介 (2005) 円弧構成モデルによる羽状目珪藻の殻外形の記述. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会 : 135 - 141.
- Smith, R. J. (2005) A new UK record of *Herpetocypris brevicaudata* Kaufmann, 1900 (Cypridoidea, Ostracoda) ; palaeo-temperature implications. *Journal of Micropalaeontology*, 24 : 177 - 178.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2005) The ontogeny of the entocytherid ostracod *Uncinocythere occidentalis* (Kozloff & Whitman, 1954) Hart, 1962 (Crustacea). *Hydrobiologia*, 538, 217 - 229.
- Horne, D. J., Schon, I., Smith, R. J. and Martens, K. (2005) What are Ostracoda? A cladistic analysis of the extant superfamilies of the subclasses Myodocopa and Podocopa (Ostracoda: Crustacea). In Koenemann, S. and Jenner, R. (eds) *Crustacean and Arthropod Relationships. Crustacean Issues*, V. 16. CRC Press, California, USA.
- Rouse, G. W. and Grygier, M. J. (2005) *Myzostoma seymourcollegiorum* n. sp. (Myzostomida) from southern Australia, with a description of its larval development. *Zootaxa*, 1010 : 53 - 64.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2005) 大分県杵築市の平原層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報告* 32 : 227 - 234.

## (5) 研究助成を受けた研究

布谷 知夫

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤C)「博物館が提供する『学び』の体系化と社会的役割」研究代表者(2004～2005年度)
- ・科学研究費補助金(基盤B)「半栽培(半自然)と社会的しくみについての環境社会学的研究」研究分担者(2005～2007年度)

中島 経夫

- ・(財)世界自然保護基金ジャパン「琵琶湖流域の魚類分布情報のGIS化」研究代表者(2004～2006年度)
- ・国立歴史民俗博物館「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合研究」研究分担者(2005～2007年度)
- ・総合地球環境学研究所「東アジアの新石器化と現代化」研究分担者(2005～2011年度)
- ・全国科学系博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会(国立科学博物館)「地域子ども教室推進事業」研究代表者(2004～2006年度)

嘉田由紀子

- ・カーネギー財団「環境政策における価値観：日米中印4カ国比較」研究代表者(2000～2005年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「環境保全における地域システムの役割ーコモンズ論・公共性論・生活環境主義の再検討を通してー」研究代表者(2002～2005年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「人類学的視点から見る環境保全」研究分担者(2000～2005年度)
- ・滋賀県湖西地域振興局「湖西の魅せ方フィールドワーク委託事業」研究代表者(2004～2005年度)
- ・地球環境基金助成事業「子どもと川のかかわりの再生」研究代表者(2003～2005年度)
- ・近畿地方整備局委託事業「三世代交流型河川調査」共同研究者(2003年度～2005年度)

牧野 久実

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤A)「イスラエル国ガリラヤ湖周辺の宗教文化についての総合研究」研究分担者(2004～2006年度)

大塚 泰介

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「河床生態系における微生物ループと生食連鎖とのリンク」研究分担者(2004～2006年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究」研究分担者(2004～2006年度)

矢野 晋吾

- ・科学研究費補助金(基盤B)「半栽培(半自然)と社会的しくみについての環境社会学的研究」研究分担者

牧野 厚史

- ・文部科学省科学研究費補助金(萌芽研究)「コモンズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」研究代表者(2004～2005年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「半栽培(半自然)と社会的しくみについての環境社会学的研究」研究分担者(2005～2007年度)
- ・滋賀大学環境総合研究センター「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモンズの変容に関する学際的研究」研究分担者(2005年度)
- ・関西大学院21世紀COEプログラム「幸福のフィールドワークー実存と実践の比較社会学的方法の確立をめざしてー」研究分担者(2003～2007年度)

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費補助金(若手研究B)「カワウの物質輸送が森林昆虫相に与える影響の解明」研究代表者(2004～2005年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(萌芽研究)「コモنزとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」研究分担者(2004～2005年度)
- ・河川環境整備財団河川整備基金助成「水域から陸域へのカワウの物質輸送が流域森林の昆虫相に与える影響」研究代表者(2004年～2005年)

中井克樹

- ・地球環境研究総合研推進費「侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」参画研究(2004～2005年度)

宮本真二

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤C)「完新世における琵琶湖水位変動過程の復元」研究分担者(2003～2006年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(若手研究B)「自然環境の変遷と人間活動の対応関係に関する解明」研究代表者(2005～2007年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤A)「南部アフリカにおける「自然環境-人間活動」の歴史の変遷と現問題の解明」研究分担者(2005～2007年度)
- ・滋賀大学「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する学際的研究」研究分担者(2005年度)
- ・総合地球環境学研究所「東アジアの新石器と現代化：大河水系の環境利用史」研究分担者(2005～2011年度)

マーク J. グライガー

- ・Carlsberg Foundation Grant (Denmark) 「Biologi og morfologi af "Y" larver: Et 100 år gammelt mysterium」研究分担者(2003～2005年度)

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤C)「後期更新世における動植物相の変遷と旧石器文化の関係解明のための学際的研究」研究代表者(2005～2006年度)

## (6)琵琶湖博物館研究発表会

琵琶湖博物館では、博物館の研究活動を県民の方々にご理解いただくために、毎年、テーマを決めて研究発表会を開催している。今年度は、総合研究の成果について発表した。

### 1)第7回研究発表会

- ・テーマ：総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-環境史に関する研究」の成果
- ・開催日時：2005年11月20日(日)13:00-16:50
- ・会場：琵琶湖博物館ホール
- ・対象：中学生以上(事前申し込み不要)(参加者110名)
- ・参加費：無料
- ・開催趣旨：博物館開館以来行ってきた総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした-環境史に関する研究」の成果を発表した

### 【プログラム】

- ① はじめに 川那部浩哉(琵琶湖博物館館長)
- ② 琵琶湖のコイが来た道 中島経夫(琵琶湖博物館)
- ③ 人は何をよりどころに琵琶湖のまわりにすみついたのか-環境考古学からの新しい縄文観- 内山純蔵(総合地球環境学研究所)

- ④ 人間は自然と共生できるのか 福澤仁之（首都東京大学）
- ⑤ 魚は銭になった ー十五世紀におけるコイ科魚類の消費実態ー 橋本道範（琵琶湖博物館）
- ⑥ 水辺は誰のもの ー生活環境としての水辺の再検討ー 牧野厚史（琵琶湖博物館）
- ⑦ 総合討論 進行：牧野厚史
- ⑧ おわりに 高橋啓一（琵琶湖博物館）

## （7）特別研究セミナー

**第 39 回** 2005 年 6 月 9 日（木） 午後 2 時～4 時 琵琶湖博物館会議室

講演：北村美香氏（京都橘大学大学院文化政策学研究所）

「博物館における広報・マーケティングの実態とその役割ー琵琶湖博物館を事例としてー」

**第 40 回** 2005 年 10 月 18 日（火） 午前 10 時～午後 5 時

「記憶の保存と博物館」

受付：9 時 30 分～10 時

午前 10 時～12 時

ワークショップ

ファシリテーター：ヴィヴ・ゴールドディング（レスター大学博物館学講師）

「五感を使ったメモリーワーク」

午後 1 時 開会あいさつ（趣旨説明）

午後 1 時～2 時 30 分

講演：ヴィヴ・ゴールドディング

「無形文化とシティズンシップ（市民性）の形成：記憶，想起，オーラル・ヒストリー（口述史）」

午後 2 時 45 分～3 時 30 分

話題提供：上田洋平（滋賀県立大学）

「こころのふるさと 心象図屏風」

午後 3 時 30 分～4 時 15 分

話題提供：布谷知夫（琵琶湖博物館）

「有形と無形 博物館の可能性」

午後 4 時 15 分～5 時

総合討論

**第 41 回** 2005 年 11 月 13 日（日） 午後 2 時 30 分～4 時 20 分 琵琶湖博物館セミナー室

琵琶湖博物館の研究紹介：中島経夫（琵琶湖博物館上席総括学芸員）

「コイ科魚類から湖と人間の関係性を探る」

講演：サイモン・アッシャー・レヴィン氏（プリンストン大学生物複雑性研究センター所長）

「集団の生態学と進化-その視点から人間社会を見る-」

**第 42 回** 2006 年 2 月 8 日（水） 午後 2 時～4 時 琵琶湖博物館セミナー室

ビデオ鑑賞

講演：中藤容子（琵琶湖博物館学芸員）「近江の麻の伝統的な利用について」

黒澤誠司（京都法律事務所弁護士）「大麻に関わる法律の精神について」

田口龍治（岐阜県産業用麻協会）「現代の麻利用の状況について」

**第 43 回** 2006 年 3 月 1 日（水） 午後 2 時～4 時 30 分 琵琶湖博物館セミナー室

講演：保原 達（酪農学園大学環境システム学部）「カワウ営巣林における栄養バランスの変化」

溝田智俊（岩手大学農学部）「鳥類が運ぶ窒素の土壌地球化学」

亀田佳代子（琵琶湖博物館）「カワウの営巣が森林の甲虫群集に与える影響」

## (8) 研究セミナー

毎月第3金曜日に、研究セミナーを開催した。

### 第1回 (4月15日)

ロビン J. スミス 「Podocopid Ostracoda: Taxonomy and Ontogeny -a review of my previous research」

芳賀裕樹 「2001 - 2003 年の沈水植物の分布調査の総括」

戸田 孝 「合併市町村での公立博物館のWeb発信」

### 第2回 (5月20日)

牧野厚史 「環境再生と住民組織 -琵琶湖湖岸域の環境再生事業」

牧野久実 「丸子船の舳先の形状について」

高橋啓一 「ミエゾウの頭骨をどのようにして掘り出したの -共同研究『古琵琶湖復元』1年目の成果 -」

### 第3回 (6月17日)

中島経夫 「アジア総研のこれまで」

前畑政善 「内湖の魚類の現状 -マキノ町の調査から (中間報告) -」

里口保文 「古琵琶湖層群上部と上総層群上部の火山灰層対比」

### 第4回 (7月15日)

八尋克郎 「ミトコンドリアDNAに基づくドウキョウオサムシの系統的位置づけの解明」

草加伸吾 「伐採による硝酸流出を少なくするには -斜面伐採実験区における検討(中間報告) -」

藤田裕子 「北部ラオス、稲作と水田藻類との関係を探る」

### 第5回 (8月19日)

亀田佳代子 「カワウの営巣が森林の甲虫類に与える影響」

用田政晴 「山岳寺院1の近世的展開事例 -悉寺院と松尾寺の梵鐘 -」

堀田桃子 「マイクロサテライトDNA分析によるトウヨシノボリ4色斑型の遺伝的特性」

### 第6回 (9月16日)

宮本真二 「花粉流入量からみた北陸地域における最終氷期以降の植生変遷」

楠岡 泰 「インターネットを活用したプランクトンの図鑑および展示の製作」

榊永一宏 「アジアにおける溪流性アジナガバエの系統生物地理」

### 第7回 (10月21日)

山川千代美 「古琵琶湖層群産の後期鮮新世の化石林について」

布谷知夫 「エコミュージアムとは博物館なのだろうか」

マーク J. グライガー 「Hormone-induced metamorphosis of cypris y from Okinawa into a new, so-called "ypsigon" stage, and remarks on the last naupliar molt (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta)」

### 第8回 (11月18日)

中井克樹 「希少魚類に対する外来魚の影響 -各県版のレッドデータブックから -」

松田征也 「外国産淡水生貝類2種類の現状と課題について」

橋本道範 「魚は銭になった -十五世紀におけるコイ科魚類の消費実態 -」

### 第9回 (12月16日)

杉谷博隆 「滋賀県における生物多様性直接支払い制度について」

孝橋賢一 「北湖でみられるエリ網付着物の増加原因をさぐる -とくに琵琶湖湖岸の魚類相の変化に着目して -」

秋山廣光 「博物館に於ける静止画資料の整理と利用 -IV」

## 第10回 (1月20日)

谷口雅之 「琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携の在り方をさぐるⅢ」

中藤容子 「現代社会に対して博物館学芸員はいかに貢献していけるかー琵琶湖博物館の民具資料をめぐる実践と可能性ー」

大塚泰介 「南湖の淡水湖沼底を覆う藻被より得られた珪藻」

## 第11回 (2月17日)

武部 強 「『滋賀県多自然型川づくり』の評価について」

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・来見誠二 「河川残留型を含むピワマス地域個体群存在の可能性」

金子修一 「ケヤキ苗木生産に関する研究」

## 第12回 (3月24日)

中村公一 「琵琶湖博物館での体験学習プログラム開発ー貸し出し標本の利用についてー」

野嶋宏二 「日本列島・浜松市引佐町谷下産中期更新世 (MIS 9) の絶滅した未記載種化石フナ」

水野敏明 「保全すべきところはどこなのか?ー魚から見る水路環境の特性ー」

## (9) 研究員の受け入れ

### ・水野敏明

2005年3月1日～2006年3月31日

テーマ：市民参加による魚類分布情報を指標とした淡水生態系の統合的なリスク評価

### ・堀田桃子

2005年4月1日～2006年3月31日

テーマ：マイクロサテライトDNAによるトウヨシノボリの色斑型及び地域集団間の集団遺伝学的研究

### ・野嶋宏二

2005年4月1日～2006年3月31日

テーマ：日本列島中部更新統フナ化石（静岡県引佐町谷下層産）と琵琶湖産フナの形態（鰓蓋骨、咽頭歯）比較研究

### ・藤田裕子

2005年4月1日～2006年3月31日

テーマ：水田に生息する微細藻類の生態学的研究

## (10) 海外交流活動

### 1) 研究に関する国際用務

#### ・榊永一宏

2005年8月18日～9月2日 琵琶湖博物館共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化学的研究」にかかる調査研究。中華人民共和国北京市，広東市

#### ・宮本真二

2005年8月4日～8月16日 科学研究費(若手研究B)「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」に係る研究調査。インドアルナチャール州ジロ村

2005年9月1日～9月14日 科学研究費(若手研究B)「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」に係る研究調査。台湾台北，宜蘭，鳳山

2005年11月19日～12月21日 科学研究費補助金(基盤研究A)「南部アフリカにおける『自然環境ー人間活動』の歴史の変遷と現問題の解明に関する研究」に係る研究調査。レソト王国，ナミビア共和国，イギリス

#### ・川那部浩哉

2005年10月28日～11月6日 世界湖沼会議出席。ケニア国ナイロビ

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

2005年度は、昨年度に引き続き、常設展示の展示物や情報機器の更新、展示手法の改善を行い、常設展示の内容を発展させた関連事業を行った。また、次のような企画展示、企画展関連展示、ギャラリー展示、トピックス展示を開催し、関連事業を展開した。

#### (1) 常設展示の主な更新

##### 1) A展示室

特になし

##### 2) B展示室

「長浜駅舎」 長浜駅舎が県の文化指定を受けたことを示すパネルを追加展示 (用田 2005 / 4 / 4)

「漁師の家」 おこないの料理を中心に展示 (用田、中藤、國分 2005 / 4 / 18)

「輸送の主役 丸子船」 提供資料 (船大工道具と船材の一部) を追加展示 (牧野(久) 2005 / 6 / 17)

「長浜駅舎」 提供資料 (早舟の模型) を展示 (牧野(久) 2005 / 6 / 26)

「漁師の家」 漁具データベースを映像に変更 (中藤) 2005 / 11 / 29)

##### 3) C展示室

「富江家」 展示交流員のフィールド見聞録 (富江家のあった本庄を訪れた時の記録をパウチして富江家内のテーブル上に展示) (榊永、展示交流員 2005 / 4 / 21)

「生き物コレクション」 取り出して見ることの出来る植物標本を「多雪地の植物」の引き出しに追加。(草加 2005 / 6 / 13)

「琵琶湖地方の生き物情報」 オサムシの企画展にあわせて、昨年行ったセミ調査の結果を展示 (楠岡・フィールドレポーター 2005 / 7 / 16)

「生きものコレクション」 河港課共催ギャラリー展示の模型を使って展示更新 (草加 2005 / 8 / 9)

「農村の暮らし」 展示交流員が富江家のある本庄町を訪問した成果の紹介 (展示交流員・榊永 2004 / 12)

「魚類の標本の一部」 愛知万博へ貸し出し (武部 2005 / 1 / 17 ~ 2005 年秋まで)

「生き物コレクション」 回る展示台の一つを「ゆきむし」展示に更新 (八尋 2005 / 2 / 1)

##### 4) 水族展示室

「黄色ナマズの展示」 (松田 2006 / 2)

##### 5) 屋外展示

特になし

##### 6) ディスカバリー・ルーム (芦谷・荒井・磯野・堀田)

「ミクロの目」 「咽喉歯を見つけてみよう」に更新 (2005 / 7 / 1)

「ミクロの目」 カイミジンコの展示「本物の貝はどれ？」に更新 (2005 / 9 / 21)

「ミクロの目」 「火山活動によって出来た岩石」に更新 (2005 / 12 / 1)

「ミクロの目」 「イタチとテンのうんこ」に更新 (2005 / 12 / 6)

「動物のすみか」 イラストを更新 (2005 / 4 / 1)

「生物水槽」 メダカ展示 (2005 / 7 / 20)

「ブックコーナー」 「丸子船に使われている木」展示 (2006 / 3 / 21)

「おばあちゃんの台所」 こどもの日関連展示 (2005 / 4 / 18 ~ 5 / 18)

「おばあちゃんの台所」 ゆかた展示 (2005 / 7 ~)

「おばあちゃんの台所」 七夕展示 (2005 / 6 / 23 ~ 7 / 7)

「おばあちゃんの台所」 着物展示 (2005 / 9 ~)

- 「おばあちゃんの台所」 お正月展示 (2006 / 1 / 4 ~ 2006 / 1 / 14)
- 「おばあちゃんの台所」 ひなまつり関連展示 (2006 / 2 / 21 ~ 2006 / 3 / 3)
- 「世界の子どもたち フィンランド」 ビデオブース新番組「タロラ小学校の一日」追加 (2005 / 4 / 6)
- 「世界の子どもたち フィンランド」 フィンランドの夏休み展示 (2005 / 6 / 1 ~ 10 / 31)
- 「世界の子どもたち フィンランド」 フィンランドの冬休み展示 (2005 / 11 / 1 ~)
- 「音の部屋」 アジアの楽器展示 (2005 / 4 / 1)
- 「音の部屋」 南米の楽器に更新 (2005 / 5 / 6)
- 「音の部屋」 アフリカの楽器に更新 (2005 / 9 / 10)
- 「音の部屋」 日本の楽器に更新 (2006 / 1 / 4)
- 「ディスカバリーボックス」 けんけんけん玉Box展示 (2005 / 4 / 29)
- 「ディスカバリーボックス」 川原の石ころBox展示 (2005 / 6 / 5)
- 「ディスカバリーボックス」 カブトムシのお話Box展示 (2005 / 6 / 22)
- 「ディスカバリー・ボックス」 福笑い・すごろくBox (2006 / 1 / 4 ~ 2006 / 1 / 30)
- カウンター カイコ展示 (2005 / 6 / 22 ~ 2005 / 8)
- カウンター クワガタムシ展示 (2005 / 8 ~ 2005 / 9)
- カウンター オサムシ企画展関連オサムシの標本展示 (2005 / 7 ~ 2005 / 10)
- カウンター イボカイミジンコ展示 (2005 / 10 / 4 ~ 2006 / 1 / 20)
- カウンター 水棲昆虫標本展示 (2005 / 11 / 10 ~ 2006 / 3 / 31)
- カウンター アカハライモリの皮展示 (2005 / 11 / 24 ~ 2005 / 12 / 20)
- カウンター ヨコエビ展示 (2006 / 1 / 24 ~ 4 / 13)
- 展示関連イベント
- カウンター 良く見て作る「コイ」(2005 / 5)
- カウンター 良く見て作る「チョウ」(2005 / 6)
- カウンター かみしばい「かぶとむしのぶんた」(2005 / 7)
- カウンター 短冊に願い事を書こう (2005 / 7)
- カウンター オケラの水泳観察 (2005 / 8)
- カウンター 繭工作「俵ころがし」(2005 / 9)
- カウンター 繭工作「糸取り」(2005 / 10)
- カウンター お正月工作「色々なコマを作ってみよう」(2006 / 1)
- カウンター お正月工作「思い出してつくろう鏡餅」(2006 / 1)
- カウンター 節分の工作 (2006 / 1 / 28 ~ 2 / 3)
- カウンター ひな祭り工作「ひな人形を作ろう」(2006 / 3)



「世界の子どもたち フィンランド」 フィンランドの冬休み展示

## (2) 第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」

### 1) 概要

開催期間：2005年7月16日(土)～11月27日(日)(117日間)

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：大人400円(300円)／高校生・大学生300円(230円)／小学生・中学生200円(150円)

(カッコ内は20名以上の団体料金)

総観覧者数：合計80,171人 企画展入場率：36.2% 一日平均：685人

一日あたりの最高入場者数：2,348人(11月20日)

展示設計業者：(株)日展

館内担当者：主担当者 八尋克郎

副担当者 榊永一宏

担当者 孝橋賢一、桑原雅之

館外担当者：滋賀オサムシ研究会(武田 滋、藤本勝行、遠藤真樹、柴栄康雄、中川 優、杉野由佳)、

松尾 知、森永紗江子

### 2) 内容・特徴

#### ① 展示のテーマ

今回の企画展示では、地域の人たちとの共同研究「滋賀県のオサムシの分布」を基盤に、身近な自然に生息しているのに意外と知られていないオサムシにスポットをあて、「飛ばない昆虫」であることや「歩く宝石」と呼ばれる理由など、オサムシの思議な生態について紹介した。また、オサムシに魅せられたフェアブルなどの偉人についてもとりあげた。このようなオサムシの不思議さを感じる展示を見て、一人でも多くの方が身近な自然に興味を持って、今すぐにでもフィールド観察へ飛び出したくなるような展示を目指した。

#### ② 展示会の対象と手法

家族連れを対象としながら大人も子どもも楽しめるような展示とした。実物標本を多数展示するとともに、子どもたちが楽しく展示を体験できるような展示手法を用いた。

### 3) 展示項目

#### ① エントランス

オサムシが生息する夏の雑木林を再現した。ここでは生きたオサムシを観察したり、その他の雑木林にいる昆虫を探したりすることができるようにした。大木のウロをくぐると、いよいよ企画展の始まり。

企画展ファサード／プロローグ

#### ② オサムシの七不思議

自分もオサムシと同じ大きさになったような不思議な世界(50倍の世界)を作った。ここではオサムシの特徴を「七つの不思議」として詳しく紹介した。

オサムシアイ／オサムシをさがせ／レストラン／地をはう王者／オサムシのからだ／ひみつへーき／カレンダー

#### ③ フェアブル昆虫記の世界

オサムシに熱中した有名人の一人としてフェアブルを紹介した。ここでは、フェアブルが実際に昆虫の観察を行った視点を紹介した。フェアブルの昆虫の観察や実験を行った「アルマスの庭」を再現し、その中で『フェアブル昆虫記』の中に登場する様々なエピソードを紹介した。また、フェアブルの人形劇のビデオを上映した。

フェアブルについて／フェアブルの研究／アルマス劇場

#### ④ 昆虫をかこう！お絵かきワークショップ

達人ギャラリー：昆虫を表現することに秀でた4人の達人たち（山本勉さん、北村真由美さん、木村政司さん、杉野由佳さん）の絵を展示した。

六稜昆虫研究会：オサムシをペンネームにし、オサムシが大好きであった有名人の一人として手塚治虫を紹介した。手塚治虫がオサムシをペンネームにした理由を紹介した。また、手塚治虫の同級生の林久男さん所蔵の手塚治虫が少年時代に自作した図譜などを展示し、手塚治虫が少年時代は、昆虫に熱中してその自然観が漫画にも強い影響を与えたことを紹介した。

お絵かき展覧会：ここでは達人たちの絵や身近な昆虫、世界の宝石昆虫の標本を見ながら絵を描いたり、手塚治虫の作品を読んだりすることができ、昆虫を身近に感じることができるようにした。また、描いた絵は展示できるようにし、その描かれた絵の中から優秀な作品については表彰して展示した。

達人ギャラリー／六稜昆虫研究会／お絵かき展覧会

#### ⑤ オサムシ秘密

世界のオサムシ標本を展示し、飛べないはずのオサムシがどのように世界へ分布を広げたのか、また日本のオサムシの分布を豊富な標本で紹介した。

世界のオサムシ／日本のオサムシ／君はみわけられるか

#### ⑥ ひみつのトビラ

オサムシは種類ごとに交尾器の形が決まっている。そのことはよく「鍵と錠」に例えられる。標本を交えながら、交尾器が種類を見分ける手段であることや生殖的隔離の重要な役割となっていることを紹介した。

オサムシの交尾／見分けるための裏ワザ／達人のワザ

#### ⑦ 虫バカ日誌

滋賀県のオサムシの調査を行った滋賀オサムシ研究会のメンバーをとりあげ、紹介した。虫好きな人々ならではのおもしろエピソードを紹介することで、昆虫採集の魅力や、それに対する情熱などを伝えた。

七人の虫バカ／虫バカ列伝／虫バカからの挑戦状

#### ⑧ オサムシマップ

琵琶湖ベンチを中心にした滋賀県を表した空間。ここでは、地域の人たちと共同で、1996年から6年がかりでオサムシの県内生息分布調査を行った調査概要や成果、滋賀県のオサムシの分布状況を中心に紹介した。

調査の概要／オサムシアター／ワークショップ／調査の成果／今後の研究課題

#### ⑨ エピローグ

展示を見て昆虫に興味を持った人々を、野外へ誘うためのきっかけづくりのコーナー。オサムシトラップの仕掛け方やオサムシのいそうな場所の紹介など、実際に野外で役に立ちそうな情報を展示した。フィールドへ誘うために、昆虫に関する活動紹介、観察会の案内などを行った。

活動紹介／イベント案内／自然系施設案内／オサとりに行こう／オサムシ飼い方／オサムシ標本作り方／記念撮影コーナー／答え合わせコーナー／アンケートコーナー

### 4) 関連事業

関連事業については、開催前・開催の前期・中期・後期でマスコミで取り上げてもらえるように早くから戦略的に計画を考えた。その計画のもと合計11件の関連事業を実施した結果、5社6件のマスコミからの取材があり広報効果があった。人形劇は参加者も多く、またその多くが企画展を観覧することにつながり、導入の大きな役割を果たした。

① 人形劇「ふしぎな庭ーふしぎな庭で出会った少年とフェアブルー」人形劇団 おまけのおまけ

企画展のフェアブル昆虫記の世界に関連した人形劇。

場所：琵琶湖博物館会議室 11：00, 13：00, 15：00 の1日3回実施した。

- |     |                |     |      |
|-----|----------------|-----|------|
| 第1回 | 2005年 7月16日(土) | 参加者 | 270名 |
| 第2回 | 2005年 7月31日(日) | 参加者 | 260名 |
| 第3回 | 2005年 8月20日(土) | 参加者 | 219名 |
| 第4回 | 2005年 8月28日(日) | 参加者 | 174名 |
| 第5回 | 2005年10月23日(日) | 参加者 | 265名 |
| 第6回 | 2005年11月23日(水) | 参加者 | 222名 |

- ② 講演会「虫を通して世界を見る」 講師：養老孟司

日時：2005年9月3日(土) 13：00～15：30

場所：琵琶湖博物館ホール 参加者 220名

- ③ 観察会「ミドリセンチコガネを探しにいこう」 (詳細は「一般利用者へのサービス事業」に)

- ④ 「オサムシの模型を作ろう」 (詳細は「一般利用者へのサービス事業」に)

- ⑤ 「オサムシの標本を作ろう」 八尋克郎、佐々木剛、広谷ちひろ・北村美香 (琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」)

2005年8月12日(金) 参加者 16名

場所：企画展示室「七人の虫バカ」コーナー

- ⑥ 「オサムシの絵本を作ろう」 八尋克郎、青木伸子、おおすみまさこ (絵本作家)、石川寛子・広谷ちひろ (琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」)

2005年8月25日(木) 参加者 15名

場所：企画展示室「七人の虫バカ」コーナー

- ⑦ 「昆虫の絵画教室」 講師：木村政司 (日本大学)

2005年10月9日(日) 参加者 20名

場所：企画展示室「お絵かき展覧会」コーナー

- ⑧ 「夏休み自由研究講座」(昆虫コース) (詳細は「一般利用者へのサービス事業」に)

- ⑨ 画展関連講座「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」 (詳細は「一般利用者へのサービス事業」に)

- ⑩ 観察会「真冬の昆虫採集」 (詳細は「一般利用者へのサービス事業」に)

- ⑪ 「第2回里山保全特別講演会」 日本鱗翅学会近畿支部、日本昆虫学会近畿支部、琵琶湖博物館共催

2005年10月30日(日)

・アサギマダラの驚くべき飛翔能力! 金沢至 (大阪市立自然史博物館)

・オサムシの不思議 八尋克郎 (滋賀県立琵琶湖博物館)

・ドングリの木と虫との不思議な関係 寺本憲之 (滋賀県)

・イノシシの不思議 高橋春成 (奈良大学)

・愛知川河辺林の生きものの不思議 南尊演 (滋賀県立八幡高校)

参加者：約100名

場所：琵琶湖博物館ホール

## 5) 企画展示インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/osamusi/index.html>)

企画展の広報宣伝を目的に、企画展独自のホームページを開催前年度の2004年10月11日に立ち上げた。「トップページ」は合計12,319件のアクセス記録があった。主なページでは「オサムシ入門」が7,040件、「きまぐれ日記」が4,222件、「お絵書きギャラリー」が4,587件、「こんな企画展です」が3,330件、「関連イベント」が621件、「オサムシ調査」が599件、「オサムシに魅せられた人々」が593件のアクセスが

あった。2004年10月からディスカバリールームで書いた絵をホームページ上（「お絵描きギャラリー」）で公開した。ホームページに掲載されるということで絵を描かれた方も多く、開催前に企画展のことを知ってもらうことにつながった。

## 6) 受賞

「ディスプレイデザイン賞2006」に入選



「オサムシレストラン」コーナー



「オサムシマップ」コーナー

### (3) 企画展関連展示「飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー」

#### 1) 概要

開催期間：2005年7月16日（土）～11月27日（日）

開催場所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

観覧料：常設展示観覧料に含まれる。

担当者：桑原雅之、孝橋賢一

#### 2) 内容

壁全体を雑木林の写真で被うことによって、オサムシが潜んでいそうな雰囲気を作り出し、展示室の中央には、自由にオサムシふれてもらえるコーナーを設けた。また県内のオサムシ、北海道の美麗種や形のおもしろい外国種などを展示し、そのくらしや採集方法、飼育方法、種の見分け方などを紹介することによって、すぐにでも野外へ出て、採集に行きたくなるような展示を目指した。

#### 3) 展示した生物

滋賀県産オサムシ：シガラキオサムシ、ヤコンオサムシ、オオオサムシ、クロナガオサムシ、アキタクロナガオサムシ、マイマイカブリなど

北海道産オサムシ：オオルリオサムシ、アイヌキンオサムシ、オシマルリオサムシなど

外国産オサムシ：パイオリンムシ、シナカブリモドキなど

### (4) ギャラリー展示

#### 1) 「淡海の川ー水害、そして川とともに生きるー」

期間：2005年4月23日（土）～6月26日（日） 計57日間

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧者数：計33,525人

主催：琵琶湖博物館・滋賀県土木交通部河港課

協力：名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・子ども流域文化研究所

担当者：武部 強、牧野厚史、杉谷博隆、谷川真紀

施工：株式会社西尾製作所

## ① 内容・特徴

日本各地で毎年大きな水害が発生しています。幸い滋賀県では最近大きな水害は起こっていませんが、昭和 28 年の 13 号台風や昭和 34 年の伊勢湾台風など昭和 20 年代から昭和 40 年代は何度も大きな水害に見舞われてきました。しかし、この 30 年間、大きな水害は全くといっていいほど起こらなくなり、多くの人びとにとって、“もう水害は過去のこと”と危機意識が薄れつつあるように見うけられます。

たしかに過去の水害をきっかけとして多くの川で治水工事が行われ、水害に対する安全性は向上しましたが、本当に安全と言えるのでしょうか。実は過去に大きな水害をもたらしたような大雨がこの 30 年間は降っていないのです。

—もし、大雨が降って川が氾濫したら— 私たちは過去の水害を見つめなおし、しっかりと記憶にとどめておかなければなりません。一方、日常のくらしから川を振りかえると、今から 30～40 年前まで川は人びとのくらしに密着した存在でした。人びとは川を利用することで自然と深くかかわりあい、自然に対して畏敬の念を持ちながらくらししてきたのです。現在では蛇口をひねればいつでもきれいな水を手に入れることができるようになり、直接川を利用することはあまり無くなりました。しかし、そのことによって、川は私たちから遠い存在になったのではないのでしょうか。

また、川は人間以外のさまざまな生き物—魚類や昆虫、ほ乳類、植物など—にとってかけがえのない住み家でもあります。水域と陸域の両方の環境をあわせもつ川は近年、豊かな自然として人びとに強く意識されるようになってきています。

—水害・利用・自然— 川にはさまざまな側面がありますが、川に対する人びとの意識もさまざまです。

今回のギャラリー展では過去の大きな水害を地域の人々がどのように経験してきたのかを中心に、その利用や自然もふくめ、淡海の川を広く紹介します。身近な自然である川に目を向け、水害の経験に学びながら、私たちが川とどのようにつきあっていくのかを一緒に考える機会となるよう行いました。

## ② 展示項目

(ア) なぜ、水害は起こるのか —氾濫原に住んだ人びと—

水稲栽培を主体とした弥生時代以降、人びとは生活用水・農業用水を求めて水辺近く(=氾濫原)に定住しました。人が定住する以前の氾濫原と高度に利用されている現在の氾濫原を模型で対比的に再現することにより、水害は日本人の宿命であり、現代の豊かな生活も潜在的に水害の危険性をはらんでいることを紹介しました。

また、天井川の形成過程の模型や開発に伴い雨水の流出が増加することを実験模型を用い展示するとともに堤防の破堤の様子を再現する模型実験を行いました。

(イ) 水害の記録と記憶

過去の大水害を取りあげ、水害時の写真と同一箇所の現在(日常)の写真を対比できるようにするとともに被災者の語り(音声)を流すことで、できるだけ水害を身近な生活の場での出来事であることが実感できるような展示としました。

(ウ) 空からみた淡海の川

床面に滋賀県の航空写真パネルを設置し、河川流域が実感できる展示としました。また、この空間で来館者から水害体験についての聞き取りを実施し掲示するとともに水害体験箇所を床面航空写真に記録していくことで、身近な地域の川の水害情報を発信することができました。

(エ) 今の川は安全か

昭和 20～40 年代とそれ以降の水害と降水量を比較し、この 30 年間大水害が発生していないのは、滋賀県ではたまたま強い雨が降っていないだけであることを紹介しました。

(オ) 生き物のすみか

県内の河川（日野川）の環境情報図に生物写真を加えた写真パネルで展示し、川には多種多様な生物が生息していることを紹介しました。

(カ) 人びとと川のかかわり

昭和30年代以前と現代におけるくらしと川の関わりを対比した写真パネルを展示し、人びとのくらしと川のかかわりの変化を紹介しました。

(キ) これからの川を考える

現在、川づくりは、治水・利水・環境を目的に進められています。これらの目的を総合的に実現するための問題点や苦慮していることを、県内の川づくり4事例をもとにその取り組みも含め紹介しました。

(ク) 少しでも水害を防ぐために

氾濫原に住む以上、水害をゼロにすることは不可能です。洪水が起こってもそれが水害とならないよう、あるいは少しでも水害を減らすよう一人ひとりが水害の危険性を認識し、日ごろから防災意識を高めておくことが重要です。ここでは、「自分で守る」、「みんなで守る」、「社会で守る」の3段階の対応策をパネル展示で紹介しました。

また、伝統的な河川工法や土のうを使った水防工法を実物大で展示しました。

③ 関連事業

(ア) 「水害を語りつぐ～被災者の体験談に耳を傾けて～」

過去の大きな水害を地域の人々がどのように経験してきたのか、実際に水害を体験された方々をお招きし、生の声をお聞きする機会を設け、将来の備えについてお話ししました。

会場：琵琶湖博物館 企画展示室

日時：2005年4月29日(金・祝)

11:00 「多羅尾豪雨について」 甲賀市(大戸川)大杉恵美子さん

13:30 「昭和28年13号台風について」 高島市(安曇川)白井豊七さん

主催：琵琶湖博物館・滋賀県土木交通部河港課

協力：子ども流域文化研究所

(イ) 車座会議「あなたの川、知っていますか？ー水害に強い地域社会づくりにむけてー」

この会議では、滋賀県内の水害に遭われた経験者のお話を伺い、その経験を若い世代や子どもたち、また新住民の方たちにどのように伝えることができるのか、今後の方向について、皆でともに考える場を設けました。多くの皆さんが関心をもって、その気になって参加できるように「車座会議」方式で、皆で円座をつくり、意見交換をしました。

日時：2005年6月4日(土) 13時～17時

場所：琵琶湖博物館 セミナー室

主催：琵琶湖博物館・滋賀県土木交通部河港課・水と文化研究所

共催：子ども流域文化研究所

後援：国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所・京都精華大学・立命館大学理工学振興会

プログラム

全体進行：武部 強(琵琶湖博物館、滋賀県土木交通部河港課)

主旨説明：植田 彰(滋賀県土木交通部河港課)

基調講演：片寄俊秀(関西学院大学)「まちづくりと『しのぎの防災システム』」

小テーマ「水害体験の語りと伝達」進行：小坂育子(子ども流域文化研究所)

水害経験者の語り／子どもたちの河川、水害学習から

高島市(安曇川)白井豊七さん

甲賀市(大戸川)大杉恵美子さん

守山市(野洲川)山本富夫さん

高島市立安曇小学校/安曇川リバーウォッチング

甲賀市立多羅尾小学校の水害学習から

守山市立速野小学校の水害学習から

小テーマ「川を知る住民と行政の活動現場から」進行：牧野厚史(琵琶湖博物館)

「千丈川の水害・治水とホテルの保護」大津市(千丈川)荒井紀子さん

「淡海の川づくり会議活動から」湖南市(野洲川)野洲川に親しむ会

「住民自治の防災活動から」野洲市(日野川)山本徳治朗さん

「行政が準備している防災/減災の政策から」寺田建吉(滋賀県土木交通部河港課)

全体車座会議 進行：嘉田由紀子(京都精華大学、琵琶湖博物館)

全体コメント：谷本光司氏(国土交通省近畿地方整備局河川部長)



堤防破堤実験



水害聞き取り



車座会議

2)「タガベエのため池探検一人と歩む歴史と未来」

期間：2005年12月23日(金・祝)～2006年2月26日(日)計51日間

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧者数：30,187人(一日平均 592人)

(同期間の博物館入館者数の67%がギャラリー展を観覧)

主催：琵琶湖博物館・滋賀県農政水産部農村振興課

後援：水土里ネット滋賀(滋賀県土地改良事業団体連合会)

担当者：杉谷博隆、布谷知夫、牧野厚史、武部強、谷川真紀

施工：株式会社西尾製作所

### ① 開催主旨

「ため池」の持つさまざまな魅力をつたえるとともに、もう一度、「ため池」を中心とした里山のあり方、人と自然の新たなかかわりかたを、来館者の方々と考えてみることを目的に開催した。

### ② 展示概要

#### (ア) アトリウム

イラストレーター安齋肇さんのデザインによるマスコットキャラクターのタガメの「タガベェ」と一緒に、昔、ため池をつくるときにおこなった「地搗き」体験を実施。

#### (イ) ため池の生き物たち

滋賀県の主なため池における生物調査結果を、静止画・動画・レプリカ・標本・細密画などで紹介。

#### (ウ) ため池の歴史と文化

ため池築造の歴史を、先人達の苦労や水を公平に分配する工夫、ため池における漁法・祭礼をとおして紹介。

#### (エ) ため池体験コーナー

昔の木樋、現在の取水施設（斜樋等）等を展示し、実際に触れて操作できる展示とした。

#### (オ) ため池をとりまく課題

廃止されたり、管理放棄されたため池を取り巻くさまざまな問題を提起。

#### (カ) これからのため池

ため池の多面的機能を守るために、ため池を中心とした里山に人のにぎわいを取り戻すことを目的とした、新しい行政施策の紹介。

#### (キ) 世界のため池事情

インド、スリランカなどで見直される伝統的な「ため池」水利用の事例について紹介。

#### (ク) 田んぼだいすきふるさと農村子供絵画コンクール

平成17年度に実施した上記絵画コンクールの入選作品を展示。

#### (ケ) ため池情報デスク

「ため池探検手帳」の答え合わせをおこなうとともに、生き物ペーパークラフトに挑戦できる場所を提供した。また、メッセージカードへの記入もできる場所とした。

#### 「ため池探検手帳」

今回の展示では、小さな子ども達にも展示を楽しみながら「ため池」の大切さを理解してもらえるように、クイズラリー方式の「ため池探検手帳」を準備した。展示のなかにあるヒントを見つけながら7つのクイズを解けば、マスコットキャラクター「タガベェ」をデザインしたオリジナル缶バッジがもらえる仕組みとした。

### ③ 関連行事

ギャラリー展示開催中の1月21日に、ため池を中心とした里山保全の課題と大切さを理解していただくことを目的に、琵琶湖博物館ホールにおいて「ため池里山人のにぎわいフォーラム in しが」を開催した。



タガベエとオープニング

#### (4) トピック展示

##### 1) A展示室

コレクションギャラリー「古代の象の歯の化石展示」(高橋 2005/5/12～9/4)

##### 2) B展示室

蔵ケース 「木造船模型展示」(中藤、牧野久、國分 2005/4/18～7/19)

蔵ケース 「紙の王様 雁皮紙」(橋本、太田 2005/7/20～9/4)

##### 3) 水族トピック展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

- ・「イサザ」 (桑原 2005/4/19～5/8)
- ・「ハリヨの稚魚」 (松田 2005/6/7～19)
- ・「アオバラヨシノボリの稚魚」 (桑原 2005/6/21～7/10)
- ・「ムサシトミヨの未成魚」 (松田 2005/7/12～8/7)
- ・「スジシマドジョウ小型種琵琶湖型の未成魚」 (松田 2005/8/9～9/4)
- ・「天然記念物 ミヤコタナゴの未成魚」 (松田 2005/9/10～10/2)
- ・「産卵期を迎えた カネヒラ」 (松田 2005/10/4～16)
- ・「ボタンウキクサ」 (松田 2005/10/16～30)
- ・「琵琶湖固有亜種 ビワマスの卵と稚魚」 (桑原 2005/12/20～2006/2/19)
- ・「ヒナモロコ」 (松田 2006/2/21～3/12)
- ・「ハリヨの稚魚」 (松田 2006/3/14～4/2)

#### 展示交流事業

##### (1) 水族展示の交流

水族展示では、2005年度も例年通り当日の来館者を対象として、当館最大の水槽であるトンネル水槽(沖合・岩場水槽)やチョウザメ類、ガーパイク類などの古代魚を展示している水槽(古代魚水槽)、およびカイツブリ水槽(水辺の鳥)において展示交流を行った。トンネル水槽では、水族飼育員が潜水し、展示交流員と水中マイクを使って会話しながら、魚の解説や風船などを使った簡単な実験を行った。古代魚の水槽では、チョウザメ類やガーパイク類に餌を与え、種類ごとの餌の違いやとり方の違いを解説した。また、カイツブリ水槽では、餌を与えてカイツブリが水中にもぐって餌を探したり、それを捕らえる様子を来館者に観察していただきながら、この鳥の体のしくみや生態についてわかり易く解説した。

「水族飼育員と話そう」の内容

月	日	内 容	参加者 (名)	担当 飼育員	補助飼育員〔展示交流員〕
4	5	カイツブリへの給餌と解説	40	布施	岡田(隆)・右川
	13	古代魚への給餌と解説	10	右川	柴山
	20	トンネル水槽潜水通話	40	丸尾	柴山・布施・岡田(勇)・〔広谷〕
	21	カイツブリへの給餌と解説	25	岡田(隆)	柴山・布施・丸尾
5	10	古代魚への給餌と解説	20	柴山	右川
	13	カイツブリへの給餌と解説	60	布施	柴山・岡田(隆)・丸尾
	17	トンネル水槽潜水通話	50	丸尾	柴山・布施・〔本田〕
	24	カイツブリへの給餌と解説	10	岡田(隆)	柴山・布施・丸尾・安永
	31	古代魚への給餌と解説	30	右川	柴山
6	10	カイツブリへの給餌と解説	15	布施	柴山・岡田(隆)・丸尾
	14	古代魚への給餌と解説	80	右川	柴山
	17	トンネル水槽潜水通話	40	丸尾	柴山・安永・〔今泉〕
	22	カイツブリへの給餌と解説	35	岡田(隆)	柴山・布施
7	6	古代魚への給餌と解説	50	柴山	右川
	12	カイツブリへの給餌と解説	25	布施	柴山・丸尾
	21	カイツブリへの給餌と解説	20	岡田(隆)	布施
	25	古代魚への給餌と解説	60	右川	柴山
	27	トンネル水槽潜水通話	30	丸尾	柴山・布施・安永・〔北川〕
8	1	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	柴山・岡田(隆)
	15	古代魚への給餌と解説	110	右川	柴山・安永
	22	カイツブリへの給餌と解説	50	岡田(隆)	布施・丸尾
	29	トンネル水槽潜水通話	60	丸尾	柴山・布施・安永・〔奥村〕
9	3	古代魚への給餌と解説	50	柴山	右川
	10	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	柴山・岡田(隆)
	13	古代魚への給餌と解説	70	右川	柴山
	21	カイツブリへの給餌と解説	50	岡田(隆)	布施
	30	トンネル水槽潜水通話	40	丸尾	柴山・右川・布施・〔荒井〕
10	4	カイツブリへの給餌と解説	50	布施	岡田(隆)
	12	古代魚への給餌と解説	70	柴山	右川・安永
	21	古代魚への給餌と解説	40	右川	柴山
	25	カイツブリへの給餌と解説	50	岡田(隆)	布施
11	8	古代魚への給餌と解説	40	柴山	右川
	11	カイツブリへの給餌と解説	25	布施	柴山・岡田(隆)
	17	カイツブリへの給餌と解説	45	岡田(隆)	柴山・布施・丸尾
	24	トンネル水槽潜水通話	25	丸尾	柴山・右川・〔初田〕
	29	古代魚への給餌と解説	50	右川	柴山・原口
12	3	古代魚への給餌と解説	60	柴山	右川
	7	カイツブリへの給餌と解説	5	布施	柴山・岡田(隆)
	13	古代魚への給餌と解説	40	右川	柴山
	16	カイツブリへの給餌と解説	10	岡田(隆)	柴山・布施
	20	トンネル水槽潜水通話	20	丸尾	柴山・安永・〔谷〕
1	4	カイツブリへの給餌と解説	60	布施	岡田(隆)・丸尾
	11	古代魚への給餌と解説	3	柴山	右川
	21	カイツブリへの給餌と解説	50	岡田(隆)	布施
	26	トンネル水槽潜水通話	25	丸尾	柴山・布施・〔前川〕
	31	古代魚への給餌と解説	30	右川	柴山
2	4	古代魚への給餌と解説	40	柴山	右川

	9	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	岡田(隆)・丸尾
	18	カイツブリへの給餌と解説	40	岡田(隆)	布施・丸尾
	22	古代魚への給餌と解説	25	右川	柴山
	23	トンネル水槽潜水通話	60	丸尾	柴山・岡田(隆)・布施・〔西山〕
3	2	古代魚への給餌と解説	38	柴山	右川
	4	カイツブリへの給餌と解説	40	布施	岡田(隆)
	9	トンネル水槽潜水通話	30	丸尾	吉田・柴山・布施・〔鴨田〕
	18	古代魚への給餌と解説	60	右川	柴山
	22	カイツブリへの給餌と解説	25	岡田(隆)	柴山
	28	トンネル水槽潜水通話	50	丸尾	豊田・柴山・布施・〔森〕

カイツブリとチョウザメへの給餌時間のお知らせ

2005年8月1日より、「カイツブリの餌やり」と「古代魚水槽の餌やり」の時間を固定化し、来館者に餌やり時間をお知らせするようにした。「水族飼育員と話そう」のような詳しい説明は行わないが、潜水して餌を捕まえるカイツブリの様子や、大きな口を開いて餌をかき集めて食べるヘラチョウザメのユーモラスな習性を来館者にご覧いただく機会を提供することができた。

## (2) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業を実施するに際しては、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成について、2ヶ月間の準備を行った。

本事業は、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力した。展示交流員は各自のテーマに沿って、展示だけの交流ではなく、化石に触ってもらう・自作の資料を見ってもらう等、来館者の興味を引き出す工夫も行った。

実施期間：2005年12月1日(木)～2006年3月31日(金)(日曜・祝日は除く)

実施人数：展示交流員 36名

実施回数：2005年12月 83回

2006年1月 77回

2006年2月 98回

2006年3月 97回 計355回

交流人数：計1,605名

### 「展示交流員と話そう」の内容

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A	芦田 弘美	トリの骨から見えるもの?	脊椎動物化石の研究
	杉本 和子	メタセコイア	植物化石の研究
	柳原 徳子	ストロマトライトー地球を酸素の星に変えた藻類ー	コレクションギャラリー
	澤井 秀之	鉱物は語る・岩石は語る	コレクションギャラリー
B	中村とく子	疎水を歩くー疎水の水を使った庭ー	治水への取り組み
	井出 範子	疎水の役割ー瀬田川洗堰ー	治水への取り組み
	犬塚 菊美	河の立体交差 田川カルバート	治水への取り組み
	折中 康子	瀬田の唐橋と龍宮へ行った男	古代の琵琶湖

	石川 寛子	弥生土器の文様	湖辺の縄文人の暮らし
	斉藤 文子	堅田漁港	漁師の暮らし
	村田 洋子	滋賀県内 朝鮮半島ゆかりの地	湖と古代の交通
C	荒井 紀子	ホテルが生息する水辺環境の変化	ホテルと人と環境と
	奥村 恵子	近江盆地を歩いてみよう	空からみた琵琶湖
	今泉 美保	沖島の暮らし	沖島の伝統食
	北川喜美榮	ヨシについて	ヨシ葺き屋根
	岩見 勉	農村の暮らしー「さおばかり」で体重を測ってみようー	農村の暮らし
	近藤 摩子	暮らしと信仰	農村の暮らし
	池畑 慎吾	思い出クイズ	わたしたちの暮らし 40年
	北田 昌子	オサムシの紙フィギュアをたのしもう	いきものコレクション
	木村 美枝	きのこを探そう	暮らしとむすびついた自然 いきものコレクション
	林 克子	琵琶湖の冬鳥を見ませんか	展望コーナー
	北村 美香	プランクトンを見てみよう	いきものコレクション
	広谷ちひろ	こんちゅうサイコロをつくろう	いきものコレクション
	本田 幸子	豊かな土壌づくりの主役みみずとダンゴ虫	水をはぐくむ森林
	吉岡 令	あおばなの不思議	農村の暮らし
	西山 順子	おばあちゃんの食(植)物学	農村の暮らし
	初田 幸穂	この木何の木?	農村の暮らし
前川 桂子	おいしい水	水をはぐくむ森林	
水族	吉田 治美	チョウザメ	世界の湖の魚たち 古代魚
	山元 真里	オスがいない??魚「ギンブナ」	おもしろい習性の魚たち
	愛須美由起	ソウギョとハクレン	外国から来た魚たち
	弓削 宣子	タガメの生活	里の生き物
	谷 芙沙子	タナゴ	おもしろい習性の魚たち
	森 智美	アユモドキ	少なくなった淡水魚
ディスカバリー・ルーム	橋本 富江	アカハライモリ いろいろ	水の中の生きもの

### (3) 来館者との交流会

来館者の多い夏休み期間は、8月8日(月)以外は休まず開館し、特別企画として開館の月曜日の午前10時に水族展示室バックヤードのミニガイドツアーを実施した。

#### 1) 水族展示室バックヤードのミニガイドツアー

ミニガイドツアーでは、水族展示のバックヤードを学芸員と水族飼育員が、通常は見学できない飼育設備や、魚の繁殖水槽、調餌室などを解説しながら来館者を案内した。

開催日と参加者人数

7月25日(月)	20人	8月1日(月)	34人
8月15日(月)	65人	8月22日(月)	20人
8月29日(月)	16人	参加者合計	155人

#### 4 体験と交流を促す博物館

##### 一般利用者へのサービス事業

##### (1) 観察会・見学会等

2005年度は、博物館内や県内とその周辺で行う博物館観察会15件、博物館の舞台裏を紹介する見学会1件の合計16件(合計25回)の事業を企画した。当該年度も他団体との協働・連携事業を多くすることをめざした。実際協働できた事業は9件(56.3%)と昨年(16件うち7件:43.8%)より2件増加した。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかったが、応募者が定員をかなり下回った事業が4件みられた。逆に応募者が定員を上回り、応募者を全員受け入れたり、抽選等で選んだ事業が4件見られた。各事業のタイトル、開催日、定員、当日の参加者数等は下表に示すとおりであった。

観察会実施結果一覧表

事業名	開催日	曜日	定員	参加者数	共催関係
タンポポと野草の観察会	4月24日 5月8日	日	30	延べ26	タンポポ調査2005・滋賀県実行委員会
身近な環境の魚たちを調べよう	7月3日～8月9日 (全9回)		30	延べ288	文部省子どもの居場所事業・WWFジャパン-ブリジストン生命の水プロジェクト、魚の会
漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう	7月23日	土	20	19	
川の生き物を調べてみよう	7月30日	土	30	20	多賀町立博物館
水辺の貝を調べてみよう	8月6日	土	30	7	
ミドリセンチコガネを探しにいこう※	8月7日	日	30	21	
化石観察会	10月2日	日	30	39	山内公民館六友館・甲賀市教育委員会
秋の木の実の観察会	10月16日	日	30	11	
ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	10月30日	日	20	23	百瀬漁協、南郷水産センター高島事業場
琵琶湖のヨシを観察してみよう	11月6日	日	30	中止	近江八幡市白王
朽木の秋、森のはたらきをのぞいてみよう	11月20日	日	25	16	朽木生き物ふれあいの里
秋の里山を歩こう	11月26日	土	30	25	カワセミ自然の会
下物の水鳥を観察してみよう	1月15日	日	30	61	日本野鳥の会・滋賀支部
真冬の昆虫採集※	12月11日	日	30	35	
水族展示の舞台裏	3月5日	日	40	124	
川虫探検	3月26日	日	30	30	

※ 2005年度企画展「歩く宝石オサムシ」の関連事業



「漁船に乗ってピワマス魚を見てみよう」  
当日琵琶湖でとれたピワマスの料理風景



「真冬の昆虫採集」虫探し

## (2) 博物館講座

### 1) 講座

当館が開催する講座は、大きく分けて①当該年度の企画展示に関連した講座(企画展示関連講座)、②研究部が主体となって実施する講座(研究部の講座)、③学芸員が専門テーマについて解説する講座(入門・専門講座)、④教員や地域の指導者等を対象とした講座(指導者向け講座)、⑤子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座の5つに区分できる。以下、これらの区分ごとに2005年度の事業実績を記す。

#### ① 企画展示関連講座 (担当：八尋克郎)

2005年度企画展示(第13回)「歩く宝石オサムシ」の主たるイベントの一つとして、中学生以上を対象として本企画展担当者が主体となり、外部講師も招請して開催した。なお、講座ではないが本企画展示に関連したイベントとして人形劇「ふしぎな庭ーふしぎな庭で出会った少年とフェアブルー」を開催し、子どもたちに好評を博した。

#### 企画展関連講座「歩く宝石オサムシ」 (全5回：定員20名)

回	開催日	講演タイトル	参加者数	講師
1	10月1日	オサムシの不思議な世界	25	八尋克郎(琵琶湖博物館)
2	10月8日	オサムシを分ける錠と鍵	14	高見泰興(京都大学)
3	10月15日	DNAからオサムシの系統進化を探る	14	曾田貞滋(京都大学)
4	10月22日	化石から地質時代のオサムシを調べる	19	林 成多 (ホシザキグリーン財団)
5	10月29日	飛ばない虫と飛ぶ鳥との遭遇ーカワウの営巣と森林甲虫類との関係ー	9	亀田佳代子(琵琶湖博物館)

#### ② 研究部の講座(担当：環境史領域研究グループ)

2005年度は環境史領域研究グループの学芸員が中心となり、中学生以上を対象として「琵琶湖地域をみんなて調べる実践講座」をテーマに全6回の連続講座を実施した。

参加者が琵琶湖の自然、歴史、人びとの暮らしなどさまざまな琵琶湖の魅力を自分たちで調べ、理解を深めるために、琵琶湖とその集水域に関連するいろいろな分野の講義と実習を行った。募集人数に対し、やや参加者が少なかった。

環境史領域グループ講座[琵琶湖地域をみんなで調べる実践講座] (全6回：定員50名)

回	開催日	講演タイトル	参加者数	講師
1	1月28日(土)	琵琶湖の民俗調査法	15	牧野久実
2	2月11日(土)	川の生き物調査法	19	中島経夫
3	3月4日(土)	田んぼの生き物調査法	18	楠岡 泰
4	3月11日(土)	琵琶湖の環境調査法	16	中井克樹
5	3月18日(土)	身近な暮らしの調査法	14	牧野厚史
6	3月25日(土)	琵琶湖地域の昆虫調査法	12	榊永一宏

③ 入門・専門講座

2005年度は、以下に示した2件の事業を実施した。個々の講座の内容を以下に記す。

○アジア考古学研究機構・連続講座Ⅱ「アジアと琵琶湖の考古学・民俗学」(担当：用田政晴)

アジアの視点から日本列島と琵琶湖を評価するために、昨年に引き続いてこれまでアジア考古学研究機構(AARI)が行ってきた調査研究の成果を2回にわたる連続講座として開催した。

回	開催日	内 容	参加者数	講 師
1	7月2日(土)	呪術と宗教ーアジアの精神を読むー	延26名	植田文雄(能登川町埋蔵文化財センター)
		ヨーロッパ植民地政策にみる城郭		中井 均(米原市教育委員会文化スポーツ振興課)
2	7月9日(土)	アジア文化遺産の諸相		山本一博(能登川町立博物館)
		琴湖と琵琶湖の比較湖沼文化		用田政晴(琵琶湖博物館)

○ 回転実験室で水槽実験を！(担当：戸田 孝)

C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行った。具体的には、水槽中央の排水口にできる渦が必ず実験室の回転の向きになることを確かめる実験と、水槽に牛乳などを垂らすとカーテン状になる実験(テラー柱の実験)を行った。

開催日	定 員	参加者数	講 師
8月2日(火)	15名	6名	戸 田 孝

④ 指導者向け講座(担当：谷口雅之・中村公一)

2005年度は、本講座をさらに充実させ、合計5回の講座を企画した。いずれも講座も申し込み数が少なく、定員割れしたが、参加者にはたいへん好評であった。

○ 先生のための川の生き物調査

本年度初の試みとして教師を対象に開催した。

開催日	定員	参加者数	共催関係
8月1日(月)	10名	5名	県教育委員会

○ 先生のための湖沼学基礎講座(担当:谷口・中村・芳賀)

本年度初の試みとして教師を対象に、湖の不思議や富栄養化の仕組みなど、琵琶湖の環境を考える上で必要な湖沼学のエッセンスを体験的に学ぶ講座を県教育委員会後援のもとで開催した。

開催日	内容	開催場所	参加者数	講師
7月28日(木)	・琵琶湖の模型づくり ・展示室にて世界の湖沼等の解説	実習室	延12名	芳賀裕樹 孝橋賢一 中村公一 谷口雅之
7月29日(金)	・プランクトン観察 ・水質検査等実習	実習室		
7月30日(土)	・湖上実習	琵琶湖		

○ 生き物飼い方講座(担当:谷口雅之・中村公一)

本年度も幼稚園、保育園、小学校の教師を主な対象に、魚、ザリガニ、カエルなどについて、それぞれの生き物の特徴や飼い方、増やし方について、実物と資料を提示しながら学芸員が解説した。参加者は多くはなかったが、たいへん好評であった。

開催日	内容	開催場所	参加者数	担当者
8月4日(火)	1)魚の飼い方 2)昆虫の飼い方 3)企画展解説	実習室 企画展示室	延20名	秋山廣光 八尋克郎
8月6日(木)	1)ザリガニの飼い方 2)カメの飼い方 3)水生昆虫の飼い方	実習室		前畑政善 桑原雅之 榊永一宏



魚の飼い方



水生昆虫の飼い方

○ 指導者のための博物館利用講座（※同内容：3回）（担当：中藤容子、中村公一）

琵琶湖博物館は「湖と人間」をテーマとした、環境学習や昔のくらし学習の絶好の場である。2005年度に初の試みとして、指導者を対象に子どもたちとともに学びたいポイントや活動例を民俗担当の学芸員が紹介した。

開催日	定員	参加者数	講師
12月10日(土) 2月25日(土)	各15名	延16名	中藤容子

○ 淡水魚類学専門講座(全4回) (担当：前畑政善)

本講座は、淡水魚のことを専門的に学びたいという方々（先生や地域のリーダー）を対象に昨年から設けたものである。講義内容が盛りだくさんで時間が短かすぎるとの声もあったが、おおむね好評であった。参加者から野外実習もして欲しいとの声が多かったので、今後検討したい。

回	開催日	講義タイトル	参加者数	講師
1	1月21日(土)	魚類とは何か	17名	前畑政善
2	2月4日(土)	淡水魚を守るために	26名	中井克樹
3	2月18日(土)	琵琶湖の魚と水田	17名	前畑政善
4	2月25日(土)	魚と人間のかかわりの歴史	14名	中島経夫

⑤ 夏休み自由研究講座 (担当：杉江鉄之介)

子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に研究の方法について指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて4回目となった。本講座の日程、参加者数、講師等は下表のとおりであり、多数の参加があった。

開催日	コース名	定員	参加者数	会場	講師・担当
7月24日(日) 10:00～15:00	昆虫	各30名	52名	実習室Ⅰ	八尋、榊永、佐々木
	植物		20名	生活実験工房	布谷
	地学・化石		52名	実習室Ⅱ	高橋、里口、(岡村)

( ) 内は外部講師



「昆虫コース」



「地学・化石コース」

### (3) 体験教室

2005年度は、田んぼ体験教室は行わず、里山体験教室のみを開催した。

○ 里山体験教室（担当：金子、楠岡）

里山の手入れや里山にかかわるくらしを、実際の活動を通じて体験することで「里山」の重要性を見直すことを目的に「里山体験教室」を行った。日野町上駒月にある里山に入り、四季を通じて計4回の手入れ作業を行うとともに、山菜の試食会や里山の昆虫・キノコの観察会など、五感を十分に使った体験活動を行った。開催にあたっては「里山の会」（はしかけ）と協力して実施した。

「里山体験教室」開催日と内容（登録者 35名）

回	日時	内容	参加人数	担当者・講師
1	5月22日(日)	春の里山	43名	金子、楠岡
2	7月23日(土)	里山の生き物	35名	金子、楠岡、八尋、榊永、牧野(厚)
3	9月25日(日)	里山のキノコ	31名	金子、楠岡
4	11月26日(土)	里山の林内整備	15名	金子、孝橋



里山近くの川でも生き物探し(7月23日)



里山のキノコ探し(9月25日)

### 学校連携事業および体験学習

#### (1) 教職員等研修

2005年度に行われた教職員等研修は、合計25件（参加者：489名）であった。研修では、博物館の基本理念や展示概要のほか、総合的な学習などにおける学校の博物館活用法についての解説を行った。また、実習室等で展示に関わる実習をしたり、学芸員から各分野の専門的な話を聞いたりした。

月 日	研修会名	人数
5月16日	滋賀県総合教育センター理科教育講座	40
7月1日	大阪府高槻市松原小学校	7
8月3日	三重県亀山市教育研究会	10
8月3日	三重県津市教員研修	7
8月9日	滋賀県中学校教育研究会理科部会自然調査ゼミナール	15
8月11日	兵庫県尼崎市理科部会	7
8月11日	奈良県磯城郡小学校教育研究会	14
8月18日	滋賀県総合教育センター環境科学講座	32
8月23日	滋賀県理数大好きスクール研修会	48

8月24日	滋賀県大津市立平野小学校	12
8月25日	滋賀県守山市教員研修	16
8月26日	滋賀県理数大好きスクール研修会	31
8月29日	滋賀県近江八幡市島小学校	5
9月1日	滋賀県草津市立老上小学校	3
9月2日	滋賀県蒲生神崎派遣社会教育主事研修	5
9月22日	滋賀県サイエンスパートナーシップ研修	20
10月7日	滋賀県高等学校教育研究会理科生物部会研修	15
10月25日	滋賀県総合教育センター5年経験者研修	46
11月1日	京都府私立中学高等学校理科研究会	7
11月5日	滋賀県サイエンスパートナーシップ研修	20
11月5日	大阪府教職員互助会	41
11月22日	滋賀県総合教育センター5年経験者研修	63
11月25日	東京都武蔵野市立小中校長会	14
12月13日	近畿盲学校教育研究会理科部会	7
2月3日・4日	広島県江田島市教員研修	4



5年経験者研修「概要説明」



「プランクトンの観察」

## (2) 視察対応

2005年度に受け入れた、教育普及活動に関する視察は、合計11件100名であった。

月 日	団 体 名	人 数
5月14日	福井エルドランド	2
8月29日	北九州市立いのちのたび博物館	1
9月27日	北海道教育大学	1
10月4日	中国 大連市 教育旅行団	19
10月26日	天竜川かわらんべ	20
11月11日	諏訪市 山林原野	18
11月25日	アメリカ教育訪問団	5
12月7日	退職女性校長の会	8
2月1日	福井市自然史博物館	2
2月8日	竜王町教育委員会	4
2月10日	石川県河北市教育委員会	20

### (3) 学校団体向け体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、各種体験学習、フローティングスクール等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示学習を支援する「サポートシート(19種類)」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等)、ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、プランクトン模型作り、昔のくらし体験(石臼、脱穀、手押しポンプ)、わら細工、魚の採集(釣り)と解剖、外来魚の調理、野外観察(ヨシ群落)、野外植物観察、火山灰の観察、大地のつくり、質問対応
中学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等)、ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトンの採集と観察、わら細工、魚の採集(釣り)と解剖、外来魚の調理、昆虫の観察、水生昆虫の観察、野外観察(ヨシ群落)、野外植物観察、貝の観察、水の汚れの測定、水鳥の観察、火山灰の観察、大地のつくり、バックヤード見学、質問対応
高等学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について等)、プランクトンの採集と観察、魚の採集(釣り)と解剖、水質調査、珪藻化石の観察、生態観察池での陸水学基礎学習、湖岸調査(地形、植生他)、火山灰の観察、大地のつくり、バックヤード見学、展示利用学習、課題研究、質問対応



プランクトン模型作り



プランクトンの採集と観察

### 体 験 学 習 実 施 数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小 学 校	43	3,483	28	2,451	71	5,934
中 学 校	21	2,625	23	1,725	44	4,350
高 等 学 校	11	563	8	762	19	1,325
養 聾 盲 学 校	2	21	0	0	2	21
合 計	77	6,692	59	4,938	136	11,630

#### (4) 一般団体向け体験学習

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、障害者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
団体 33 件 (2176 名)	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物)、ヨシ笛、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 等

#### (5) 「体験学習の日」の活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊(体験学習の日)」の活動

学校週5日制に対応する事業として、平成16年度まで「体験学習の日」事業として行ってきた、毎月第2・4の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、子ども向けながら広く来館者に体験学習を楽しんでもらうため、事業名を「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。受付方法も、体験の内容により、随時形式や事前申込み制を導入した。基本的には午後1時半～3時まで。大変好評で、年間1204名の参加者があった。

回	月 日	タ イ ト ル	参加人数
1	4月9日	春の草花でしおりをつくろう	66
2	4月23日	春の草花でしおりをつくろう	68
3	5月14日	オサムシの模型をつくろう	63
4	5月28日	オサムシの模型をつくろう	71
5	6月11日	世界の楽器をつくろう	49
6	6月25日	世界の楽器をつくろう	70
7	7月9日	琵琶湖のプランクトンを見よう	17
8	7月23日	琵琶湖のプランクトンを見よう	32
9	8月13日	紙すきをしよう	26
10	8月27日	紙すきをしよう	18
11	9月10日	草木染をしよう	58
12	9月24日	草木染をしよう	48
13	10月8日	綿から糸をつくろう	93
14	10月22日	綿から糸をつくろう	65
15	11月12日	昭和のおうちで探検しよう!～富江家 発見ブックづくり～	55
16	11月26日	昭和のおうちで探検しよう!～富江家 発見ブックづくり～	54
17	12月10日	もちつきをしよう	79
18	1月14日	博物館でスゴロクをしよう	49
19	1月28日	博物館でスゴロクをしよう	61
20	2月11日	縄文コースターをつくろう	44
21	2月25日	縄文コースターをつくろう	76
22	3月11日	化石のレプリカをつくろう	16
23	3月25日	化石のレプリカをつくろう	26
合 計			1,204



オサムシの模型を作ろう



昭和のおうちで探検しよう

## (6) 職場体験実習

琵琶湖博物館を校区にもつ草津市立新堂中学校2年生とインターンシップ研究指定校である滋賀県立瀬田工業高等学校の職場体験実習を受け入れた。

学校名	月 日	受入人数	内 容
新堂中学校	12月7、8、9日	3	展示交流員実習・学芸員研究体験・水族調餌給餌作業・体験学習等
瀬田工業高等学校	1月25、26、27日	2	展示交流員実習・学芸員研究体験・水族調餌給餌作業・体験学習等

## (7) 博物館実習 (期間：2005年8月1日(月)～8月8日(月)；ただし8月7日は休日)

国内11大学28名の学生を対象に、琵琶湖博物館の理念および活動方針と、それにもとづく交流サービス、情報、資料整備、展示などの活動について、講義・実習を行った。特に、交流の場としての博物館活動を理解してもらうために、来館者との交流の担い手となる展示交流員体験や、利用者とともに常に成長・発展するための博物館評価としてのユニバーサルデザインチェックとその分析・発表も行った。博物館活動の基本的な考え方の理解を確認しながら、最終日にはディスカバリーボックスの企画とその発表を行い、学生と学芸職員の意見交換を行った。実習の日程および内容、参加者内訳は下記の通り。

なお、7日以上の実習が必要な2名については、2日間の期間を延長して実習を行った。

### 実習の日程および内容

月日(曜日)	実習内容(午前)	実習内容(午後)
8月1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「博物館とは何か？」</li> <li>館内案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館の設置理念と概要」</li> <li>ディスカバリールームの見学</li> <li>ディスカバリーボックスの製作ガイダンス</li> </ul>
8月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「常設展示室の概略と戦略」</li> <li>情報利用室コンテンツ選びの作業説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示室見学</li> <li>映像コンテンツ調べ、検討、発表</li> </ul>
8月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館の資料整備」</li> <li>講義・見学「琵琶湖博物館の水族」</li> <li>資料整理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館資料整理等の実習</li> </ul>
8月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館交流事業の概要」</li> <li>広報誌の企画コンペ、発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習プログラム作成、発表</li> </ul>
8月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示交流員体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示交流員体験</li> </ul>

8月6日(土)	・講義「ユニバーサルデザインとは？」 ・ユニバーサルデザイン調査と考察	・ユニバーサルデザイン調査と考察、発表
8月7日(日)	休 日	
8月8日(月)	・ディスカバリーボックス制作案	・ディスカバリーボックス発表準備、発表 ・修了式

実習生：11大学，28名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	5	京都教育大学	2
成安造形大学	5	京都府立大学	1
近畿大学	4	京都精華大学	1
京都橘大学	3	奈良女子大学	1
京都文教大学	3	酪農学園大学	1
大阪芸術大学	2		
合 計			28

## 国際交流活動

### (1)「JICA博物館集中コース」の実施

JICAからの委託事業として、国立民族学博物館と共に、「博物館集中コース」を実施した。事務局は国立民俗学博物館が持ち、琵琶湖博物館は企画委員2名を出して、全体の運営にかかわると共に、10名の研修の受け入れを行った。

なお、このJICAの研修は過去10年間にわたり国立民俗学博物館が「博物館技術コース」として行われていたもので、琵琶湖博物館も研修生を受け入れて協力してきたが、昨年度から名称と研修内容を変更し、琵琶湖博物館も共催して行ったものである。

#### 1) 研修員

- Mr. Javier Reynaldo Romero Flores (ボリビア国立民俗・民族博物館)
- Ms. Kong Li-Ning (中国秦始皇帝兵馬俑抗博物館)
- Ms. Degbou Honto Danielle (コートジボアール国立テキスタイル博物館)
- Ms. Monica Alejandra Perez Galihdo (グアテマラ観光局)
- Ms. Andrea del Carmen Terron Gomez (グアテマラ国立考古学民族学博物館)
- Mr. Peter Denis Gero Okwaro (ケニア国立博物館)
- Ms. Rocio Susana Aguilar Otsu (ペルー・ラルコ博物館)
- Mr. Mousa Ayeadh algani (サウジアラビア観光局)
- Ms. Nayana Darshani Perera (スリランカ国立博物館局国立自然史博物館)
- Mr. Emmanuel Chipela (ザンビア国立モトモト博物館)

#### 2) スケジュール

2005年4月4日 来日

4月18日 開講式

7月14日 閉講式

7月16日 帰国

琵琶湖博物館での研修

4月27日 琵琶湖博物館の紹介(楠岡)

琵琶湖博物館展示室案内(楠岡)

4月28日 展示の企画からディスプレイまで(乃村工藝社 鮫島)

博物館資料の背景にある研究活動(高橋)

企画展示の紹介(武部)

- 4月29日 企画展示の考え方(布谷)  
地域博物館の役割(布谷)
- 5月12日 博物館の研究(高橋)  
琵琶湖博物館の資料利用(中藤)
- 5月13日 交流活動の考え方(牧野厚史)  
はしかけ活動(谷口・びわたん)
- 5月14日 博物館評価の手法(布谷・楠岡)  
体験学習の体験(青木)  
琵琶湖博物館の学芸員との交流会
- 5月15日 秦荘町郷土博物館の見学  
ヨシ博物館の見学

### 3) 個別研修

選択の個別研修には、研修員10名のうちの5名が参加した。

- ・参加研修員 Mr. Javier Reynaldo Romero Flores, Ms. Kong Li-Ning, Ms. Monica Alejandra Perez Galihdo, Mr. Peter Denis Gero Okwaro, Ms. Nayana Darshani Perera

#### ・個別研修期間

6月27日～7月1日

- ・研修内容 (テーマ：地域と博物館)

- 6月27日 琵琶湖博物館の交流事業(布谷)  
フィールドレポーターについて(楠岡)
- 6月28日 琵琶湖博物館館長・川那部浩哉・表敬訪問  
プランクトン・ビンゴ・プログラム (楠岡)  
プランクトンモデルづくり(楠岡)
- 6月29日 草津本陣視察(布谷・楠岡)  
MIHOミュージアム(布谷・楠岡)
- 6月30日 学校と博物館との連携事業(谷口)  
学校向け体験学習のプログラム(中村)  
琵琶湖博物館スタッフとの意見交換
- 7月1日 外来魚プログラム(秋山・楠岡・青木)  
お魚ネットワークの活動(中島)

### (2) 海外からの視察

月 日	依頼者・視察団体名	人数	担当
4月1日	JICA 横浜国際センター 平成16年度集団「持続可能な沿岸漁業」コース	7	グライガー、孝橋
4月12日	(株)国際水産技術開発 JICA集団研修「持続的増養殖開発コース」	8	グライガー、松田
4月26日	三菱電機株式会社京滋支店 昆明代表団	14	芳賀
5月14日	滋賀県商工観光労働部国際課 バイエレン州代表団	4	前畑
5月15日	株式会社麴醇堂日本支社 代表取締役社長一行	4	布谷
5月21日	滋賀県商工観光労働部国際課 中国湖南省政府代表団	43	中島
6月7日	滋賀県商工観光労働部国際課 日中経済知識交流会	41	中島

6月9日	びわこビジターズビューロー 世界観光機関(WTO)滋賀会議スタディツアー	39	楠岡
6月21日	びわこビジターズビューロー 中国湖南省教育旅行視察団	12	高橋
6月28日	JICA 東京国際センター 平成17年度インドネシア・マラウイ・エジプト国際研修「淡水魚養殖」	8	グライガー、松田
7月1日	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 平成17年度滋賀県高校生海外相互派遣事業	25	グライガー、スミス
7月2日	ILEC 第13回生態学琵琶湖賞の受賞者一行	12	グライガー
7月3日	北海道大学大学院水産科学研究院 (ポーランド) University of Warmia and Mazury in Olsztyn	3	松田、グライガー
7月8日	びわこビジターズビューロー, 中国大連市修旅誘致・学校関係者視察	4	前畑
7月13日	日中友好交流センター 中国寧波市博物館日本視察団	8	布谷
7月14日	滋賀県商工観光労働部国際課 ミシガン州友好親善使節団	37	グライガー
7月16日	JICE 平成17年度国別研修「普及啓発1」「普及啓発2」実証化試験による最適操作条件の技術(浄化槽)に係る研修	7	高橋
7月18日	JICEとシステム科学コンサルタンツ(株) 平成17年度国別研修「養殖開発・普及」	3	グライガー、中島、松田
8月3日	マダガスカル共和国特命全権大使 マダガスカル共和国農業大臣一行	8	布谷
8月10日	National Folk Museum of Korea	9	牧野(久)、グライガー
8月27日	びわこビジターズビューロー 台湾文化施設参訪団	18	布谷、グライガー
9月1日	(韓国) Happy Japan Tour ソウル市緑色委先進優秀事例地見学	18	布谷、用田
9月13日	(財)国際湖沼環境委員会 平成17年度環境教育推進事業(JICA水環境を主題とする環境教育研修)	10	楠岡
9月16日	(株)インテムコンサルティング JICA平成17年度集団研修「沿岸漁業資源管理」コース	13	グライガー、考橋
9月16日	(株)日建設計 サステナブル建築世界会議東京大会(SB05 Tokyo)	30	秋山
10月4日	びわこビジターズビューロー 中国・大連市からの修学旅行誘致調査事業団	19	中島、谷口、中村
10月7日	(財)北九州国際技術協力会 平成17年度第6回「生活排水対策IIコース」	12	芳賀
10月16日	北方領土返還要求運動滋賀県民会議 北方四島交流事業	100	前畑、中島、用田
10月18日	(財)国際エメックスセンター 閉鎖性海域の水環境管理技術IIコース	10	秋山
10月19日	滋賀県政策調整部青少年室 友好県省青年交流事業	19	布谷

10月28日	(特)国際マングローブ生態系協会 JICA 研修「持続可能な開発のための環境教育ー沿岸生態系と住民生活の保全」コース	12	グライガー
11月2日	JICA研修「日本の環境問題への取り組みに関する視察」	4	中井
11月8日	(財)日本環境技術センター JICA研修「水環境モニタリングコース」	12	グライガー
11月10日	(財)北九州国際技術協力協会 JICA集団研修 平成17年度第8回「蚕業廃水処理技術」コース	8	グライガー
11月13日	新産業振興課 第2回びわこバイオ国際セミナーの講師一行	6	スミス
11月29日	びわこビジターズビューロー 京滋インセンティブツアー誘致委員会オーストラリア訪日修学旅行造成ファムトリップ	14	スミス
12月13日	滋賀県商工観光労働部国際課 中国湖南省洞庭湖博物館建設初期調査団	14	布谷
12月17日	大津比叡ライオンズクラブ 短期ホームステイ者一行	4	グライガー
1月17日	ILEC 台湾行政院環境保護署副署長一行	4	グライガー
2月25日	JICA大阪国際センター 平成17年度「国別：ヨルダン博物館研修」	6	布谷、楠岡
3月2日	日本環境教育学会国際会議フィールド観察	9	楠岡、グライガー
3月7日	JICA東京国際センター 平成17年度ガラパゴス諸島海洋環境保全計画プロジェクト(国別研修)「環境教育」	2	芳賀、楠岡、谷口、中村
3月9日	びわこビジターズビューロー 韓国からの訪日招待旅行誘致に係る韓国企業・旅行代理店関係者	7	布谷
3月19日	サイパン青少年交流団	12	布谷
3月23日	UNEP JICA研修「Restoration of Marshlands in Southern Iraq」	18	グライガー
3月23日	総合地球環境学研究所 The 6th Conference of East Asia and Pacific Regional Network of International Long-Term Ecological Research	30	グライガー
3月25日	JICA 東京国際センター 平成17年度(国別研修)JICA太湖プロジェクト訪日研修「普及啓発3」	3	松田
3月29日	タイ王国大使館 National Discovery Museum Institute	10	白井、グライガー

### (3) 国際交流(海外派遣)

楠岡 泰 2005年12月2日～12月24日JICA博物館学専門家としてヨルダン・ハシミテ王国に派遣。国立博物館準備室、ハシミテ大学、ヤルムーク大学などで琵琶湖博物館が行っている地域や学校との連携など交流活動について講義、ワークショップなどを開く。

## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは県内を中心に身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中でいかしていくとともに、情報のやりとりを通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。この制度は1997年から始まり、2005年度は169名の登録があった。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを設定し、年数回行うアンケート型調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施している。調査の結果はフィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」にまとめられ、フィールドレポーター交流会でも発表される。調査に先駆けての勉強会や観察会を適宜実施している。

2005年度は、2005年3月から実施した「エドヒガン調査」、「第2回夏のセミ調査」、「竹の利用法調査」を行った。

そのほかの活動としては、フィールドレポーターのニュースレター「フィールドレポーター掲示板」を5回発行した。10月には山口県萩市で開催された「ボランティアメッセ2005：まちじゅう博物館」で活動紹介をし、セミ調査の結果などの展示や「セミの親子あてクイズ」などを実施した。また、草津市で開かれた第6回パワフル交流・市民の日でも展示や「セミの親子あてクイズ」を実施した。

春休みに実施した琵琶湖博物館ギャラリー展：博物館を楽しもう「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」ではフィールドレポーターコーナーを設け、竹の利用法調査の結果をはじめ、これまでの調査結果やフィールドレポーターが集めたり、制作したりしたさまざまな竹製品を展示した。また、関連イベントとして子どもを対象とした竹細工教室を3回開催した。

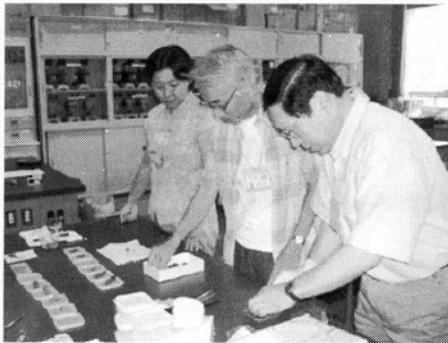
#### 調査内容等一覧

内 容	実施月	報告数(件)
1) エドヒガン調査	3～4	75
2) 第2回夏のセミ調査	6～8	262
3) 竹の利用法調査	12～1	66
4) 自由形調査(フィールドレポーター掲示板)	通年	

#### 活動内容等一覧

活動日	種 類	内 容
4月2日(土)	定例会	予知能力調査の結果の検討
4月16日(土)	定例会	フィールドレポーター掲示板および便りの編集、印刷、発送作業
5月7日(土)	定例会	レポーター便りの編集
5月21日(土)	定例会	交流会の準備、案内の印刷発送
5月27日(金)	臨時	レポーター便りの印刷および交流会の準備
5月29日(日)	交流会	我が家の年中行事、セミ調査、生物の予知能力調査の結果発表
6月4日(土)	定例会	レポーター便り(年中行事)の発送およびセミ調査資料の印刷
6月18日(土)	定例会	フィールドレポーター掲示板の編集および展示室フィールドレポーターコーナーの更新
6月27日(土)	臨時	JICA博物館学コースの研修員に対して活動紹介
7月2日(土)	定例会	掲示板の編集、印刷、発送作業
7月16日(土)	定例会	常設展示室フィールドレポーターコーナーの展示替え
8月6日(土)	定例会	セミ観察会の準備その他
8月20日(土)	観察会	セミ調査の関連イベントとしてセミの観察会を開く

8月20日(土)	定例会	ボランティアメッセの出展について協議
9月3日(土)	定例会	セミの包埋標本作り
9月17日(土)	定例会	掲示板、便りの印刷発送作業およびセミの包埋標本の制作
10月1日(土)	定例会	ボランティアメッセ用ポスターの制作
10月8日(土)～ 10日(月)	イベント	ボランティアメッセ2005「まちじゅう博物館」参加
10月10日(月)	イベント	由宇町立マイクロ生物館でワークショップ開催
10月15日(土)	イベント	第6回パワフル交流・市民の日参加
11月6日(日)	イベント	はしかけ交流会参加
11月6日(日)	定例会	冬の調査の内容について検討
11月19日(土)	定例会	掲示板の編集、印刷、発送および冬の調査テーマの決定
12月3日(土)	定例会	竹調査の内容の検討
12月17日(土)	定例会	竹調査の調査票印刷および発送
1月14日(土)	定例会	ギャラリー展にむけての話し合い、ヨルダン報告会
1月21日(土)	定例会	掲示板の編集、印刷、発送
2月4日(土)	定例会	ギャラリー展についての相談および竹製品作りに挑戦
2月11日(土)	臨時	ギャラリー展の展示について話し合い
2月18日(土)	定例会	ギャラリー展で行う竹細工などの準備
2月25日(土)	臨時	ギャラリー展に出展するパネルなどの検討
3月11日(土)	定例会	ギャラリー展出展準備
3月5日(土)	臨時	ギャラリー展出展準備、竹製品燻蒸
3月18日(日)	定例会	ギャラリー展のフィールドレポーターコーナーの完成
3月21日(火)～ 4月9日(日)	イベント	ギャラリー展：博物館を楽しもう～はしかけ・フィールドレポーター活動紹介～に出展
3月26日(日)	イベント	竹細工を楽しもう
4月2日(日)	イベント	竹細工を楽しもう
4月9日(日)	イベント	竹細工を楽しもう



ボランティアメッセで展示するセミの包埋標本を作るフィールドレポータースタッフ



ボランティアメッセ2005で参加者にセミの親子あてクイズを説明するレポータースタッフ

## (2) はしかけ制度

はしかけ制度は、展示の見学やイベントへの参加など、いわゆる受け身的な博物館の利用にとどまらず、博物館の事業や活動にさまざまな形で自立的にかかわりたいとする人たちに対し、そのきっかけの場、さらには新しい活動を発想するための環境を提供するための制度で、2000年8月に設置された。はしかけ制度のもとでの活動は、年度単位で登録手続きを経たはしかけ会員が、主として、個別のテーマをもつはしかけグループへの参加をする形で行われる。はしかけグループのテーマは多岐にわたるが、活動の場所や対象を博物館内やその周辺に限定せず、県内各地域へも広げているグループもある。このようにして、はしかけ会員には、琵琶湖博物館の中長期基本計画に掲げられている「地域だれでも・どこでも博物館」の実現に向けて、博物館と地域あるいは地域に住む人たちとの間の、文字通り「はしかけ」としての役割も期待されている。

はしかけ制度は、参加者の側が多様な企画・提案を行い、博物館とともに活動を具体化していく形へと移行していくことが望まれる。はしかけグループやはしかけ会員が核となり、各地で新たな活動が生まれ、すでに活動しているグループと連携をとりながら、博物館を基点とした活動のネットワークが広がっていく方向へと発展していくことが、はしかけ制度の将来的な目標のひとつであり、「地域だれでも・どこでも博物館」構想を実現する一つの有効な手段となりうるものと考ええる。

2005年度末現在のはしかけ会員登録者数は361人(前年度比67人増)で、活動の場となるはしかけグループの数は、年度内に3つ増え、14グループになった。

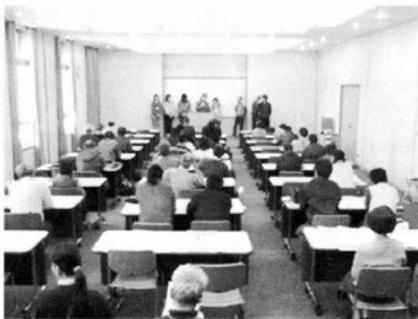
2005年度は、はしかけ登録講座を例年通り3回実施した。第2回登録講座の後には、はしかけ会員を対象とした交流会を生活実験工房で開催した。また、一昨年度・昨年度に年度最終の登録講座と時期を合わせて開催していた「はしかけ活動発表会」に代わるものとして、はしかけ制度とフィールドレポーター制度に関する情報発信を行うため、ギャラリー展示「博物館を楽しもう はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」を、2006年3月21日(火・祝)から4月9日(日)までの期間、企画展示室で開催した。この展示では、14ある全てのはしかけグループが活動内容を紹介し、会期中には参加型のイベント等も開かれた。期間中の来場者数は7,382人であった。

また、外部主催のイベントへの参加も活発に行われ、個別のグループではなくはしかけ全体として参加をしたものに、10月8日(土)から10日(月・祝)に山口県萩市で開催された「ボランティアメッセ2005

まちじゅう博物館」や、10月15日(土)に地元草津市の主催により開催された「第6回パワフル交流・市民の日」などがある。そうした機会では、はしかけ制度の紹介を行うとともに、複数のはしかけグループも自主的な発表を行った。

#### はしかけ登録講座

	開催日	会場	講師	参加者数
第1回	7月3日(日)	会議室(講義)および展示室・研究棟・収蔵庫等(琵琶湖博物館)	全体進行:中井。各グループの説明は、世話人やはしかけ会員による	35人
第2回	11月6日(日)			22人
第3回	3月5日(日)			33人



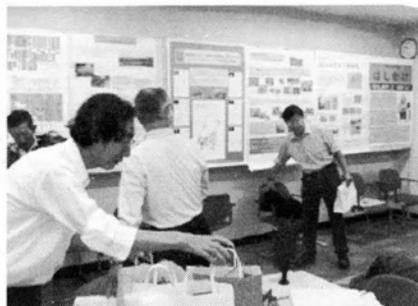
はしかけ登録講座(第3回:2006年3月5日)



はしかけ交流会(2005年11月6日)



萩博物館「ボランティアメッセ2005:まちじゅう博物館」に参加(2005年10月8日~10日)



草津市第6回パワフル交流・市民の日」に参加(2005年10月15日)



ギャラリー展示「博物館を楽しもう はしかけフィールドレポーター活動紹介」エントランス



同左 展示空間（糸つむぎ体験会開催中）

## 各グループの活動

○ びわたん（旧「体験学習の日グループ」）

担当：谷口雅之・青木伸子・中村公一 会員数：25名

〔設立の趣旨〕「琵琶湖博物館わくわく探検隊」の事業を博物館職員と共に運営し、同事業が目指す「フィールドへの誘い」「展示室のより深い理解」を来館者に届ける。

〔活動の概要〕「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、毎月第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対するの興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や、事業当日の参加者との交流などに、積極的にかかわっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、地域の公民館や学校、博物館に出かけて体験学習や教員研修を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

### 「びわたん」の主な活動

活動月日	内 容	場 所
4月9日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」春の草花でしおりをつくろう	琵琶湖博物館
4月23日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」春の草花でしおりをつくろう	琵琶湖博物館
5月13日	JICA研修 びわたん活動報告・体験学習プログラムの紹介	琵琶湖博物館
5月14日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」オサムシの模型をつくろう	琵琶湖博物館
5月28日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」オサムシの模型をつくろう	琵琶湖博物館
6月11日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」世界の楽器をつくろう	琵琶湖博物館
6月25日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」世界の楽器をつくろう	琵琶湖博物館
6月26日	リバーフェスタ2005 化石のレプリカをつくろう	野洲川
7月9日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」琵琶湖のプランクトンを見よう	琵琶湖博物館
7月22日	「SAGAWAキッズミュージアム」ヨシ笛を作ろう	佐川美術館
7月23日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」琵琶湖のプランクトンを見よう	琵琶湖博物館
7月28日	みなくち子どもの森イベント 種とばし	みなくち子どもの森 自然館
8月9日	自然調査ゼミナール 偏光万華鏡をつくろう	琵琶湖博物館
8月13日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」紙すきをしよう	琵琶湖博物館
8月13日	友の会サミット びわたん活動報告	大阪自然史博物館
8月22日	「SAGAWAキッズミュージアム」くるくる☆カラフル種とばし	佐川美術館
8月25日	企画展関連イベント オサムシの絵本をつくろう	琵琶湖博物館
8月27日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」紙すきをしよう	琵琶湖博物館
9月8日	ボランティアメッセ2005 くるくる☆カラフル種とばし	山口萩博物館
9月10日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」草木染めをしよう	琵琶湖博物館
9月23日	由の里子ども会 秋の草花でしおりをつくろう	琵琶湖博物館

9月24日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」草木染めをしよう	琵琶湖博物館
10月8日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」綿から糸をつくってみよう	琵琶湖博物館
10月12日	京都府向日市立向陽小学校 よし笛をつくろう	琵琶湖博物館
10月15日	パワフル市民 くるくる☆カラフル種とばし	草津まちづくりセンター
10月22日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」綿から糸をつくってみよう	琵琶湖博物館
11月12日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」昭和のおうちで探検しよう 富江家発見ブックづくり	琵琶湖博物館
11月24日	滋賀県総合教育センター研究会 プランクトンの模型をつくろう	琵琶湖博物館
11月26日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」昭和のおうちで探検しよう 富江家発見ブックづくり	琵琶湖博物館
12月10日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」もちつきをしよう	琵琶湖博物館
12月12日	「アートはみんなのもの」体験学習	県立草津文化芸術会館
12月13日	京都橘大学 博物館機能論 びわたん活動内容講演	京都橘大学
1月14日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」博物館ですごろくをしよう	琵琶湖博物館
1月28日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」博物館ですごろくをしよう	琵琶湖博物館
2月11日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」縄文コースターをつくろう	琵琶湖博物館
2月13日	コーチング研修会	琵琶湖博物館
2月25日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」縄文コースターをつくろう	琵琶湖博物館
2月26日	子ども居場所づくり近畿ブロックシンポジウム 活動報告	琵琶湖博物館
3月11日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」化石のレプリカをつくろう	琵琶湖博物館
3月25日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」化石のレプリカをつくろう	琵琶湖博物館

#### ○ うおの会

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：95名

〔設立の趣旨〕お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に生息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

〔活動の概要〕「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、活動している。うおの会のメンバーは、2000年の発足から2004年5月まで、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析をおこなってきた。その成果はすでに琵琶湖博物館研究調査報告第23号「みんなで楽しんだうおの会―身近な環境の魚たち」にまとめられている。うおの会の活動は、一つの活動を終えて、「魚つかみを楽しむ」会から「魚つかみの楽しみを伝える」会に移行した。2005年度から、琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の指導員として流域各地で活躍している。また、会員同士の交流やスキルアップとして、琵琶湖お魚ネットワークの魚類分布調査をすることを目的に、月1回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催している。うおの会では、このように魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全や回帰に役立てたいと願っている。

#### 「うおの会」の主な活動

活動月日	内 容
4月2日	WWF・ブリヂストン生命の水プロジェクト 春の水辺の観察会
4月14日	うおの会拡大事務局会議
4月24日	NPO法人びわこ豊穰の郷研修会への協力

4月25日	お魚についての勉強会への協力
4月29日	第29回定例調査 土山・日野町周辺
5月8日	能登川水生生物調査会への参加
5月14日	お魚ネットワークおおつ総会と観察会への参加
5月15日	針江の土地改良区での自然観察会への参加
5月16日	お魚についての勉強会への協力
5月20日	瀬田南小学校総合学習への協力
5月21日	環境フォーラム湖東 宇曾川自然観察会への協力 志賀町・和邇川観察会への協力 喜撰川の魚道設置の見学
5月22日	第30回定例調査 余呉町周辺
5月24日	びわ北小学校総合学習の協力
5月27日	瀬田南小学校総合学習への協力
5月29日	琵琶湖を戻す会主催「外来魚駆除の日」協賛 国土交通省・針江の土地改良区で観察会
6月1日	伯母川探検隊の協力
6月2日	大津市立南郷小学校で琵琶湖の魚&田んぼの生き物教室
6月5日	琵琶湖自然体験スクールの外来魚釣り大会
6月7日	魚道撤収後の生息調査 喜撰川
6月12日	国土交通省・針江の土地改良区で観察会 ぼてじゃこトラストの定例調査への協力
6月18日	第31回定例調査(合同調査) 志賀町喜撰川 水みず探検隊(NPO法人愛のまちエコ倶楽部)への協力 近江舞子でのつり大会への協力 お魚観察会in長沢への協力
6月23日	草津市立南笠東小学校4年生 川の生き物調査指導への協力
6月26日	野洲川RIVER FESTA 2005 への協力
6月27日	高月町七郷小学校5年 田んぼの生き物調査指導
7月3日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう①」 守山市周辺
7月9日	芹川生き物観察会「水生昆虫とお魚調べ」への協力
7月10日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう②」 湖北町周辺
7月16日	親子野外体験学習長沢川探索への協力
7月17日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう③」 能登川町周辺
7月20日	チッソポリプロ繊維(株)守山工場内水路魚調査の協力
7月22日	チッソポリプロ繊維(株)守山工場内水路魚調査の協力
7月23日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう④」 近江八幡市周辺
7月24日	「御呂戸川探検」への協力
7月27日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう⑤」 野洲川
7月28日	第1回三田川「こどもの水辺会議」への協力
7月31日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう⑥」 新旭町周辺 滋賀県耕地課 新免農場内で生き物観察会への協力
8月3日	川の生き物観察会への協力
8月4日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう⑦」 和邇川
8月6日	もりやま・びわ湖・ブルーギル撲滅つり大会 2005 への協賛
8月7日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう⑧」 大戸川
8月9日	琵琶湖博物館観察会「身近な環境の魚たちを調べよう⑨」 近江町周辺
8月10日	おおつの水辺ワークショップへの協力
8月11日	身近な環境の魚たち(生き物)を調べようへの協力
8月16日	おおつの水辺ワークショップへの協力

8月18日	第3回子どもの水辺会議の協力
8月21日	親子雑魚釣り体験教室への協力 八幡堀釣り大会への協力
8月25日	第4回三田川子どもの水辺会議への協力 明富中学校での魚の展示
8月26日	郷土守山に学ぶ研修講座Ⅳ「守山の水環境を調べ、水環境について考えよう」 研修講座への協力
8月27日	第5回三田川子どもの水辺会議への協力 ため池探検隊への協力
9月3日	おさかなネットワークおおつ第2回生息調査への協力 WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト 湖東環境シンポジウムへ出展
9月10日	生き物調査隊（近江八幡市水と緑の少年団）への協力 ふるさと川探検隊「くさつお魚マップを作ろう」への協力
9月17日	西方寺福寿土曜学校魚つかみ体験教室への協力
9月22日	生き物観察会（小松小学校4年生）への協力
9月24日	山賀サカナの観察会への協力
9月25日	第32回定例調査と臨時総会 びわ町周辺
10月1日	第2回御呂戸川探検への協力
10月2日	高島市お魚ふやし隊自然観察会への協力 ふるさと川探検隊「くさつお魚マップを作ろう」への協力
10月5,6日	Eタイム「野田沼内湖周縁一斉調査」への協力
10月7日	瀬田南小学校5年総合学習「環境」高橋川の生き物への協力
10月8日	ふるさと川探検隊「くさつお魚マップを作ろう」への協力
10月9日	第1回環境学習地域リーダー養成講座への協力
10月10日	市民環境フォーラム ～川の生き物観察会～への協力
10月12日	瀬田南小学校5年総合学習「環境」高橋川の生き物への協力
10月13日	家棟川調査への協力
10月23日	第33回定例調査 信楽町周辺
10月29日	おさかなネットワークおおつ第3回生息調査への協力
10月30日	ふるさと川探検隊「くさつお魚マップを作ろう」への協力 ライオンズクラブ 琵琶湖の環境を考える親子釣り大会への協力
11月2日	チッソポリプロ繊維(株)守山工場内水路魚調査
11月5,6日	2005 青少年のための科学の祭典への出展
11月6日	はしかけ登録講座はしかけ交流会でのパネル展示
11月15日	チッソポリプロ魚調査の打ち合せ
11月19日	大津市立瀬田南小学校「秋のこどもフェスタ」への協力
11月27日	第34回定例調査 安土・能登川・五個荘町周辺
12月3日	社会福祉協議会でのうおの会の紹介
12月4日	第2回環境学習地域リーダー養成講座への協力
12月6日	堅田歴史同好会 魚についてのお話会への協力
12月11日	第35回定例調査 栗東市周辺
12月26日	うおの会忘年会
1月14日	第1回うおの会コアメンバー会議
1月22日	近江八幡市の自然環境調査の打ち合わせ
1月23日	八幡市民病院「紙粘土でさかなの工作」の打ち合わせ 豊穰の郷への交流会PR活動

1月25日	大津市環境課、大津市土地改良課、滋賀県水産課、レジャー対策課、ウォーター・ステーション琵琶、河川事務所、湖南振興局、草津市環境課への交流会PR活動 近江町母の里、湖北野鳥センター、農林水産省近畿農政局新湖北農業水利事業所、水土里ネット湖北への交流会PR
1月26日	彦根市生活環境課、ブリヂストン彦根工場への交流会PR活動 FM滋賀への出演（お魚調査のPR） 滋賀県漁業協同組合、ヨシ博物館、東近江水環境推進協議会への交流会PR活動 野洲喜合水路へ湖南振興局みずすまし水路調査
1月27日	南郷水産センター、八幡市役所、八幡堀を守る会への交流会PR活動 滋賀県立大学での打ち合わせ
1月28日	淡海生涯カレッジ10周年記念式典への交流会PR活動 琵琶湖よしよしプロジェクト、環境学習事業（ヨシの学校）・ヨシ回復事業（粗朶事業）
1月29日	第1回「外来魚情報交換会」への協賛 国際湿地再生シンポジウム、外来魚情報交換会への交流会PR活動
1月30日	瀬田東公民館、仰木公民館、漁連青年部、ヨシネットワークへの交流会PR活動
2月1日	東近江市能登川博物館、西堀栄三郎記念探検の殿堂、彦根生活環境課、環境フォーラム湖東への交流会PR活動
2月2日	蒲生野考現倶楽部、みなくちこどもの森自然館、近畿農政局野洲川沿岸事務所への交流会PR活動 第2回うおの会コアメンバー会議
2月7日	高島朽木雲洞谷地区用水路整備工事及び水生生物移住計画への助言協力
2月8日	環境学習支援センターへの交流会PR活動
2月11日	琵琶湖博物館連続講座「川の生き物調査法」の実施
2月13日	草津市子ども環境会議の打ち合わせ
2月16日	第3回うおの会コアメンバー会議
2月18日	第5回草津市子ども環境会議への協力 近江八幡市民病院の小児科にアートを！～小学生による「琵琶湖のいきもの」アート作りワークショップへの協力
2月21日	大津市立瀬田南小学校総合学習の発表会への参加協力
2月24日	しが協働ルームへの参加
2月25日	第3回川づくりフォーラムへの参加
2月26日	第2回お魚ネットワーク交流会の共催
3月17日	高島朽木雲洞谷掛井水路水生生物お引越し及び観察会への協力
3月18日	第1回ゆりかご水田観察会in菖蒲への協力
3月19日	第36回定例調査 竜王町周辺
3月21日～ 4月9日	ギャラリー展「博物館を楽しもう」への参加
3月23日	仰木の里公民館年間計画の立案への協力
3月26日	魚ののぼれる川づくり 間伐材魚道再設置

○ 田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰・マーク J. グライガー 会員数：22名

〔設立の趣旨〕滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向け、そこに住む生物の分布や生態を調査する。

〔活動の概要〕当グループは、フィールドレポーター制度で行った田んぼの生き物調査で興味を持った有志で結成された。水田に生息する生物、特に大型鰻脚類（カブトエビやハウネンエビ、カイエビなど）

の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。このため大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質などのデータとの比較を行っている。はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査を行う。また、場所を決めて合同で調査も行う。2005年度の合同調査は、野洲、近江八幡、竜王周辺で行った。

#### 「田んぼの生き物調査グループ」の主な活動

活動月日	内 容	場 所	備 考
4月9日	田んぼの生き物調査研修会	琵琶湖博物館	16名
6月5日	田んぼの生き物合同調査	野洲、近江八幡、 竜王周辺	11名
7月30日	田んぼの生き物同定会	琵琶湖博物館	12名
2月12日	総会および田んぼの生き物調査まとめ会	琵琶湖博物館	5名
3月18日	ギャラリー展準備	琵琶湖博物館	4名
通年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査

#### ○ 里山の会

会長：吉井 隆 担当：楠岡 泰・金子修一 会員数：21名

〔設立の趣旨〕当館の交流事業「里山体験教室」の卒業生により、2001年から活動を行っている。活動フィールドである琵琶湖近郊（滋賀県日野町上駒月）の里山で、春の植物観察、山菜とり、夏の昆虫観察、秋のキノコ観察、そして冬の里山の暮らしなど、四季の変化を楽しみながら、琵琶湖博物館「里山体験教室」の事前準備、および教室当日の解説等を行う。

〔活動の概要〕年4回行われる里山体験教室のプログラム作りおよび本番サポート。また、独自の活動として、里山の粘土でオカリナを作り、みんなで演奏するなど里山を利用して楽しんでいる。

#### 「里山の会」の主な活動

活動月日	内 容	場 所	参加者
4月10日	春の山菜採り	甲賀市水口、岩根	8名
5月14日	里山体験教室Ⅰ 下見	日野町上駒月	4名
5月22日	里山体験教室Ⅰ 里山の山菜 本番	日野町上駒月	7名
6月25日	オカリナ作り	湖南市岩根	8名
7月18日	里山体験教室Ⅱ 下見	日野町上駒月	7名
7月23日	里山体験教室Ⅱ 里山の虫たち 本番	日野町上駒月	8名
8月21・22日	夏合宿	湖南市岩根	8名
9月18日	里山体験教室Ⅲ 下見	日野町上駒月	7名
9月25日	里山体験教室Ⅲ 里山のキノコ 本番	日野町上駒月	5名
10月15日	第6回パワフル市民21参加	草津市	パネル展示
10月22日	草木およびキノコ染めに挑戦	大津市堅田	7名
11月12日	里山体験教室Ⅳ 下見	日野町上駒月	3名
11月22日	里山体験教室Ⅳ 準備	日野町上駒月	
11月26日	里山体験教室Ⅳ 里山の冬支度 本番	日野町上駒月	4名
12月17日	里山の記念誌作り	琵琶湖博物館	9名
1月22日	里山記念誌作りと草木染に挑戦	琵琶湖博物館	9名
2月11日	里山記念誌編集作業	龍谷大学	5名
3月5日	2006年度活動拠点見学および総会	野洲市大篠原、 琵琶湖博物館	10名
3月18日	ギャラリー展準備	琵琶湖博物館	4名
3月21日～ 4月9日	ギャラリー展博物館を楽しもうに出展 (パネルおよび作品などを展示)	琵琶湖博物館	

○ 近江はたおり探検隊

担当：中藤容子 記録・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

〔設立の趣旨〕 地域に残された人とモノから近江のはたおり文化を探究し、現在失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目標に活動する。

〔活動の概要〕 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、伝統的な地域に残る機織りを再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。さまざまな博物館や専門家、地域のお年寄り、機織りに興味のある若者、子どもたちとの交流の中で、機織り用具の製作、近江上布の復元、綿・苧麻からの布づくり、藍からの藍染めなど、活動の幅が広がりつつある。

「近江はたおり探検隊」の主な活動

活動月日	行事名・タイトル	主催者	場 所
4月6日～3月28日 (12回)	織姫の会	琵琶湖博物館	琵琶湖博物館など
5月17日～2月12日 (12回)	はたおり探検	琵琶湖博物館	県内外資料館、織物産地など
4月13日～3月15日 (12回)	近江はたおり研究会(第10回～第21回)	琵琶湖博物館	琵琶湖博物館など
9月10・24日(2回)	琵琶湖博物館わくわく探検隊「草木染めをしよう」	琵琶湖博物館	琵琶湖博物館
10月8・22日(2回)	琵琶湖博物館わくわく探検隊「綿から糸をつくってみよう」	琵琶湖博物館	琵琶湖博物館
10月23日	弥生機の機織体験	秦荘町歴史文化資料館	秦荘町歴史文化資料館
11月30日～12月7日	第1回もりやま市民屋台村：近江はたおり探検隊・綿と機織りの会活動紹介(糸つむぎ体験会を2回実施)	守山市民交流センター	守山市民交流センター
3月21日～4月9日	ギャラリー展示「博物館を楽しもう」：活動紹介・機織り用具の展示(糸つむぎ体験会を3回実施)	琵琶湖博物館	琵琶湖博物館

○ 植物観察の会

担当：布谷知夫 会員は特定せず

〔設立の趣旨〕 植物観察研修会を通じて、「はしかけ」さんの中に植物が好きの人を増やし、将来は独自に活動できる植物の愛好会ができることを目指す。いろいろな活動をしようとする時に、すべての基礎になるのが植物の情報である。本会は、「はしかけ」の横断的な植物研修会として発足した。年4回の県内各地での観察会を行い、「はしかけ」の登録者ならだれでも参加することができる。

〔活動の概要〕 本グループは、特定のグループとしてではなく、「はしかけ」さんに対する研修会として発足した。現在も名簿は作らず、はしかけニューズレターで行事のお知らせを行って、「はしかけ」さんであれば誰でも自由に参加いただいている。

2005年度は、春のタンポポ調査を「はしかけ」としても協力してもらい、その準備のためのタンポポの観察会と、秋と冬の観察会を行った。参加者の数は多くはないが、常連として毎回参加してくださる方や、運営について手伝ってくださる方も出て、はしかけメンバーの運営に近い状態になりつつある。また草津市の「パワフル交流市民21」への参加や、年度末に行なった琵琶湖博物館での「博物館を楽しむ」のギャラリー展示でも、写真や展示物の提供をしていただいた。

「植物観察の会」の主な活動

活動月日	内 容	場 所	参加人数
4月24日	タンポポと春の草花の観察会	志賀町	10名
5月8日	タンポポと春の草花の観察会	河毛駅付近	12名
10月9日	秋の木の実の観察会	十二坊ゆららの湯付近	9名
10月15日	パワフル交流市民21	草津まちづくりセンター	4名
1月22日	冬の植物観察会	八幡山	12名

○ たんさいぼうの会

会長：有田重彦 担当：大塚泰介 会員数：17名

[設立の趣旨] 珪藻類を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として出発し、対象範囲の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、既に多くの成果を学会発表、論文などによって公表している。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。2005年12月には、会として2本目の学術論文「有田重彦・大塚泰介(2005)円弧構成モデルによる羽状目珪藻の殻外形の記述. Diatom, 21: 135-141」を発表した。2005年の9月と10月には「たんさいぼうの小さな旅Ⅳ」と題して、草津および栗東のため池で珪藻の採集調査を行った。これまでに採集した珪藻の研究も進展中で、今年は比良山系の小女郎が池および八雲ヶ原湿原から2004年に採集した珪藻の写真を2,000枚あまり撮影した。2006年3月から4月まで行われたギャラリー展示「博物館を楽しもうーはしかけ・フィールドレポーター活動紹介ー」では、研究成果を紹介するポスターを展示するとともに、珪藻およびその研究法を分かりやすく紹介するPowerPointプレゼンテーションを上映した。

「たんさいぼうの会」の主な活動

活動月日	内 容	場 所	参加者
4月23日	たんさいぼうの会第10回総会	琵琶湖博物館	担当：佐橋保司 参加者12名
5月15日	日本珪藻学会第26回大会で「Navicula属以外の殻外形に対する円弧構成モデルの適用」をポスター発表	四日市大学	発表者：有田重彦・大塚泰介
8月28日	たんさいぼうの会第11回総会	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者8名
9月10・11日 10月1・2日	たんさいぼうの小さな旅Ⅳ 草津・栗東溜池(珪藻の採集調査)	草津・栗東の溜池31箇所	担当：大塚泰介 参加者14名
10月22日	たんさいぼうの会第12回総会	琵琶湖博物館	担当：藤田裕子 参加者10名
	論文「円弧構成モデルによる羽状目珪藻の殻外形の記述. Diatom, 21: 135-141」を発表	1月14日	著者：有田重彦・大塚泰介
1月14日	たんさいぼうの会第13回総会	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者13名
3月21日～ 4月9日	ギャラリー展示「博物館を楽しもうーはしかけ・フィールドレポーター活動紹介ー」にて活動成果を発表	琵琶湖博物館	

○ ほねほねくらぶ

会長：山中裕子 広報担当：永野まよこ 担当：高橋啓一 会員数：14名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、現生動物の解剖の勉強、骨格標本の製作、骨の化石のクリーニングなどを行っている。昨年度は休止状態が続いたが、今年度は新しいメンバーも加わり毎月1回の例会を中心に活動を再開した。全員が集まる定例活動日以外にも、個別での活動を行った。

「ほねほねくらぶ」の主な活動

活動月日	内 容	場 所
5月29日	アザラシの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
6月26日	クマの骨、ミニブタの骨などクリーニング	琵琶湖博物館
7月24日	コウモリ、カヤネズミの骨のクリーニング作業、クマの骨の漂白、ミニブタの水洗・乾燥、アライグマの骨の乾燥など	琵琶湖博物館
8月28日	クマの骨の整理、ハクビシン頭骨の接着、イノシシの骨乾燥など	琵琶湖博物館
9月25日	ウコッケイ組立て標本の補修、ミニブタ前後肢の組立て	琵琶湖博物館
10月23日	ミニブタの組立て、シカの骨のクリーニング	
11月27日	解剖学「頭部編」の講義とハクビシンを使った解剖実習	琵琶湖博物館
12月25日	解剖学「内臓編」の講義とハクビシンを使った解剖実習	琵琶湖博物館
1月29日	解剖学「四肢編」の講義とハクビシンを使った解剖実習	琵琶湖博物館
2月19日	ギャラリー展準備（ミニブタの組立てなど）	琵琶湖博物館
2月26日	ギャラリー展準備（ミニブタの組立てなど）	琵琶湖博物館
3月18日	ギャラリー展展示制作	琵琶湖博物館

○ 咽頭歯倶楽部

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：3名

[設立の趣旨] うおの会のサブグループとして2003年1月末に発足した。その趣旨はコイ科魚類の咽頭歯に興味を持つ人が集い、互いに研鑽しながら魚やコイ科魚類に関する知識を深めることにある。

[活動の概要] コイ科魚類の咽頭歯を見分ける能力を磨き、遺跡からの遺体や地層からの化石咽頭歯を同定する。そのことによって、コイ科魚類の進化の道筋や人の営みを探る。咽頭歯標本の製作、遺跡からの咽頭歯遺体の検出、化石の調査などを行っている。2005年度は、うおの会の活動が忙しくなってきたため、人材が不足しており、開店休業の状態に陥っているが、咽頭歯倶楽部の活動は継続中である。

○ 丸子船探検隊

担当：牧野久実 会員数：28名

[設立の趣旨] 近世から戦前まで琵琶湖輸送の主役であった丸子船を中心とした伝統的木造船について、さまざまな角度から調査研究を行い、その謎を解きほぐしていくことを目指している。

[活動の概要] 2002年度より準備的な活動が始められ、2003年度より正式に発足した。10分の1サイズの木造船模型の小物再現や丸子船のペーパークラフトなどを用いた地域交流、インターネットページ公開、丸子船に関するデータベースの作成を行ったり、丸子船など木造船の構造の発達史を研究している。2005年度は、前年度後半に引き続き、担当者の都合により会員主導の活動が大半となった。1月には担当者主催の民具実測の講座に参加したほか、3月に行われたギャラリー展示「博物館を楽しもう〜フィールドレポーター・はしかけ活動紹介」で、これまでの成果を展示するなどの活動も行った。

○ 湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当：嘉田由紀子 会員数：25名

〔設立の趣旨〕「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することが、「湖をつなぐ会」の目的である。

〔活動の概要〕2003年11月に県内在住の子ども達で組織する「琵琶湖の未来たち合唱団」とその保護者らによって活動を開始した。新しい琵琶湖のうた「生きている琵琶湖」を滋賀県内外に広め、子ども達が日々の生活のなかでこの歌を口ずさむことによって、琵琶湖の未来のことを考えるきっかけとなるよう活動を続けている。月1回の練習会をもち、参加者の多い時にはアトリウムでミニコンサートを開催した。11月には瀬田川洗堰完成100周年の記念事業「琵琶湖シンフォニー」で大津市立平野小学校の子ども達や100周年にちなんで県内の3世代家族と一緒に「生きている琵琶湖」を披露した。また3月のギャラリー展示のオープニングでは博物館職員全員で「生きている琵琶湖」を発表した。いっしょに口ずさんでくれる方々が増えてきており、徐々にこの歌がそだってきていることを実感している。

「湖をつなぐ会」の主な活動

活動月日	内 容	場 所
11月3日	瀬田川洗堰完成100周年記念事業「琵琶湖シンフォニー」	琵琶湖ホール
12月4日	「チャリティの歌」合唱祭	ピアザ淡海ホール
3月21・26日	ギャラリー展示オープニング・活動発表	琵琶湖博物館

○ 温故写新

運営コアメンバー8名 担当：秋山廣光 会員数：28名

〔設立趣旨〕

- ・写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。
- ・生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。
- ・感動的に、そして美しく。

時の流れと共に変化するこの世界の瞬間を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

〔活動の概要〕撮影ジャンルを分けてテーマを決め、撮影会を行った後、作例を持ち寄り互いの評価によって技術を磨く。具体的には、魚類や水生生物の撮影、植物群落の記録、風景撮影、伝統文化の記録、環境の定点観測撮影、鳥類、昆虫類、哺乳類などの野生生態撮影など、多岐にわたる。撮影記録を用い、企画を練り図鑑やハンドブックなどを作成したい。また、博物館活動の記録係として撮影活動を行う。

「温故写新」の主な活動

活動月日	内 容	場 所	参加者
4月17日	発足会	セミナー室	17名
5月8日	撮影会「テーマ：鳥丸半島の春」	博物館周辺	18名
5月22日	5月8日撮影の写真についての勉強会	セミナー室	16名
6月18日	撮影会「テーマ：田んぼ」	生活実験工房	14名
7月2日	6月18日撮影の写真についての勉強会	セミナー室	6名
7月30日	撮影会「テーマ：鳥丸半島の夏」	博物館周辺	7名
8月21日	7月30日撮影の写真についての勉強会	セミナー室	8名
9月10日	撮影会「テーマ：水と人の暮らし」	近江高島駅周辺	5名
9月24日	9月10日撮影の写真について勉強会	実習室	9名

10月22日	撮影会「テーマ：水と人の暮らし」	新旭駅周辺	5名
11月5日	10月22日撮影の写真についての勉強会	実習室	7名
12月3日	撮影会「テーマ：烏丸半島の晩秋」	博物館周辺	6名
1月14日	12月3日撮影の写真についての勉強会	実習室	9名
1月28日	撮影会「テーマ：烏丸半島の冬」	博物館周辺	9名
2月11日	1/28日撮影の写真についての勉強会	実習室	11名
2月25日	ギャラリー展準備	実習室	8名
3月4日	ギャラリー展準備	会議室	6名
3月8日	ギャラリー展準備	実習室	
3月9日	ギャラリー展準備	企画展示準備室	
3月11日	ギャラリー展準備	実習室	
3月18日	ギャラリー展準備	企画展示準備室	
3月19日	ギャラリー展準備	企画展示準備室	

○ 展示室を楽しくする会（生活実験工房に集う会）

担当：中藤容子、会員数 10名

〔設立の趣旨〕琵琶湖博物館の展示空間（屋外展示、生活実験工房も含む）をより深く楽しく利用していく方法を、さまざまな層の人々とともに実践的に探究していく。

〔活動の概要〕2005年度から田んぼ体験教室がなくなることきっかけに、5月より生活実験工房およびその田畑・屋外展示などを職員とともに維持管理しながら新しい活用方法を模索するための集まりを設けた（生活実験工房に集う会）。それをもとに「工房に集う会」「アクティビティー集を作る会」「はしかけキッズの会」などの部門に分かれて博物館利用について試行・提案していこうとミーティングを開催している。

「展示を楽しくする会」の主な活動

活動月日	タイトル	行事名	場所
5月8日～ 3月27日 (18回)	田畑作業（田植え・稲刈り・わら細工づくり）、ミーティング（展示室点検）	生活実験工房の田畑に集う会（工房に集う会）	琵琶湖博物館（生活実験工房）
3月21日～ 4月9日	活動紹介（公開ミーティングを実施）	ギャラリー展示「博物館を楽しもう」	琵琶湖博物館

○ ザ！ディスカバはしかけ

担当：堀田桃子・磯野なつ子（～2005/11）・荒井文子（2005/12～） 会員数：7名

〔設立の趣旨〕ディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように、分かりやすく、楽しい空間をつくることをめざしている。

〔活動の概要〕ザ！ディスカバはしかけは、今年度の秋に発足した。この半年間は個人ごとの活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇というように、それぞれの持つ能力を活かした活動をすることができた。展示物の作成および補修を中心に活動し、年度末のギャラリー展では今後の目標でもある、“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

〔主な活動内容〕

- ・富江家の周辺を探検しながら水の利用が分かるシートを作成。
- ・指人形や日本のおもちゃなどの作成・補修。
- ・「丸子船」展示の作成（2006/3/21 展示開始）。
- ・ギャラリー展のイベント「おてだま工作」を実施（2006/3/26）。
- ・ギャラリー展のイベント、人形劇「田んぼで会いましょう」準備（実施は2006/4/8）。

地域交流活動への支援事業

(1) 地域活動の支援（博物館内）

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	担当
4	16	NPO子どもネットワークセンター天気村	約 25	「わたのおかあさんプロジェクト」の説明と綿からの糸紡ぎ体験	講師	生活実験工房・ディスカバリーバリエーションルーム	中藤・近江はたおり探検隊
4	17	ぼてじゃこトラスト	約 30	ナマズはなぜ田んぼにのぼるのか？	講師	セミナー室	前畑
5	4	氷室台子ども会	約 50	よし笛を作ろう	講師	実習室	青木
5	15	ヨシ笛アンサンブル・こなん	23	ヨシとはどういう植物なのか・ヨシ笛体験教室	講師	実習室	青木・布谷
5	22	兵庫県埋蔵文化財協会	20	はしかけ制度について	講師	会議室	布谷
6	7	日中経済知識交流会	約 30	概要説明	講師	ホール	中島
6	14	健康保険組合連合会兵庫連合会	60	琵琶湖の魚と環境	講師	セミナー室	秋山
6	16	滋賀県小学校教育研究会理科部会	40	博物館と学校との連携について	講師	セミナー室	谷口
6	18	彦根市立鳥居本地区公民館	28	よし笛を作ろう	講師	実習室	青木・中村・谷口
6	25	大阪府立北野高等学校	30	琵琶湖の環境についての考え方	講師	会議室	布谷
6	30	守山市	15	琵琶湖の環境	講師	会議室	布谷
7	1	高槻市立松原小学校	7	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
7	7	大津市立生涯学習センター	約 30	琵琶湖の魚と水辺移行帯	講師	セミナー室	前畑
7	10	平成西地区子ども会	37	化石のレプリカをつくらう	講師	実習室	青木
7	12	信楽雲井公民館	20	ホタル	講師	展示室	展示交流員 荒井
7	12	大津市生涯学習センターボランティア	17	はしかけ制度の概要	講師	会議室	中藤
7	16	かさやまの環境を守る会	10	琵琶湖の環境を守る生活	講師	会議室	牧野（厚）
7	18	(株)キッズランド成基グローバルキッズ倶楽部	25	魚の話	講師	実習室	秋山
7	20	大阪シニア自然大学	約 63	琵琶湖の水生植物・琵琶湖の水生動物・企画展「歩く宝石オサムシ」	講師	セミナー室・企画展示室	布谷・秋山・八尋

7	20	空の会	約 30	水田環境と琵琶湖の魚	講師	セミナー室	前畑
7	21	滋賀県立石部高等学校	10	博物館の作られ方	講師	セミナー室	布谷
7	22	滋賀県立石部高等学校「琵琶湖探求」	約 40	滋賀の魚一魚から琵琶湖の環境を考えるー	講師	セミナー室	前畑
7	25	大阪市私立幼稚園連合会	50	琵琶湖の自然	講師	セミナー室	中島
7	26 27	滋賀県立石部高等学校	5	琵琶湖探求 2005(夏期集中講義)	講師	図書室・セミナー室等	中井
7	27	大阪科学技術センター	50	琵琶湖の概要	講師	ホール	中村
7	31	子ども環境特派員	27	琵琶湖の自然・解剖・化石	講師	ホール・実習室	谷口・中村・杉江
7	31	滋賀県エコライフ推進課	27	琵琶湖の水環境について	講師	実習室	谷口
8	2	中部電力株式会社	約 50	魚から見た琵琶湖の環境	講師	セミナー室	前畑
8	3	香川県農林部	170	利用者の視点から見た博物館	講師	ホール	布谷
8	3	三重県亀山市教育研究会 総合・生活科部会	10	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
8	4	高槻市奥坂コミュニティセンター	25	琵琶湖の概要と館紹介	講師	実習室	中村
8	5	日本生物教育会・大阪府 高等学校生物教育研究会	6	オサムシの系統解析	講師	実習室	八尋
8	5	わんぱくプラザ笠縫	約 45	琵琶湖の魚・植物と湖の特徴	講師	ホール	谷口
8	7	全国スポーツ少年大会	400	よし笛を作ろう	講師	実習室・生活実験工房	谷口・中村・青木
8	9	滋賀県中学校教育研究会 理科部会	約 30	自然調査ゼミナール	講師	屋外展示・実習室	布谷・松田・桑原・秋山・楠岡
8	10	大阪市水道局	100	琵琶湖の魚・プランクトン観察・解剖	講師	ホール・実習室	中井・谷口
8	10	(財)大阪府水道サービス公社	約 120	夏休み水源びわ湖親子見学会	講師	ホール・実習室	中井
8	11	伊川を愛する会	約 60	こども淡水魚教室	講師	ホール	中井
8	11	兵庫県尼崎市中学校理科部会	7	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
8	11	奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会	14	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
8	18	ホテルの学校	約 30	珪藻の観察と講話・企画展の案内	講師	実習室・企画展示室	大塚・八尋

8	18	滋賀県総合教育センター	18	植物を知ろうー植物の不思議を学ぼう、博物館と学校との連携について	講師	実習室	布谷・谷口
8	23	滋賀県教育委員会	15	外来魚の調理	講師	実習室	谷口
8	24	近畿日本ツーリスト教育旅行担当者	20	琵琶湖の概要と館紹介	講師	会議室	谷口・中村
8	24	大津市立平野小学校	12	外来魚の調理	講師	実習室	谷口
8	25	守山市教育研究会理科部会	20	プランクトン観察	講師	実習室	谷口
8	26	うららの町づくり振興会	30	地域生活とビオトープ	講師	セミナー室	牧野（厚）
8	27	三重県立伊勢高等学校生物部	約 10	カワウの営巣が水辺の森林に与える影響	講師	会議室	亀田
9	4	日本自閉症協会 アルクラブ	43	琵琶湖について	講師	実習室	青木
9	15	中小企業同友会	80	琵琶湖の概要	講師	ホール	中島
9	15	草津市立草津公民館	18	琵琶湖の歴史や湖と人との関わりを学ぶ	講師	会議室	牧野（厚）
9	22	滋賀県総合教育センター	約 13	古琵琶湖層群に関する研究の最前線	講師	セミナー室	里口
9	23	由の里子供会	34	草花でしおりを作ろう	講師	生活実験工房	青木・「びわたん」
9	26	滋賀県立東大津高等学校	20	水質調査	講師	実習室	芳賀
9	29	滋賀県立東大津高等学校	15	水草の観察・採集	講師	会議室	布谷
10	2	滋賀県自然環境保全学習ネットワーク	48	環境保全に取り組むために	講師	セミナー室	布谷
10	4	大津市立平野小学校	約 30	滋賀と地球の地学	講師	実習室	里口
10	15	ジュニアリバースクール	90	琵琶湖の概要・よし笛づくり	講師	ホール・実習室	中村・杉江
10	18	京都府私立中学高等学校保護者会連合会	約 40	琵琶湖のおいたちと400万年の環境変化	講師	ホール	里口
10	18	国際エメックスセンター	約 10	琵琶湖の環境と魚類	講師	実習室	秋山
10	18	札幌市旭丘高等学校体験学習	約 40	琵琶湖の魚の現状から環境を考える	講師	セミナー室	前畑
10	21	地方公営企業連絡協議会	30	琵琶湖博物館の概要	講師	実習室	布谷
10	22	金田公民館	18	綿くり・綿打ち・糸くり	講師	生活実験工房	中藤

10	22	子供へら道場	24	魚類の自然保護・環境保全	講師	会議室	前畑
10	22	大阪府立久米田高等学校 P T A	40	琵琶湖の概要・館の紹介	講師	ホール	谷口
10	25	滋賀県総合教育センター	40	ドングリの見分け方と飛ぶ種子・自然環境と大地・博物館と学校との連携について	講師	実習室	布谷・里口・谷口・中村
10	26	天竜川総合学習館かわらんべ	約 20	博物館研修	講師	実習室	中島・青木
10	29	合唱団ほたる	30	よし笛を作ろう	講師	生活実験工房	青木
10	29	キッズ・ラボ	36	プランクトン観察	講師	実習室	谷口・中村
10	29	「うみのこ」サポーター会	30	プランクトン観察・琵琶湖概要	講師	実習室	谷口・中村
10	29	亀岡生涯学習市民大学	64	琵琶湖概要	講師	セミナー室	布谷・中村
11	4	滋賀県立守山高等学校	10	課題探求	講師	図書室等	中井
11	1	京都府私立中学高等学校理科部会	7	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
11	6	いずみ園	25	化石のレプリカをつくろう	講師	実習室	青木
11	15	近江八幡市金田小学校	約 30	琵琶湖の自然史	講師	実習室	里口
11	17	滋賀県立米原高等学校	10	火山灰実習	講師	実習室	里口
11	19	きつづ光科学館ふおとん	約 20	プランクトン観察	講師	実習室	大塚・中村・谷口・青木・大川
11	19	特定非営利活動法人自然と緑	約 70	プランクトン観察	講師	実習室	大塚・大川・谷口
11	22	滋賀県総合教育センター	約 80	ドングリの見分け方と飛ぶ種子・自然環境と大地・博物館と学校との連携について	講師	セミナー室・実習室	布谷・里口・谷口・中村
11	23	日本弁護士連合会公害対策県境保全委員会自然保護部会	約 25	琵琶湖における外来魚問題	講師	セミナー室	中井
11	24	野洲市悠紀大学院	30	琵琶湖の周りの魚とり	講師	会議室・展示室	中藤
11	25	武蔵野市立小中校長会	14	博物館と学校との連携について	講師	セミナー室	谷口
12	3	近江八幡市水環境を守る生活推進協議会	約 30	外来魚調理	講師	実習室	秋山・青木

12	4	武生南地区母親クラブ	56	昔の生活体験	講師	生活実験工房	青木
12	9	熊本県立熊本高等学校	約 40	琵琶湖の魚から環境を考える	講師	セミナー室	前畑
12	10	農村環境整備センター	約 100	琵琶湖生態系の現状と保全	講師	ホール	中井
12	13	近畿盲学校教育研究会理科部会	7	博物館と学校との連携について	講師	実習室	谷口
12	17	草津市立笠逢公民館	20	琵琶湖のプランクトンを見よう	講師	実習室	中村・谷口
2	3	江田島市教育研究会	4	博物館と学校との連携について・プランクトン観察	講師	実習室	谷口
2	10	石川県河北市教育委員会	20	琵琶湖と館の概要	講師	セミナー室	谷口・中村
2	16	草津第二公民館	24	博物館見学・外来魚調理と試食	講師	実習室	秋山・青木
2	26	子ども居場所作り近畿ブロック大会	20	博物館と子ども	講師	会議室	布谷・谷口
3	1	茨木市住みよいまちづくり協議会	18	水質の変化とその原因	講師	展示室	芳賀
3	4	八幡児童館	39	化石のレプリカをつくろう	講師	実習室	青木
3	8	日本自動車連盟滋賀支部	40	よし笛を作ろう	講師	実習室	中村・谷口
3	19	淡海森林クラブ	25	里山と人と水	講師	セミナー室	布谷
3	22	山県市	45	琵琶湖博物館の考え方	講師	セミナー室	布谷
3	28	岩根学童保育所	28	化石のレプリカをつくろう	講師	実習室	杉江

## (2) 地域活動の支援（博物館外対応）

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	担当
4	10	岡山県自然保護センター友の会	約 50	研修会「外来生物とのつきあいかた：新しい法律ができて何が変わるのか？」	講師	岡山県自然保護センター	中井
4	29	セタジミ祭実行委員会	約 120	琵琶湖の生き物について	講師	琵琶湖汽船インターラーケン船内	松田
4	24	豊穰の郷	約 50	水生昆虫観察会	講師	守山市	榊永
5	14	ホテルの学校	30	水生昆虫観察会	講師	大津市千丈川	榊永

5	15	京都大学自然地理研究会	約 30	遺跡にみる自然環境 の変遷と人間活動の 対応関係の検討	案内	守山市浮気 町・下之郷町	宮本
5	19	奈良県漁業協同組合連 合会	約 150	パネルディスカッ ション	パネラー	(財)奈良県 広域地場産業 振興センター	中井
5	21	日本動物学会中国四国支 部・日本植物学会中国四 国支部・日本生態学会中 国四国地区会	約 150	公開シンポジウム 「外来生物による生 物多様性の危機」	講師	岡山大学創立 五十周年記念 館	中井
5	22	草津塾		博物館は地域とどう かかわるか	講師	草津市まちづ くりセンター	布谷
5	25	立命館大学	約 200	2005年度 近江・草 津論「ブラックバス と琵琶湖」	講師	立命館大学	中井
5	26	守山ヨシ笛アンサンブル	約 20	ヨシ笛教室	講師	守山市立小津 公民館	青木
5	29	ぼてじゃこトラスト		メダカ博士・田んぼ の生き物博士になろ う！！	講師	ウォータース テーション琵 琶	グライガー
6	4	湖南省立甲西図書館	約 30	湖南省立甲西図書館 講座「環境と人間と の調和を考える：生 物多様性と侵略的外 来種－ブラックバス 問題から考える－」	講師	湖南省立甲西 図書館	中井
6	14	福島県内水面漁業協同組 合連合会	約 30	特定外来生物として のブラックバス－対 策の現状と課題－	講師	ユープル矢祭	中井
6	10	高島市立マキノ東小学校	約 30	西内沼の生き物	講師	マキノ町	前畑
6	18	志賀町こども週末活動支 援ネットワークルン	約 30	水生昆虫観察会	講師	志賀町	榊永
6	18	就実大学吉備地方文化研 究所歴史シンポジウム「荘 園の風景－備作三国の事 例から－」		荘園の中の庄・郷・ 保－王家領備前国豊 原庄－	講師	就実大学吉備 地方文化研究 所	橋本
6	18	野洲守山文化協会	90	遺跡周辺の古環境復 元		津賀山荘	布谷
6	19	マキノ夢の森づくり委員 会	約 30	内湖に生息する魚類	講師	マキノ町	前畑

6	22	岡山県赤磐瀬戸町教育委員会	3	アユモドキ増殖室での人工増殖の指導	講師	岡山県赤磐瀬戸町	前畑
6	25	日本魚類学会自然保護委員会	約 120	公開シンポジウム「外来魚防除最前線?オオクチバスの駆除技術の現状と課題」	講師 コーディネーター	秋田大学教育文化学部	中井
6	26	日本青年会議所近畿ブロック	約 90	野洲川RIVER FESTA 2005・体験学習「よし笛を作ろう」「化石のレプリカを作ろう」	講師	野洲川ふれあい広場	青木
7	9	淡海生涯カレッジ長浜実行委員会	約 30	湖国の昆虫	講師	長浜市立六荘公民館	八尋
7	10	大阪自然環境保全協会	25	自然観察からはじまる自然保護	講師	千里中央公園公民館	布谷
7	10	飯田市美術博物館	40	特別展示「原人がいた頃のシカ」展 記念講演会	講師	飯田市美術博物館	高橋
7	23	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源機構関西支社	約 50	Biyoセンター「自然観察会」第1回：魚の観察	講師	琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター	中井
7	24	佐川キッズミュージアム	150	ヨシ笛作り	補助	佐川美術館	布谷
7	27	高島市立マキノ東小学校	13	総合的な学習・理科の指導に関する研修会	講師	高島市立マキノ東小学校	前畑
7	30	多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館	約 30	湖国びわ湖の魚たち	講師	あけぼのパーク多賀	前畑
7	31	コープ滋賀	約 30	野菜畑の昆虫	講師	近江八幡市	八尋
8	1	滋賀県総合教育センター	100	博物館と学校との連携について・ヨシ笛作り・プランクトン観察	講師	学習船「うみのこ」	谷口
8	5	てんきクラブ	約 30	奥田沼の魚類について	講師	マキノ町	前畑
8	5	日本生物教育会・大阪府生物教育研究会		和泉葛城山ブナ林の調査と保護について	講師	貝塚市ほの字の里	布谷
8	8	県内美術教員研修	約 150	糸つむぎワークショップ	講師	MIHO MUSEUM	中藤・近江はたおり探検隊
8 ~	19 21	NACS-J日本自然保護協会	60	自然の観察	講師	余呉町ウツディパル	布谷

8	22	滋賀県総合教育センター	100	物館と学校との連携 について・ヨシ笛作 り・プランクトン観 察	講師	学習船「うみ のこ」	谷口
8	22	佐川キッズミュージアム	150	空を飛ぶ植物のタネ	講師	佐川美術館	布谷
8	24	吹田市役所地球環境課	約 20	まちなか水族館講座 「～楽しく学ぼう！ 水辺の生態系」	講師	吹田市男女共 同 参画 セン ター	中井
8	29	島小学校校内研修会	12	植物の形	講師	近江八幡市島 小学校	布谷
9	5	NPO法人シニア自然大学	約 60	淡水魚入門講座 I	講師	大阪NPOプラザ	前畑
9	6	NPO法人シニア自然大学	約 60	淡水魚入門講座 II	講師	大阪NPOプラザ	前畑
9	8	NPO法人シニア自然大学	約 60	淡水魚入門講座 III	講師	大阪NPOプラザ	前畑
9	10	ホテルの学校	30	水生昆虫観察会	講師	大津市千丈川	榊永
9	15	(財)琵琶湖・淀川水質保 全機構、国土交通省近畿 地方整備局、滋賀県、水 資源機構関西支社	約 50	Biyoセンター「自然 観察会」第 2 回	講師	琵琶湖・淀川 水質浄化共同 実験センター	中井
9	20	甲良町公民館歴史講座		中世甲良の歴史解明 に向けてー文献史学 の限界を越えてー	講師	甲良町公民館	橋本
10	6	三重県立伊勢高校生物部	約 20	カワウ野外観察実習	講師	三重県立伊勢 高校	亀田
10	8	高島市教育委員会	約 30	あど川ゾウの足あと 化石調査	講師	安曇川町長尾 安曇川河床	高橋・山川・里 口
10	11	高齢者学級講座	約 60	琵琶湖の歴史を学ぶ	講師	真野公民館	里口
10	15	パワフル市民交流・市民 の日		琵琶湖博物館の交流 活動の紹介	講師	草津市まちづ くりセンター	牧野・青木・布谷
10	16	活動支援レッツ栗東	約 80	第 1 回栗東森林の フェスティバル	講師	県民の森山の 学校ブース	中藤
10	23	秦荘町歴史文化資料館	20	弥生機の機織体験	支援	秦荘町歴史文 化資料館	中藤・近江はた おり探検隊
10	30	草津市立常盤小学校	約 10	青花に親しもう	講師	草津市立常盤 小学校	青木
11	6	千葉県立千葉北高等学校	約 300	修学旅行勉強会	講師	大津プリンス ホテル	中井

11	13	滋賀県モロコ・フナ養殖研究会	約 30	ホンモロコ・ニゴロブナの繁殖生態	講師	ウォーターステーション琵琶	前畑
11	18	岐阜県、淡水魚保全研究会	約 200	淡水魚保全シンポジウム	講師	大垣市情報工房	前畑
11	16	近江八幡市老人クラブ連合会	約 180	琵琶湖の魚と水田	講師	近江八幡市文化会館	前畑
11	20	日本自然史学会連合	約 150	平成 17 年度講演会「科学の入口」自然史―第一線の専門家が語る 10 のとびら―	講師	大阪市立自然史博物館	中井
11	23	大津市立中央小学校	約 25	琵琶湖の生態系を守る諸活動の紹介	講師	大津市立中央小学校	松田
12	3	飛騨インタープリターアカデミー	約 40	外来生物をめぐる諸問題	講師	飛騨きよみ自然館	中井
12	8	大津市立逢坂小学校	約 20	エコスクール支援委員会	指導	大津市立逢坂小学校	前畑
12	9	国立淡路青年の家	約 35	水環境学習講座	講師	南あわじ市立賀集小学校	青木
12	10	NACS-J日本自然保護協会	約 80	近畿地方でいっせいにいったタンポポ調査	講師	国立子どもの城	布谷
12	11	シナイモツゴ郷の会	約 50	情報交換セミナー	講師	鹿島台町学童農園	中井
1	17	豊田市矢作川研究所	約 80	カワヒバリガイ勉強会	講師	豊田市矢作川研究所	中井
1	28	香川淡水魚研究会	約 120	香川で見られる水辺の生きもの展	講師	丸亀市立東小川児童センター	中井
2	5	FLBびわ湖自然環境ネットワーク	約 30	シンポジウム「水辺の環境と利用を考える～琵琶湖ルール、賢明な利用とは～」	講師	ピアザ淡海	中井
2	12	財団法人滋賀県文化振興事業団	約 100	アートはみんなのもの（体験学習）	講師	滋賀県立文化芸術会館	牧野・中井・青木・「びわたん」
2	18	草津市環境課	約 300	第 5 回草津市こども環境会議	博物館紹介	草津市役所アトリウム	青木
3	4	高島市教育委員会	約 80	足あとと化石調査報告会	講師	藤樹の里ふれあいセンター	高橋・山川・里口
3	9	大津市立逢坂小学校	約 20	エコスクール支援委員会	指導	大津市立逢坂小学校	前畑
3	11	第 2 回市史・郷土史学習会	39	野洲郡の庄・郷と村―兵主郷を中心に―	講師	野洲市歴史民俗博物館	橋本

(3) 博物館ガイダンス（視察対応を含む）

月	日	団 体 名	内 容	場 所	担 当
4	21	観音寺市市議会議員団	概要説明	展示室	用田
4	21	岡山県教育委員会	博物館概要、アユモドキ増殖法紹介	展示室	前畑
5	3	琵琶湖・淀川流域ネットワーク	展示解説	展示室	武部
5	14	バイエルン（ドイツ）環境省	概要説明と館内ガイド	展示室	前畑
5	14	福井エルドランド	教育普及活動	実習室	谷口
5	15	麴醇堂酒類博物館準備室	概要説明	応接室	布谷
6	8	埼玉県議会教育常任委員会	概要説明	会議室・展示室	布谷
6	18	京都教育大学学部学生	琵琶湖博物館活動紹介	会議室	里口
6	29	きつず光科学館ふおんと	概要説明	応接室	布谷
7	6	レスター大学（イギリス）	概要説明と館内ガイド	応接室・展示室	前畑
7	8	大連東北国際旅行者・グリーンツーリズム	概要説明と館内ガイド	展示室	前畑
7	8	成安造形大学	概要説明	展示室	用田
7	12	伊吹山文化資料館	概要説明	展示室	用田
7	12	沖縄県立博物館友の会	本館の体験学習と博物館と住民との関わり	展示室	中藤
7	18	人と自然の博物館フロアスタッフ研修	概要説明	会議室・展示室	布谷
7	19	奥本大三郎・今森光彦	企画展の案内	企画展示室	八尋
7	27	滋賀県親子砂防学習会	展示解説	展示室	武部
8	2	愛知県農林部	概要説明と館内ガイド	応接室・展示室	前畑
8	9	根室市北方少年少女派遣事業	博物館活動	応接室	高橋
8	10	韓国国立民俗博物館	展示室視察	展示室	牧野（久）
8	23	NHK京都文化センター	概要説明	ホール	前畑
8	29	北九州市立いのちのたび博物館	教育普及活動	実習室	谷口・中村
9	1	宮崎県教育委員会文化財保護課	概要説明	展示室	用田
9	14	野外教育研究所	概要説明	会議室・展示室	布谷
9	17	兵庫県考古博物館準備室	概要説明	応接室	布谷
9	19	全国地方紙幹部交流会	概要説明	会議室・展示室	布谷
9	19	帝京平成大学博物館学担当教授	収蔵庫見学	地学収蔵庫	山川
9	27	北海道教育大学	教育普及活動	実習室	谷口
10	4	倉敷科学センター	概要説明	会議室・展示室	布谷
10	14	農林水産省農村振興局水利整備課	博物館展示案内	展示室	杉谷
10	14	奈良大学	概要説明	展示室	用田
10	16	北方四島交流事業	概要説明	ホール	前畑
10	19	中国湖南省青年友好訪日団	概要説明	会議室・展示室	布谷

10	21	所沢市議会	概要説明	会議室・展示室	布谷
10	27	国土交通省	展示解説	展示室	武部
11	2	ネパール環境教育開発センター	JICA研修：展示案内	展示室	中井
11	4	南山大学民族学博物館	概要説明	応接室	布谷
11	17	栗東企業懇話会	博物館の方針・システム	会議室	松田
11	25	神奈川県河川協会	展示解説	展示室	武部
12	7	退職女性校長会	教育普及活動	実習室	谷口・中村
12	13	東京都北区議会共産党議員団	概要説明	応接室・展示室	前畑
12	14	国立歴史民俗博物館第六展示室リ ニューアル委員会	概要説明	応接室・展示室	布谷
12	15	浅間縄文ミュージアム	概要説明	応接室	布谷
12	6	愛知学院大学	施設見学と解説	展示室	布谷
2	1	福井市自然史博物館	教育普及活動	実習室	谷口
2	7	香川県歴史博物館	ギャラリー展示解説・案 内	展示室	杉谷
2	8	未来科学館（竜王町教育委員会）	教育普及活動	実習室	谷口
2	9	ソウル歴史博物館	概要説明	展示室	牧野(厚)・ 青木
2	15	駒沢女子大学	概要説明	展示室	用田
2	22	比治山大学学生	活動紹介	実習室	里口
2	24	信州大学農学部アルプス圏フィー ルド科学教育研究センター	概要説明	事務学芸室	前畑
3	1	山口県立山口博物館	博物館施設、展示、資料 管理に関する概要	動物収蔵庫など	八尋
3	3	鹿児島県立博物館	昆虫分野の展示のあり方	展示室	八尋
3	5	東京大学大学院農学生命科学研究 科	博物館展示案内	展示室	杉谷
3	15	島根県教育委員会	概要説明	展示室	用田
3	30	京都造形芸術大学	概要説明	展示室	用田

#### (4) 質問コーナー・フロアトーク

当館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”の実現をめざしている。その一環として情報利用室の一角に「質問コーナー」を設置している。開館日には、学芸職員が日替わりでここに常駐し、一般の方々からの質問に回答している。回答可能な質問には担当学芸職員がその場で答え、専門的な内容を含む質問については、それぞれの専門学芸員が回答することになっている。また、館長も、学芸職員にまじって月一回程度、質問コーナーを担当している。受け付けた質問の内訳は下表の通りである。

当コーナーでは、図書室入り口の壁に、質問コーナー担当学芸職員の前定を掲示している。来館者に担当学芸員の専門分野と氏名を示すことにより、できるかぎり専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。この担当学芸職員の前定表は、ホームページにも掲載しており、インターネットで閲覧できるようになっている。

なお、その日の質問コーナー担当者は展示室で自分の専門分野などに関する「フロアトーク」を実施している。

### 質問コーナーにおける質問内容

期 間	2005年4月1日～2006年3月30日				
総質問数	632件				
質問内容	一般的な質問(総合案内で回答できるようなもの)			232件	
	専門的な質問			400件	
対 応	担当学芸職員が対応			484件	
	専門学芸職員(または外部)に依頼			148件	
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	魚類	170件	プランクトン	14件
		その他の水生動物	57件	動物一般	99件
	植 物	陸上植物			35件
		水生植物			19件
地 学	45件		図 書	24件	
物 理	1件		琵琶湖	42件	
歴 民	17件		環 境	11件	
博物館	19件		その他の質問	79件	

### 情報発信活動

琵琶湖博物館では、コンピュータ技術を活用し、情報拠点として機能できる基本情報システムの構築を進めてきた。しかし、コンピュータ技術の発展と普及に伴って電子情報が博物館活動の全体に広く関わりを持つ状況になり、電子情報関連の業務だけを独立した事業の1つとして取扱う意義が薄れてきた。その一方で、コンピュータ技術と関わりが深い二次資料(図書映像資料)を整備する事業を、一次資料(いわゆる実物資料)の整備と別に取扱うことの弊害が目立ってきた。そこで、開館から2003年度まで一次資料のみを対象としていた資料整備事業において二次資料の整備も取扱うこととし、情報に関する担当部署(情報センター)では、コンピュータ技術に関わる他の事業、すなわち電気通信を利用した「情報発信」に関わる事業と、コンピュータ利用の基本となるインフラストラクチャの整備に関する事業のみを取扱うこととした。この結果、情報センターが組織として小規模になりすぎたため組織体制を見直すことにし、今年度は暫定的に交流センターに統合する形で運営を進めた。

#### (1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前から種々実践しながら検討を進めてきたが、前年度までにwww(いわゆる「ホームページ」)を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を利用したり、博物館資料のデータベースや各種の学術情報を検索利用することができる。

実際の運用は、データベースや電子交流システムなど利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2005年度における各サーバのアクセス件数は下表のとおりであった。

### インターネットページ（静的サーバ）へのアクセス件数

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
4月	1,200,655	351,427	46,514	11,736	8,712
5月	1,719,816	468,523	51,425	13,819	10,321
6月	1,695,739	487,445	56,003	13,785	9,811
7月	2,026,918	530,967	60,314	16,413	12,144
8月	2,338,269	594,496	64,118	17,428	12,531
9月	1,781,925	484,103	57,617	13,729	9,686
10月	1,615,587	448,445	53,812	13,231	9,009
11月	1,488,661	411,140	60,965	12,258	8,177
12月	1,057,948	329,965	43,477	9,622	6,492
1月	1,421,260	410,226	49,693	13,483	9,408
2月	1,752,555	509,437	54,532	13,493	9,478
3月	1,375,898	422,357	42,673	12,575	9,029
合計	19,475,231	5,448,531	641,143	161,572	114,798

総ヒット数 : サーバに対する全ての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）各ページの定義。ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる  
 ページヒット数 : 「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数  
 連続アクセス : 同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは、合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）  
 表紙アクセス : 「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセスの件数（「表紙から入った」と「表紙へ戻った」ものとの合計）  
 表紙開始アクセス : 「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数

\* 「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は合わせて1件しか計数されない。

### インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	258	401	325	353	412	310	324	333	238	343	320	260	3,877
絞込検索回数	165	414	179	342	174	220	181	149	105	443	270	128	2,770
データ閲覧件数	1,808	5,844	1,944	4,018	2,183	3,355	2,740	2,373	1,153	6,747	7,166	1,973	41,304

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合

\* 博物館内部からのアクセスは計数していない。

#### 《インターネットページの大規模更新》

当館のwwwページは、1996年12月25日に運用開始した後、1998年10月18日に全体を置き換える形の大規模な更新を実施し、さらに2002年5月28日には、コンテンツ（情報提供の目的となる本来の情報）は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を大幅に見直す形の更新を行っている。しかし、それ以後は全体の構造に関わるような変更を行うことなく、個々の内容を充実するよう整備を進めてきた。

その結果、当館のwwwページは、「“調べごと”に使うには重宝」である（例えば検索エンジンからは使いやすい）という定評を得るに至ったが、その一方で「初めて見る方や概要を見たいという方には利用しにくい」という批判を受けるようになった。具体的には、ウェルカムページ（表紙ページ）から順にたどった場合に、目的の情報を探し出しにくいこと、「充実した情報」をしっかりと整備することを重視しすぎて、「琵琶湖博物館について知りたい」という要求に応える「広報媒体」としての側面を十分に検討できていなかったことにある。そこで、現に存在する情報内容は維持しつつ、情報の「見せ方」を抜本的に再検討する方針で、2005年度に大規模更新の作業を進めた。

更新作業に先立ち、すぐできる作業として、ウェルカムページ（表紙ページ）のレイアウトを5月1日に更新し「新着情報（ニュース情報）」に、ウェルカムページから直接アクセスできるようにした。

全体に関わる更新作業としては、まず「Webページリニューアル検討委員会」を年度前半に3回開催し、全体方針を確定するとともに情報の収集方針について協議した。

第1回：6月3日（金）リンク構成の大枠を決定

第2回：6月24日（金）「補足を要する情報」の収集方針を決定

第3回：7月22日（金）活動紹介（特に研究活動）の整備方針を決定

以後は情報発信部門の担当者が各部門の担当者と調整しながら具体的な新内容の製作を進め、3月13日に公開を開始した。

新しいページでは、各利用者が設定していると考えられるブックマーク登録やリンク登録が無効とならないよう、情報のURL（情報の存在位置を特定するための識別情報）を変更しないように努め、已むを得ず変更する場合には、旧URLに新URLへの誘導を配することとした。

そのうえで、情報を提示するための整理方法を根本的に検討した。具体的には、博物館Webに対する利用者のニーズを「施設利用案内」「学術情報の検索」「博物館とのコミュニケーション」の3つのカテゴリーに整理し、各々を「博物館へ行こう」「インターネットで調べよう」「博物館のことをもっと知りたい」と命名して、この3つの主カテゴリーや、その中で細分化したカテゴリーを明確に意識してもらえるような構造とした。各情報ページにおいても、その情報がどのカテゴリーに属するのを示すガイドを設置し、そのガイドを介していつでも大きなカテゴリーへ戻れるような構造とした。



滋賀県立  
琵琶湖博物館  
〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091  
TEL 077-568-4811 FAX 077-568-4850



▶ ENGLISH ▶ 携帯用 ▶ サイトマップ

3月開催カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※休館日・営業しきれないサンデー

博物館へ行こう！

- ▶ 利用案内
- ▶ イベント情報
- ▶ 常設展示
- ▶ 期間限定の展示

インターネットで調べよう！

- ▶ 資料データベース
- ▶ 電子図鑑
- ▶ 気象観測データ
- ▶ 琵琶湖の概要
- ▶ Q and A
- ▶ リンク集

博物館をもっと知りたい！

- ▶ 琵琶湖博物館について
- ▶ 研究室
- ▶ 5つの活動
- ▶ 人ネットワーク
- ▶ 出版物

What's New

- 当サイトをリニューアルしました！  
当サイトは、2006年3月13日にリニューアルしました。
- 工事中につきご迷惑をおかけいたします。  
ただ今、正面玄関南側で、多目的休養施設建設、および身体障害者用駐車場の改修工事を3月末日までの予定で行っております。  
身体障害者用駐車場は、通用門横「関係者駐車場」内に仮設しておりますので、ご利用ください。

Topics

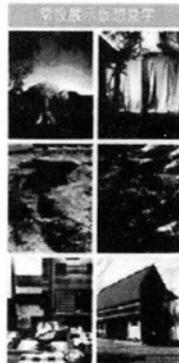
- ギャラリー展示只今、開催中！  
「こどもが見つめる ふるさとの川 - こどもエコクラブ伯母の五郎のたからもの -」只今、開催中！  
3月4日(土)～4月9日(日) 木基企画展示室

ギャラリー展示

**参加する博物館**  
こどもが見つめるふるさとの川  
- こどもエコクラブ伯母の五郎のたからもの -  
博物館を楽しもう  
～はしかけ・フィールドレポーター活動紹介～

フロアトーク&質問コーナー

本日の担当  
休館日



- リンクについての考え方
- WEB更新履歴

LastUpdate 03/12/2006 21:25:42

## (2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館側からの一方的な情報発信だけでなく、来館者や遠隔地の人からの情報を受ける活動も含めた双方向の情報交換を実現するため、2つのサービスを行っている。

### 1) 電子メールによる質問などの受付サービス (query@lbn.go.jp)

インターネットを介した電子メールによって、質問、感想、要望などを受け付け、担当者が内容に応じた専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを行っている。2005年度は全部で175件のメールがあり、その内容は以下のようなものであった。画像使用の許可依頼は専用メールアドレス (photo@lbn.go.jp) を設けたため激減した。

内 容	件 数
専門的内容を含む質問	110
施設利用・行事などの問い合わせ	15
情報掲載依頼 (リンク許可・サイト登録を含む)	10
資料の提供・利用、収蔵資料についての問い合わせ	10
館の運営についての意見	7
館の運営についての問い合わせ	5
職員採用についての問い合わせ	4
館の案内資料の請求	3
その他	11
合 計	175

スパムメール、ウィルスメール、一方的な情報提供までは計上していない。  
回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。

### 2) 電子交流システム (LBMNET)

各家庭のパソコンを博物館のシステムに接続することにより、身のまわりのできごとに関する報告や質問を書き込んだり、他の参加者の質問などに対応して議論したりすることができるシステムである。当初は旧来型のパソコン通信で接続するシステムとして運用開始し、現在も利用可能であるが、1999年にインターネットを経由して接続することもできるように改良し、現在はこちらが主たる入口になっている。

## (3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
研究調査報告書 24 号	A 4	125	800
資料目録 13 号「民俗資料 1」	A 4	458	900
資料目録 14 号「民俗資料 2」	A 4	283	900
年報 9 号	A 4	141	700
うみんど 35 号	A 4	8	30,000
うみんど 36 号	A 4	8	20,000
うみんど 37 号	A 4	8	30,000
うみんど 38 号	A 4	8	30,000
うみっこ 18 号	A 4	4	50,000
うみっこ 19 号	A 4	4	50,000
もよおしもの案内 (2005 年度 秋冬編)	A 4		43,500
もよおしもの暦 (2005 年度 秋冬編)	A 2		1,370
もよおしもの案内 (2006 年度 春夏編)	A 4		45,000
もよおしもの暦 (2006 年度 春夏編)	A 2		1,350
企画展示「歩く宝石オサムシ」展示解説書	A 4	123	2,000
企画展示「歩く宝石オサムシ」ポスター (日本のオサムシたち)	A 2		3,000
企画展示「歩く宝石オサムシ」ポスター	A 2		2,000
企画展示「歩く宝石オサムシ」チラシ	A 4		30,000
企画展示「歩く宝石オサムシ」チラシ (学校PR用)	A 4		160,000
企画展示「歩く宝石オサムシ」JR 駅用ポスター	B 1		100
企画展示「歩く宝石オサムシ」JR 駅用チラシ	A 4		15,000
企画展関連展示「飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー」リーフレット	A 4	8	30,000
ギャラリー展示「淡海の川」リーフレット	A 4		5,000
ギャラリー展示「淡海の川」JR 駅用チラシ	A 4		15,000
ギャラリー展示「タガベエのため池探検」チラシ	A 4		20,000
ギャラリー展示「タガベエのため池探検」ポスター	A 2		2,000
ギャラリー展示「タガベエのため池探検」リーフレット	A 4	8	10,000
ギャラリー展示「タガベエのため池探検」手帳			20,000
ギャラリー展示「タガベエのため池探検」JR 駅用チラシ	A 4		15,000
ギャラリー展示「博物館を楽しもう」「子どもが見つめるふるさとの川」チラシ	A 4		4,000
研究発表会「東アジア」チラシ	A 4		7,000
観察会チラシ「身近な環境の魚たちを調べよう」	A 4		11,000
夏休み「自由研究講座」チラシ	A 4	1	6,000
博物館講座チラシ「湖沼学基礎講座、川の生き物調査、生き物飼いや方講座」	A 4		9,000
サポートシート (21 種)	A 4	23	2000 組
広報用「琵琶湖&川の魚」カレンダーポスター	A 1		5,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A 4		210,000
広報用「カード型リーフレット」	カード大		120,000
フィールドレポーター募集チラシ	A 4		4,000
要覧	A 4	150	1,000
琵琶湖博物館子ども用リーフレット			100,000

## Ⅱ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

来館者、特に学校団体の方からの要望が多く、開館時からの懸案事項であった、雨天時の昼食・集合の場所の確保のため、全天候型昼食・集合施設の整備を行った。今後、昼食・集合の場所としての機能だけでなく、野外での観察会などの多目的な利活用も検討していきたい。

また、車いす使用者駐車場を増設し、屋根を設置することや、障害者用トイレの一部をオストメイト対応トイレに改善するなどユニバーサルデザイン化事業を実施した。

#### (2) 情報システムの整備

2005年度は、以下のような更新、追加整備等を行った。

##### 1) 機器の更新

開館後9年を経過し、損傷するなど老朽化が進行している機器を主にリースによって更新した。

今年度新規導入した主な機器は、以下のとおりである。

ノート型パソコン (Macintosh : Macintosh社製iBookG4) 7台

ノート型パソコン (Windows : Dell社製Inspiron 6000) 2台

デスクトップ型パソコン (Macintosh : Macintosh社製PowerMac G5) 1台

デスクトップ型パソコン (Windows : Dell社製Dimension 5100c) 1台

カラーレーザープリンター (Oki 9300PS) 1台

モノクロレーザープリンター (Canon LBP 3800) 2台

##### 2) ソフトウェアの追加開発

琵琶湖博物館の収藏品データベースは、主に博物館が収蔵する資料の管理を目的として構築運用され、現在までに約40万件のデータが入力されている。1999年度以降、このデータベースに蓄積された資料情報を一般利用者にも公開して活用してもらうため、準備が完了した分野から順次システム改良を進めている。本年度は、そのうちデータベースの英文公開のためのシステム改良を行った。

##### 3) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、ファイヤーウォール装置やウイルス対策システムについて、メーカーとの契約に基づいて提供される改良版ソフトウェアを順次導入し、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。

#### (3) 来館者アンケート調査結果

##### 1) 目的

博物館利用者の動向を把握し、そのニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の広報活動のあり方を考え、運営や企画にその声を生かすなど、人びとに利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを毎年3ないし4回行っている。

##### 2) 実施時期

アンケートの実施は、原則として平日と休日を含んで連続する3日間とし、来館者への券売時に毎日1,000枚を手渡ししてアンケート協力をお願いをしている。また、別途、アンケート記入台をアトリウムに2箇所、玄関横に1箇所、計3箇所設置してアンケート用紙類を置いて実施している。

2005年度は、夏休みの8月20日(土)から8月22日(月)、秋の行楽シーズンの11月18日(金)から

20日(日)、さらに春休み中の2006年3月24日(金)から26日(日)の計3回にわたりアンケート調査を実施した。

第1回	2005年8月20日(土)～8月22日(月)	回答者数	266人
第2回	2005年11月18日(金)～11月20日(日)	回答者数	155人
第3回	2006年3月24日(金)～3月26日(日)	回答者数	174人

### 3) 項目

来館回数、博物館を何で知ったか、滞在時間、満足度、開催中の企画展・ギャラリー展などについて尋ねた上、意見や不満な点などがあれば具体的に記入していただいた。また、記入者自身について、年齢層、居住地域、同行者の有無を教えてください形式である。

2005年度のアンケート調査では、琵琶湖水系に位置する大阪・京都・滋賀地域のミニコミ誌、関西・東海地域で販売される旅行雑誌への広告効果を測る質問を設けた。また、第1・2回目のアンケート調査では、企画展示の内容に合わせて行った昆虫専門誌への広告の効果を測る質問を加えた。

### 4) 傾向

毎回のアンケート調査の結果はほぼ同じ傾向を示し、きわめて安定したデータであることが2005年度についてもいえる。

#### ① リピーター

リピーターは、昨年度同様約30%以上の方が4回以上の来館者であり、リピーターの利用は安定している。また、新規の来館者は2004年度には約40%にまでなっていたが、2005年度は約45%になっている。新規の来館者はリピーターにつながることから、今後も新規来館者の利用を促進するための対応が必要である。

#### ② 口コミ

来館のきっかけとなった情報源は、友人・知人、家族・親戚からの口コミによるところが依然として多く、口コミによる情報提供の機会を高めるために、カードサイズの広報用リーフレットを作成した。また、湖周道路の看板が来館のきっかけになっている場合も多いことから、道路に設置されている案内標識の位置確認と、効果的な地点への設置を関係機関へ働きかける必要がある。

#### ③ 企画展示・ギャラリー展示

企画展示「歩く宝石オサムシ」を観覧された方は80,171人と過去最高であった。これは、子どもたちに人気のある昆虫がテーマであったことや、大人から子どもまでが楽しめる展示が当初から考えられていたこと、地元のグループと協働して作り上げた企画展ということで、マスコミに取り上げられたことなどが考えられる。また、県下の小・中・養護学校の全児童・生徒へのチラシ配布や、琵琶湖水系に位置する京都・大阪の小・中・養護学校へポスター・チラシの配布、京都・大阪・滋賀の地域ミニコミ誌への広告など、計画的な広報も効果があったと考えられる。

#### ④ 満足度

博物館を訪ねてみて、「非常に満足した」と「満足した」をあわせると80%以上を占めた。特に第2回目の調査では86.4%とこれまでにない高率であった。これは企画展示が好評であったこと、A展示室、B展示室、水族展示室、ディスカバリールームで開催されたトピックス展示や、水族展示室での給餌解説などの活動が満足度の向上に結びついたと考えられる。満足度の数値については「琵琶湖博物館中長期基本計画」第1段階の「年3回平均目標値75%」を達成することができ、同計画第2段階での目標値の上方修正が可能となった。

「もう一度来てみたい」という来館者も2004年度を上回って70%近くにまで増えた。「観察会や体験学習に参加したい」という希望者も20%前後で推移して2004年度を上回った。博物館のリピーターを増やす意味からも、これからは博物館の諸活動を継続的に充実させることが必要である。

⑤ 不満な点

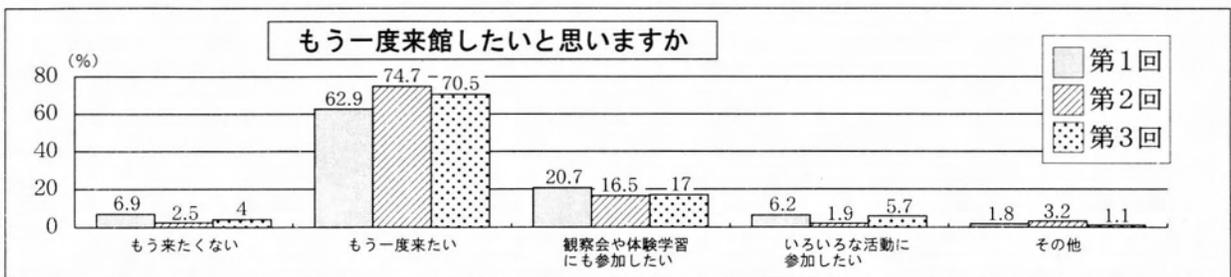
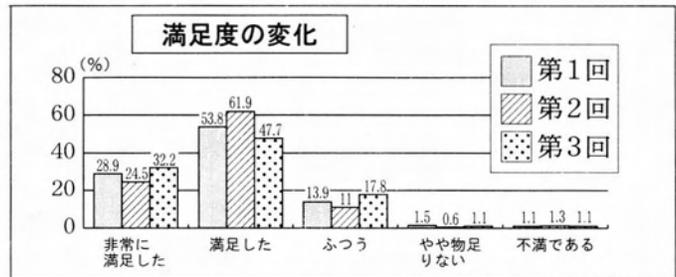
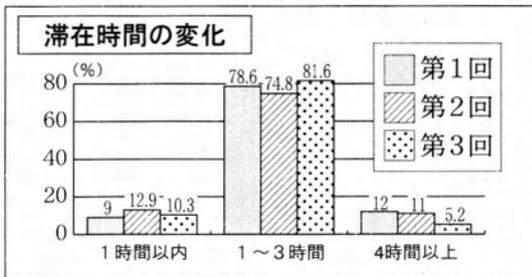
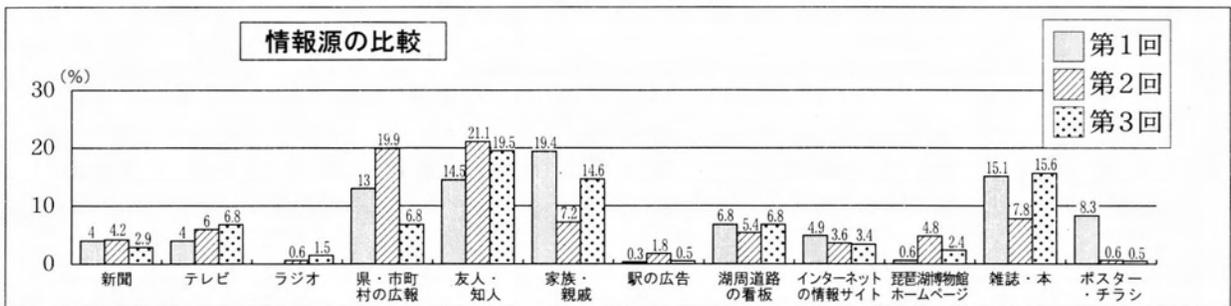
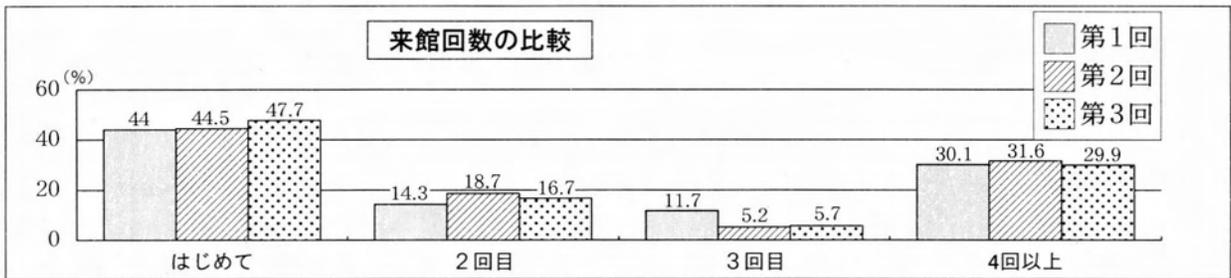
来館された方からの「不満な点」は、レストラン、交通の便、駐車場、昼食場所、休憩場所が少ないことなどに集中している。これは、以前から課題となっている項目であるが、その数字は徐々に下がってきている。さらに不満点を解消するため、2006年度当初には屋外の屋根付き昼食場所を開設し、休憩場所についても、レストラン前のアトリウムに椅子を増設するなど、今後とも改善に努めていきたい。

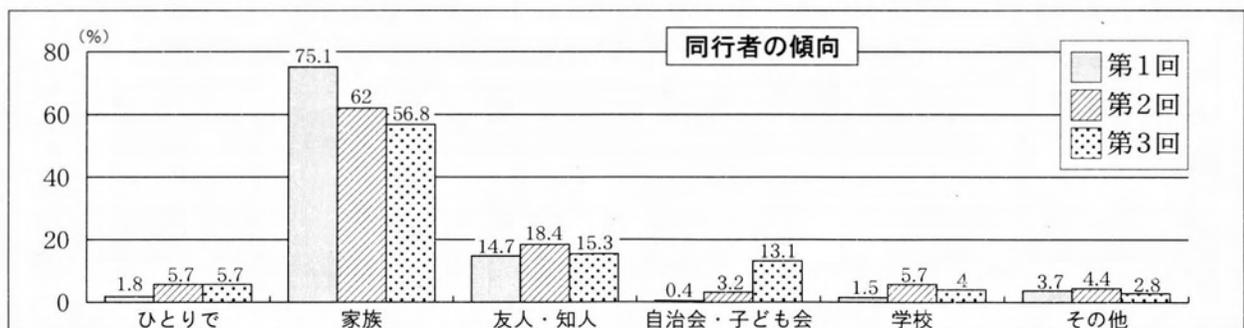
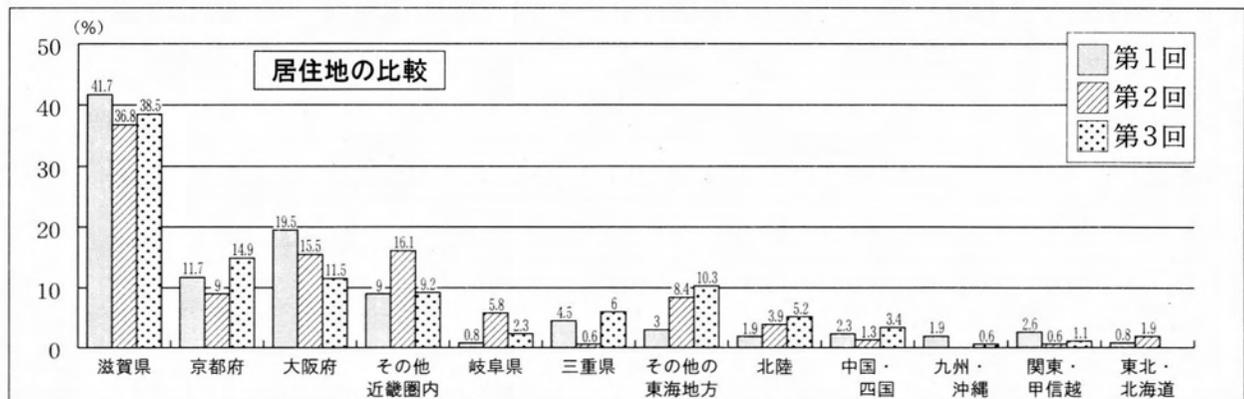
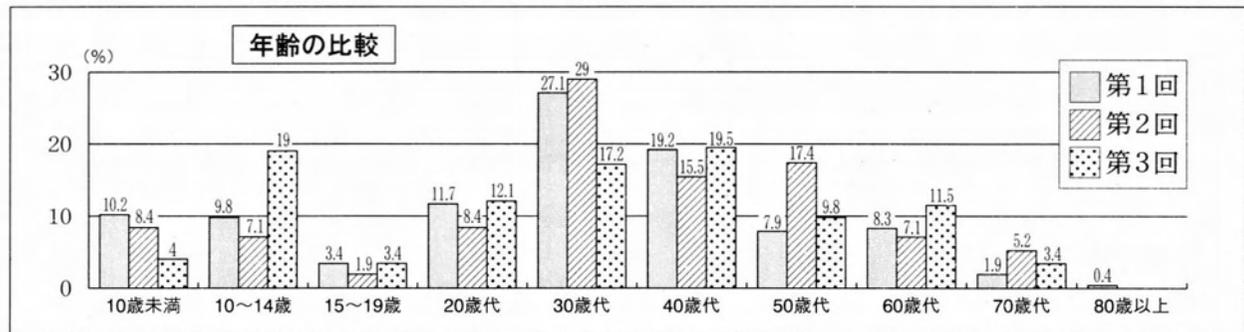
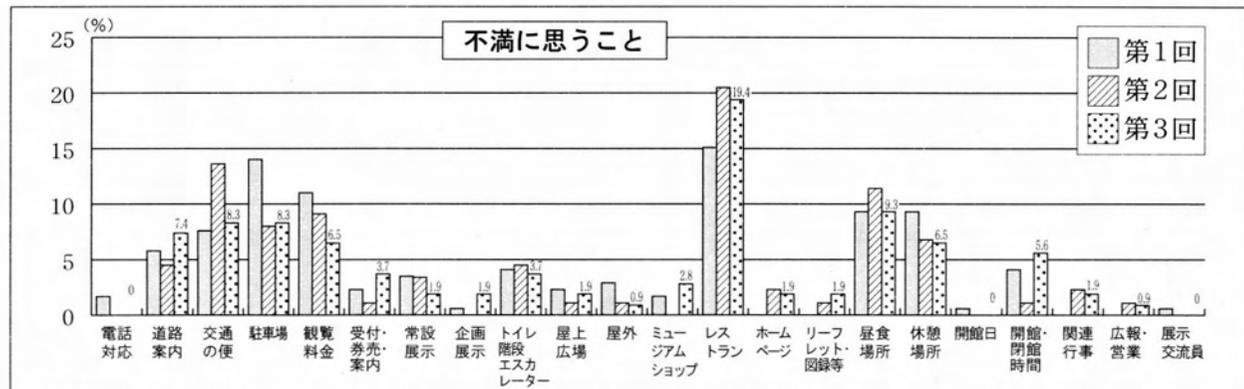
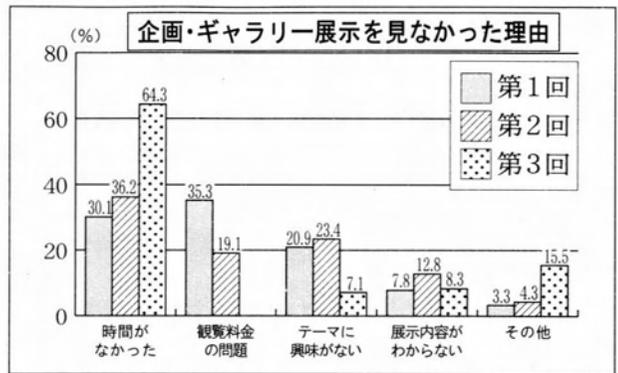
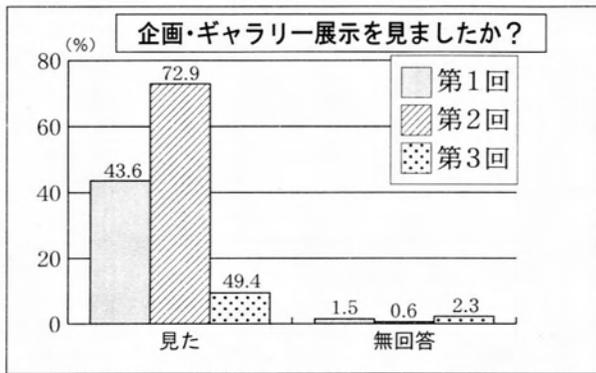
これら来館者からの意見については、関係者への周知を行うなど一層の内部努力を求めるとともに、毎回のアンケート調査後、琵琶湖博物館としての対応や考え方を整理し、公表しているところであるが、根本的な解決に至らない課題もある。

⑥ 来館者

来館者の年代を見ると30歳代、40歳代の方が中心であった。アンケート調査を実施しているのが土曜日、日曜日や夏休み、春休みであることから、ご家族連れの利用が多いことが伺われた。また、50歳代の方の利用が昨年度に比べ、わずかではあるが伸びていることも注目していきたい。

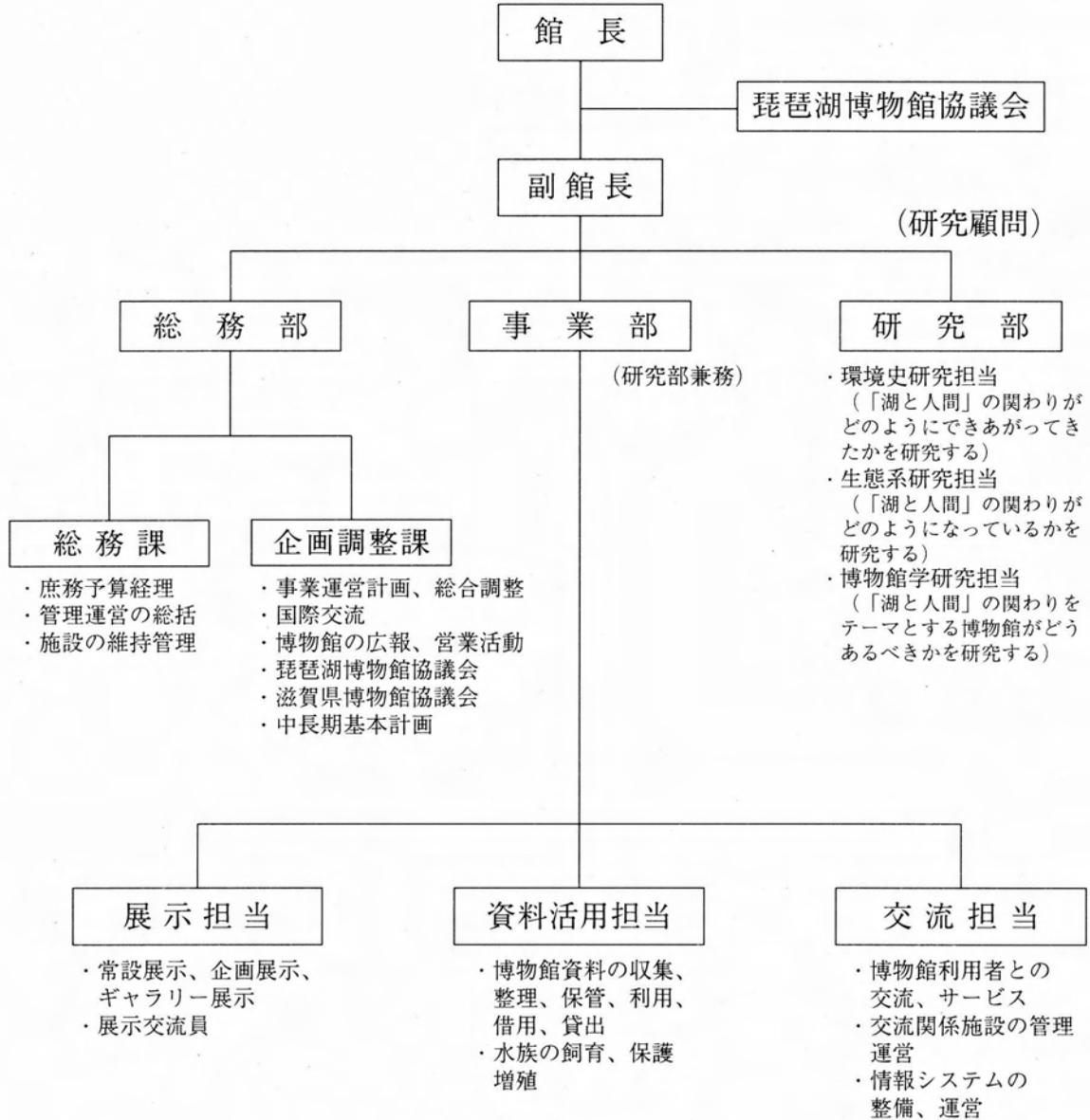
来館者の居住地を見た場合、40%近くが滋賀県内の方で、続いて大阪府、京都府の順となった。また、滋賀県を含めた近畿圏の方が約80%を占め、東海地方が10%強であったが、全体的な比率は2004年度と大きな変化はなかった。





## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2005年4月1日現在)

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数 (名)	1	12	28	2	43	15	58

(2) 職員

(2005年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 上原 正男
- 上席総括学芸員 布谷 知夫
- 上席総括学芸員 中島 経夫

総務部

- 部長 上原 正男
- ◇総務課
- 課長 白井 莊一郎
- 主幹 久保 一吉
- 同 奥野 昭子
- 主査 田中 順子
- 主任主事 西田 千恵子
- 主事 井上 裕士

- ◇企画調整課
- 課長(兼) 松田 征也
- 課長補佐 杉野 和彦
- (兼) 孝橋 賢一
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 里口 保文
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス

事業部

- 部長(兼) 用田 政晴
- ◇展示担当
- G.L.(兼) 牧野 久実
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 武部 強
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 八尋 克郎
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 榊永 一宏

- ◇交流担当(交流センター)
- G.L.(兼) 牧野 厚史
- S.G.L.(兼) 戸田 孝
- (兼) 前畑 政善
- (兼) 杉谷 博隆
- 主査(併任) 谷口 雅之
- 主査(併任) 中村 公一
- (兼) 金子 修一
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子

- ◇資料活用担当
- G.L.(兼) 秋山 廣光
- (兼) 桑原 雅之
- (兼) 山川千代美
- (兼) 矢野 晋吾
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 大塚 泰介

研究部

- 部長(兼) 高橋 啓一
- 研究顧問 嘉田 由紀子
- ◇環境史研究担当
- G.L.総括学芸員 高橋 啓一
- 主任学芸員 牧野 久実
- 同 山川千代美
- 同 橋本 道範
- 同 里口 保文
- 学芸員 宮本 真二
- 同 榊永 一宏

- ◇生態系研究担当
- G.L.総括学芸員 前畑 政善
- 専門員(兼) 杉谷 博隆
- 専門学芸員 松田 征也
- 主任主査(兼) 武部 強
- 主査(兼) 金子 修一
- 主査 孝橋 賢一
- 主任学芸員 草加 伸吾
- 同 楠岡 泰
- 同 中井 克樹
- 同 桑原 雅之
- 同 牧野 厚史
- 同 芳賀 裕樹
- 同 亀田佳代子
- 同 矢野 晋吾
- 同 大塚 泰介
- 学芸技師 ロビン・ジェームス・スミス

- ◇博物館学研究担当
- 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- G.L.総括学芸員 用田 政晴
- 専門学芸員 秋山 廣光
- 主任学芸員 戸田 孝
- 同 八尋 克郎
- 同 芦谷美奈子
- 学芸員 中藤 容子
- (兼) 谷口 雅之
- (兼) 中村 公一

注) G.L. はグループリーダー、S.G.L. はサブグループリーダーを示す。

臨時的任用職員・嘱託員

小菅由有子	館長秘書	國分 政子	歴史民俗資料整理
鎌田美智子	同	太田 佳恵	同
堀田 桃子	ディスカバリールーム運営	杉江鉄之介	実習補助・団体利用受付
磯野なつ子	同(～H17.11)	北川 峰男	屋外展示運営
荒井 文子	同(H17.12～)	青木 伸子	交流事業
大澤 勉	展示物の製作・維持補修	天野 好美	メディアラボ業務機器保守管理
小泉 誠	地学標本整理	中西美智子	図書情報利用室運営・図書資料整理
大川 聡	微小生物標本整理		

県職員以外の職員等およびフィールドレポーター・はしかけ登録者

◇特別研究員

藤田裕子、野嶋宏二、水野敏明、堀田桃子、北村美香

◇総務事務補助

菊池さとみ、下村美香子

◇研究補助

打越 崇子、大橋 正敏、大島 輝美、奥田 学美、甲斐 朋子、北川 直子、北村 明子、  
白井 幸子、瀬川也寸子、田尾 稲子、高田千都子、高橋 和征、谷川 真紀、辻川 智代、  
坪井美智子、中山 法子、花田美佐子、服部 尚子、平野 文子、細川真理子、八尋 由佳、  
山中 裕子、山本 亜紀、鈴木 規慈、村田 美德、室田 清枝、中村 和代、中村 優介、  
奥田 学美

◇図書資料整理・図書情報利用室運営

後藤嘉治子、野口比佐江

◇情報システム管理

佐本 泉、津田 厚弘

◇資料整理保存維持管理業務員

石田 未基、上原 千春、太田 学、黒田 耕平、佐々木 剛、辻 美穂、出口 武洋、  
西川 佳子、山本真彩子、若狭 善弘

◇水族飼育員

右川 洋一、岡田 隆、岡田 勇馬、岡本 博仁、佐藤 智之、柴山 弘史、関 慎太郎、  
布施 幸江、藤井 泰正、丸尾 有美、安永 美幸、山田 康幸、吉川真一郎、西村 博之、  
豊田 幸詞、吉田 史子、岡本 博仁、御葉袋 聡、原口 哲史

◇展示交流員

斉藤 晶久、愛須美由起、芦田 弘美、荒井 紀子、池畑 慎吾、石川 寛子、井出 範子、  
犬塚 菊美、今泉 美保、今泉 圭恵、岩見 勉、大川 篤子、大林 博子、大山 綾子、  
大山 智子、奥村 恵子、折中 康子、金盛 美和、釜本 敦子、北川喜美榮、北田 昌子、  
木村 美枝、北村 美香、近藤 摩子、斉藤 文子、坂井 純子、佐藤 朋、澤井 秀之、  
清水 聡子、杉本 和子、田村 芳子、土井 博子、中江美知子、中村とく子、浪江伊都子、  
西尾 文里、西山 順子、橋本 富栄、林 克子、広谷ちひろ、福井 明美、本田 幸子、  
村田 洋子、森永紗江子、柳原 徳子、山元 真里、弓削 宣子、吉岡 令、吉田 治美、  
三宅 磯司、谷 貴美代、鴨田真依子、谷 美沙子、前川 桂子、森 智美、木村 永

◇常設展示補修

緒方久美

◇企画展示・ギャラリー展示運営

貝増千賀子、坂本 卓、白井 弘子、中井 大介、吉井 利典

◇警備員

中村 善夫、大原 進、近藤 功一、永田 哲彦、南条 博、野口 幸二、山本 勝、

◇清掃員

勝島 道子、北川 智子、滝 勇男、中井寿美子、平井千代子、堀井 加代、滝 千晶、  
野田 勝

◇設備管理員

北川 宏、黒川 勲、近藤 武夫、酒井 芳樹、瀬川 満、曾我 元弘、竹内 和雄、  
田中 聰徳、土居 都義、廣瀬 正尚、福井 勇、伏見 庄司、松原 茂、吉浦 修、  
青木 努、一 宗一郎、吉井 利典、

◇屋外清掃

片岡 輝子、高田 明美、黒川よし江

◇駐車場

市川 義男、糸岡嘉津一、片岡 久男、黒田 晃次、園田 与一、田中 勝、辻元 次男、  
土野池周平、菱本鉄太郎

◇ミュージアムレストラン

飯田 昌子、伊藤 雅美、井上ゆき子、入江 美雪、岡田真弓美、奥村 法子、北川 真悠、  
駒井 知代、平井 芳章、堀川 勝義、岩崎由美子、杉本 尚美、原口 澄子、冷牟田雅子、  
松木美代子、山下 沙世

◇ミュージアムショップ

中島千賀子、中谷由紀子、長崎 宏昭、森 薫、中山 陽子、槿山 加奈、長門 ゆき

◇フィールドレポーター

青井 陽子、有田 重彦、井門 静夫、井上 弘司、井野 勝行、伊吹 達郎、岩根 健治、  
江尻 清子、大石 法子、大石 雅也、大橋 義孝、岡崎 直純、奥村 勤、奥村 恵子、  
小倉 市子、小利池享良、片岡 庄一、勝見 政之、門脇きみ子、梶島 昭紘、梶島奈美子、  
北川 幸雄、北川 尚弘、京美 季男、久保 穂子、口分田政博、小林 隆夫、小林 光子、  
小原 寿子、阪口 進、澤島 篤、杉江ミサ子、梶本さつき、高瀬喜久男、高田 正一、  
高田 節子、武田 繁、谷元 峰男、田村健太郎、津田 國史、土田 正文、寺村 知子、  
中川 徳司、中後佐知子、中西 健、西野 薫、東野 重信、平井 政一、古谷 善彦、  
堀野 善博、前田 雅子、松野久美子、水戸 涼乃、水戸 基博、水戸 涼介、村上 靖昭、  
森 小夜子、森 擴之、安井加奈恵、矢原 功、山崎 千晶、渡辺 克彦、渡辺 秀美、  
渡邊 康子

◇はしかけ

青山 喜博、秋山 茂也、芦田 弘美、有田 重彦、飯田 俊宏、池田 克子、池田彩名枝、  
石井 千津、石川 寛子、石川 雅量、石黒 恭子、磯部 吉邦、今井 洋、今橋 克寿、  
上田 収、上田 修三、上原由喜美、鶴飼 裕子、鶴飼 雅樹、大石麻美子、大崎 淳子、  
大澤 舞、大住 純子、大住 光生、大谷 敏子、大富 信一、大西 治香、大西 尚子、  
大野 貞雄、大橋 正敏、尾形 勇、岡田さゆり、岡田 有矢、沖野 博子、奥西 幸司、  
甲斐 朋子、片岡 庄一、金山 耕、金山 雅幸、金山美佐子、金山 玲子、鴨田真依子、  
川瀬 成吾、川南 仁、岸本 順次、木瀬 昭子、北岡 稔弘、北側 忠次、北川 尚弘、  
北村 明子、北村 史朗、北村 美香、木下多津江、木原 靖郎、木村 恵子、木村 登、  
木村 美枝、久保 明彦、倉田 忠彦、倉田 英恵、黒川 薫、桑垣 瑞、國分 政子、  
小坂 育子、後藤 真吾、後藤 真至、小林 蒼馬、小林 隆夫、小原 寿子、齋藤 真琴、  
齋藤眞由美、酒井 啓子、笹井まち子、佐々木信幸、佐々木則子、佐々木満保、佐々木幹朗、  
佐々木行忠、佐藤 智之、佐藤 義信、佐橋 保司、澤井 秀之、芝田 博美、柴田 正治、  
嶋村のぞみ、清水 聡子、菅 邦子、菅原 和博、杉本 昌隆、杉山 晃規、鈴木 規慈、

鈴木 道弘、鈴木みつ子、角田 典久、瀬尾 好英、瀬川也寸子、高田 正一、高田 昌彦、  
高山 博好、竹内 正吾、武田 繁、武田 広志、竹谷 満弘、多胡 好武、立石 文代、  
谷口 貴也、谷口 實、谷元 峰男、玉藤 典一、田村 雅裕、田室 圭一、辻 勝彦、  
辻 喜久子、辻 美穂、辻川 智代、坪井美智子、所 邦彦、富岡 親憲、苗村かほる、  
苗村 滋治、中田智佳子、永野麻也子、長濱 脩、中村 和代、中村 聡一、中山 法子、  
西川 美喜、西村 義隆、西脇 実代、新田 朋子、額田 春枝、野村 昭夫、萩原 星子、  
橋田栄一郎、橋田 理絵、橋本 昭也、橋本 峯治、原島 和雄、人見 和代、肥山 陽子、  
平尾 武、広谷ちひろ、福田 尚人、福田 千尋、福田 真耶、藤井 晴美、藤井 泰正、  
藤井 優香、藤野あぐり、藤野 未音、藤野美由紀、布施 幸江、古谷 善彦、別所かおる、  
別所 宏二、星野 志保、堀 英輔、堀出 修身、本田 英樹、前田 雅子、松田 彩耶、  
松田 英莉、松田 祐美、松原 孝治、松原 正子、松本 勉、丸尾 有美、水戸 涼乃、  
水戸 基博、水戸 涼介、南井 直之、南 和美、宮本 哲覚、村上五十三、村上 靖昭、  
室田 潔枝、森永紗江子、森村 一貴、森村真由美、森村 康彦、安井加奈恵、柳原 徳子、  
矢原 功、山崎 千晶、山田 徳恵、山田 康幸、山中 裕子、山本 篤、山本 和良、  
鎗野健太郎、行本 宏子、横田 彰子、横田 就介、吉井 隆、吉田 治美、吉野 彰一、  
吉野千栄子、吉本 直之、米田 秀之、和田 昭宏、和田 清恵、渡邊 一郎、渡邊佐和子、  
渡辺菜美子、渡邊 康子

### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2005 年度入館者数)

##### 1) 総入館者数

期間：2005 年（平成 17 年）4 月 1 日～2006 年（平成 18 年）3 月 31 日

合計：450,552 人 開館日数：309 日

一日平均：1,458 人

月平均：37,546 人

##### 入館者区分別内訳

単位：人

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	54,040	4,285	58,325	12.9
小学生・中学生	39,404	77,193	116,597	25.9
高校生・大学生	5,497	8,541	14,038	3.1
一般	193,549	68,043	261,592	58.1
合計	292,490	158,062	450,552	100.0

年月	開館日数(日)	有料入館(人)				無料入館(人)								総計(人)	1日当り平均(人)	
		一般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	障害者	家庭の日	体験学習	こどもの日	学校行事	その他	無料計			
17	4	26	12,839	2,513	7,145	22,497	414	671	895	65		3	5,012	7,060	29,557	1,137
	5	27	24,059	1,520	17,197	42,776	719	991	769	134	459	1,249	7,991	12,312	55,088	2,040
	6	26	15,698	825	11,124	27,647	598	787	1,226	138		1,984	5,359	10,092	37,739	1,452
	7	28	28,368	1,084	7,658	37,110	774	1,002	1,029	63		841	9,155	12,864	49,974	1,785
	8	30	37,796	1,800	14,257	53,853	776	1,544	924	69		340	12,037	15,690	69,543	2,318
	9	22	16,443	1,569	3,941	21,953	345	1,118	1,161	29		1,649	5,724	10,026	31,979	1,454
	10	26	18,969	1,050	15,662	35,681	546	1,500	771	160		6,719	6,212	15,908	51,589	1,984
	11	26	16,433	744	6,248	23,425	663	954	788	30		3,418	8,693	14,546	37,971	1,460
18	12	23	5,628	352	1,603	7,583	153	342	210	35		388	2,860	3,988	11,571	503
	1	24	8,540	465	2,244	11,249	304	370	559	82		250	4,301	5,866	17,115	713
	2	24	12,126	443	4,499	17,068	407	720	1,647	60		1,312	5,324	9,470	26,538	1,106
	3	27	15,260	754	4,537	20,551	468	874	1,293	129		508	8,065	11,337	31,888	1,181
計	309	212,159	13,119	96,115	321,393	6,167	10,873	11,272	994	459	18,661	80,733	129,159	450,552	1,458	

## 2) 学校等入館者数

年 月		小 学 校		中 学 校		高等 学 校		養 聾 盲 学 校	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
17・4	全 体	38	3,320	15	1,399	9	1,714	0	0
	県 内	0	0	0	0	1	30	0	0
17・5	全 体	129	9,671	47	5,725	13	1,647	4	57
	県 内	24	1,021	2	179	1	22	1	20
17・6	全 体	44	3,785	64	8,452	3	250	3	34
	県 内	18	1,579	10	415	0	0	1	13
17・7	全 体	17	1,326	13	1,258	10	254	1	14
	県 内	6	429	3	187	9	183	1	14
17・8	全 体	5	193	16	214	4	119	2	40
	県 内	3	50	13	82	0	0	1	8
17・9	全 体	47	2,996	2	131	9	1,008	6	40
	県 内	28	1,658	1	61	3	91	3	15
17・10	全 体	247	19,294	15	1,054	8	634	7	75
	県 内	90	6,124	7	269	2	41	1	31
17・11	全 体	81	5,525	20	1,897	8	558	3	20
	県 内	45	2,539	8	362	3	255	2	14
17・12	全 体	16	881	2	342	3	116	3	43
	県 内	3	187	1	133	1	23	1	5
18・1	全 体	13	868	1	9	1	83	1	3
	県 内	4	241	0	0	0	0	0	0
18・2	全 体	44	3,399	4	706	0	0	2	14
	県 内	15	1,254	1	16	0	0	1	4
18・3	全 体	8	372	2	268	3	279	2	18
	県 内	3	79	1	87	3	279	2	18
合 計	全 体	689	51,630	201	21,455	71	6,662	34	358
	県 内	239	15,161	47	1,791	23	924	14	142

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日 (祝日除く)	その他	計	
17	4	10,471	7,137	11,949	29,557
	5	22,296	6,679	26,113	55,088
	6	11,180	7,792	18,767	37,739
	7	22,881	10,036	17,057	49,974
	8	17,462	8,566	43,515	69,543
	9	15,682	6,543	9,754	31,979
	10	15,054	7,727	28,808	51,589
	11	15,108	6,646	16,217	37,971
	12	4,667	2,885	4,019	11,571
18	1	8,603	3,378	5,134	17,115
	2	12,987	4,568	8,983	26,538
	3	13,428	5,818	12,642	31,888
計	169,819	77,775	202,958	450,552	
構成割合	37.7%	17.3%	45.0%	100.0%	

(2)新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	民具とくらし(38) 琵琶湖博物館収蔵品から『トボシ』	京都新聞	4	27	湖国の鳥 『アマサギ』 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいちAI版)
	2	琵琶湖博物館の催し物案内	読売新聞 (しが県民情報)		29	民具とくらし(42)琵琶湖博物館収蔵品から「オシギリ(押し切り)」	京都新聞
	3	[こどもタイムズ] 琵琶湖の蟹気楼(なぎさ公園から見た琵琶湖博物館の写真)	中日新聞	5	1	関西で初、琵琶湖博物館で北米原産、五大湖代表する淡水魚レイクトラウト展示	みんなの滋賀新聞
	6	湖国の鳥 『カワセミ』 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいちAI版)		4	湖国の鳥 『アオサギ』 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいちAI版)
	7	屏風「日吉山王祭礼図」琵琶湖博物館で公開	京都新聞		9	県内施設、GW人出どっと 琵琶湖博物館には2万6000人訪れる	みんなの滋賀新聞
	8	民具とくらし(39) 琵琶湖博物館収蔵品から『チギ(千木)』	京都新聞		10	琵琶湖博物館で飼育の5匹 レイクトラウト関西初展示	読売新聞
	13	湖国の鳥 『ハクセキレイ』 亀田佳代子主任学芸員 / [溶け込む] 湖国に移り住んで 宮本真二学芸員	朝日新聞 (あいちAI版)		10	[オビニオン解説] 深刻外来シジミ野生化 松田征也専門学芸員	京都新聞
	15	民具とくらし(40) 琵琶湖博物館収蔵品から『テカゴ(手籠)』	京都新聞		12	[しがファイnder] 野洲川で遭遇した珍しいカナダガンが、琵琶湖博物館で亜種オオカナダガンと判明	みんなの滋賀新聞
	17	[びわこのうちそと] ブラックバス解剖上の巻 研究者に聞く 中井克樹主任学芸員	朝日新聞		12	[湖と人間] 「関係性」をさぐる博物館 宮本真二学芸員	みんなの滋賀新聞
	18	[凡語] 「はしかけ」制度「地域のことはそこに住んでいる人が一番よく知っている・・・」川那部浩哉館長も評価	京都新聞		12	「オサムシの模型をつくろう」の案内	毎日新聞 (オ-!ミー)
	19	膳所小PTA、校庭に琵琶湖形の池 地名由来のゼゼラ飼おう 40匹放流へ	京都新聞		13	マンモス体毛草津でも 琵琶湖博物館、愛知万博に“対抗”	京都新聞
	19	[ゴマメの目] ミエゾウからの招待状 高橋啓一研究部長の話	大分合同新聞		13	民具とくらし(43) 琵琶湖博物館収蔵品から『トオシ(菜種節)』	京都新聞
	20	湖国の鳥 『コサギ』 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいちAI版)		13	甲西図書館、自然と人間の連続講座 講師に中井克樹主任学芸員	中日新聞
	22	民具とくらし(41) 琵琶湖博物館収蔵品から『ゲスイタ』	京都新聞		13	草津市立まちづくりセンター、講演会「地域と共に活動する博物館」講師に琵琶湖博物館上席総括学芸員	みんなの滋賀新聞
	23	[「隣」の外来生物] オオクチバス完全駆除の流れ、加速「琵琶湖を戻す会」が1月に琵琶湖博物館でシンポジウムを開催。影響を抑えるのが大事中井克樹主任学芸員の話	朝日新聞		14	独バイエルン政府団来県 琵琶湖博物館などを視察	産経新聞
	23	水害の怖さ知って備えを固めよう、琵琶湖博物館でギャラリー展示「淡海の川-水害、そして川とともに生きる」を開催	京都新聞		14	新たなマンモス化石探索、野付半島沖専門家が漁船同乗 高橋啓一総括学芸員の話	北海道新聞
	23	きょうから「淡海の川」展 琵琶湖博物館で開催	みんなの滋賀新聞		14	歩こう見よう探そう 『キジバト』今森洋輔(協力 琵琶湖博物館)	みんなの滋賀新聞
	24	[びわこのうちそと] ブラックバス解剖中の巻 琵琶湖を戻す会が琵琶湖博物館でイベント「琵琶湖外来魚駆除の日」を催す	朝日新聞		14	自然環境の大切さを学ぼう 琵琶湖博物館で体験学習	朝日小学生新聞
	26	[オビニオン] 新聞時評 歴史や社会の仕組み、伝え続けて 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授	毎日新聞		15	琵琶湖お魚ネットワーク 網を手に大戸川で水生生物観察	京都新聞
	27	水害過去から学ぶ 写真や施設模型展示「淡海の川-水害、そして川とともに生きる」が琵琶湖博物館で開催	読売新聞		15	高橋啓一総括学芸員らが行っている、野付半島でのマンモス臼歯化石調査 今後も継続的に実施へ	釧路新聞
					17	よみがえれセタシジミ、泥除き砂地復元へ 松田征也専門学芸員の話	読売新聞
					17	お魚ネットワークおおつ主催の水生生物の「調査」体験に「琵琶湖博物館うおの会」参加	産経新聞
					17	琵琶湖博物館入館者の6割がリピーター 松田征也専門学芸員のコメント	読売新聞 (しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	17	琵琶湖博物館でレイクトラウト展示	京都新聞	5	29	【びわこのうちそと】 防げ竹生島のカワウ被害の巻 亀田佳代子主任学芸員の話	朝日新聞
	18	湖国の鳥 『オオヨシキリ』 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいかいA12欄)		29	琵琶湖博物館でオサムシの模型を制作の子どもらが八尋克郎主任学芸員に質問、企画展示「歩く宝石オサムシ」の紹介	毎日新聞
	20	民具とくらし(44) 琵琶湖博物館収蔵品から『クワキリホウチョウ(桑切り包丁)』	京都新聞		29	地域に出向く博物館に、新しい博物館づくりに意欲を燃やす布谷知夫上席総括学芸員	みんなの滋賀新聞
	20	京都新聞滋賀本社主催の講演会「湖灯塾」講師に秋山廣光専門学芸員	京都新聞		29	外来魚放さないで 近江八幡で湖灯塾 秋山廣光専門学芸員が「琵琶湖の環境と魚」と題して講演	京都新聞
	21	中国湖南省代表団、琵琶湖博物館を訪れる	みんなの滋賀新聞		29	魚のゆりかご水田プロジェクト「魚道」で魚がのぼりやすく 『ニゴロブナ』(写真資料提供)	朝日小学生新聞
	21	「流れ藻」で富栄養化 琵琶湖博物館の研究では分布面積は01年には32平方キロ南湖の58%に達した	毎日新聞(夕刊)		30	自然共生をテーマにシンポを琵琶湖博物館で開催	みんなの滋賀新聞
	23	地域とのかかわりテーマに市民団体が講演会開催、「地域と共に活動する博物館」を演題に布谷知夫上席総括学芸員が講演	みんなの滋賀新聞		30	環境学習 湖生かし修学旅行誘致、琵琶湖博物館でも展示と連動させた体験学習が人気 谷口雅之主査のコメント	京都新聞
	23	子らが水質や魚の勉強会 一斉調査に備え「琵琶湖博物館うおの会」指導員2人が調査法と捕まえ方を手ほどき	みんなの滋賀新聞	6	1	太古の地球解く魅力知って高橋啓一総括学芸員の話	読売新聞
	23	県と市が連携 水害に迅速対応、下物町地先で訓練 琵琶湖博物館で「淡海の川ー水害、そして川とともに生きる」を開催中	みんなの滋賀新聞		1	オオクチバスとブルーギル、県内陸部にも広く生息 中島経夫上席総括学芸員のコメント / マンモスの謎絵本で、高橋啓一総括学芸員翻訳し生態紹介	京都新聞
	24	琵琶湖の生態系保全へ行政と市民が連携 高島市が「琵琶湖とたんぼを結ぶ連絡協議会」設置、琵琶湖博物館の学芸員らの案内で自然観察会開催	京都新聞		1	湖国の花 『エゴノキ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あいかいA12欄)
	25	湖国の鳥 「カワウ」 亀田佳代子主任学芸員	朝日新聞 (あいかいA12欄)		3	5日に「自然共生シンポ」琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	26	【論点】 地域に軸足 新たな挑戦 琵琶湖博物館中長期計画	京都新聞		3	第7回日本水大賞、水と文化研究会が受賞 嘉田由紀子研究顧問のコメント	読売新聞
	26	「日本水大賞」にNGO「水と文化研究会」(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が受賞	毎日新聞		3	世界の湖沼巡りフォーラム、問題や研究成果発表 あす琵琶湖博物館で開催	朝日新聞
	26	【湖と人間】 移り変わる琵琶湖地層の研究から見えるもの 里口保文主任学芸員	みんなの滋賀新聞		5	水害に強い地域づくりへ琵琶湖博物館でお年寄りらが体験談、児童は学習成果発表	毎日新聞
	27	民具とくらし(45) 琵琶湖博物館収蔵品から『ハリイタ(張り板)』	京都新聞		5	【びわこのうちそと】 外来生物法Q&Aの巻 琵琶湖博物館のレストランのメニュー、バスパーガーは今後も食べられます 平井義章店長のコメント	朝日新聞
	27	【談話室】 水害は他人事ではない 武部強主任主査	みんなの滋賀新聞		5	水害への備えを考える集いを琵琶湖博物館で開催、住民行政が議論	読売新聞
	28	大賞に県内住民団体 ホテル調査など評価、琵琶湖博物館と協力して水環境の保全活動などを行う住民団体「水と文化研究会」が受賞	中日新聞		5	湖国の「ルビー」羽化、ハッチョウトンボ琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
	28	日本水大賞 水と文化研究会(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が受賞	みんなの滋賀新聞		5	湖沼の環境保全遅れ、世界の湖沼環境に関するフォーラムが琵琶湖博物館で開催	みんなの滋賀新聞
	28	歩こう見よう探そう 『オトシブミ』今森洋輔(協力 琵琶湖博物館)	みんなの滋賀新聞		5	環境問題取り組みを話し合うフォーラムを琵琶湖博物館で開催	読売新聞
	28	大津・大戸川で魚類の観察会 県朝日会が親子募集、琵琶湖博物館学芸員が指導	朝日新聞		5	世界の湖沼課題を報告、琵琶湖博物館でフォーラム	京都新聞
					6	琵琶湖と人、共生探る琵琶湖博物館でのシンポに130人	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	6	琵琶湖ルールの意義討論、草津(琵琶湖博物館)で環境との共生考えるシンポ	みんなの 滋賀新聞	6	23	[湖と人間] 第4回 琵琶湖の伝統的木造船の盛衰 牧野久実主任学芸員	みんなの 滋賀新聞
	7	外来種対策や水質改善論議、世界の研究者150人つどう湖沼環境のフォーラムを琵琶湖博物館で開催	朝日新聞		23	琵琶湖で学ぶ3日間 こども環境特派員事業、最終日は琵琶湖博物館	毎日新聞
	7	琵琶湖周辺の水文化回復を 水と文化研究会が日本水大賞を受賞 代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授のコメント	中日新聞		24	民具とくらし(48) 琵琶湖博物館収蔵品から『クドサンホウキ(籠箒)』	京都新聞
	8	湖国の花 『ノハナショウブ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひAI)滋		25	[湖声] 滋賀県で参考になる教育や学習の事例の一つに琵琶湖博物館	みんなの 滋賀新聞
	9	[湖と人間] 第3回 移り変わる琵琶湖の生き物たち 高橋啓一総括学芸員	みんなの 滋賀新聞		25	湖・川・命のつながり表現 加藤登紀子さんと琵琶湖博物館を拠点に活動する『琵琶湖の未来たち合唱団』の子どもが熱唱、CD『いのちいっぱい』を発表	みんなの 滋賀新聞
	10	滋賀の生活に感心、世界観光会議出席の40人が琵琶湖博物館など見学	京都新聞		25	歩こう見よう探そう 『モリアオガエル』(協力 琵琶湖博物館)	みんなの 滋賀新聞
	10	民具とくらし(46) 琵琶湖博物館収蔵品から『サキヤリズキ(鋤)』	京都新聞		26	水や命の大切さテーマに子供たちの歌った曲のCDを「水と文化研究会」(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が制作	産経新聞
	11	歩こう見よう探そう 『ルリビタキ』今森洋輔(協力 琵琶湖博物館)	みんなの 滋賀新聞		27	[新刊紹介] 『マンモスが地球を歩いていたとき』(訳者 高橋啓一総括学芸員)の紹介	みんなの 滋賀新聞
	11	[インフォメーションボックス] 「淡海の川」の紹介	みんなの 滋賀新聞		27	世界の楽器で環境も勉強、琵琶湖博物館で体験教室 / 加藤登紀子さん「湖」「水」歌う、「水と文化研究会」(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が企画制作『生きている琵琶湖』をCDに嘉田代表のコメント	毎日新聞
	14	アユモドキ県内「絶滅」が「琵琶湖博物館うおの会」などの調査でほぼ確実 中島経夫上席総括学芸員のコメント	京都新聞		28	「生きている琵琶湖」CD化 加藤登紀子さん作詞作曲、「水と文化研究会」(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が企画	読売新聞
	15	湖国の花 『ヤマアジサイ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひAI)滋		29	琵琶湖博物館が湖沼学講座や川の生物調査の講座を新設	京都新聞
	15	アユモドキが京都市内にいた 秋山廣光専門学芸員のコメント	京都新聞		29	歌で琵琶湖親しんで、水環境考えるCDを「水と文化研究会」が製作 代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授のコメント	中日新聞
	16	水や生態系総合分析 県琵琶湖・環境科学研究センター開所 川那部浩哉琵琶湖博物館館長が期待と抱負をテーマに記念で談	みんなの 滋賀新聞		29	湖国の花 『チガヤ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひAI)滋
	16	琵琶湖漁業被害の元凶、カワウ 5,000羽減 35,000羽 亀田佳代子主任学芸員のコメント	読売新聞		7	1 民具とくらし(49) 琵琶湖博物館収蔵品から『ハンテン(半纏)』	京都新聞
	17	民具とくらし(47) 琵琶湖博物館収蔵品から『タケノカワ(竹の皮)』	京都新聞		2	何でもランキング、水中トンネルがお得な水族館で琵琶湖博物館が第4位	日経新聞 (プラス1)
	19	水辺の生き物に親子連れら歓声 「ASA・大戸川南郷洗堰自然観察会」で 前畑政善総括学芸員が投網の使い方などを指導	朝日新聞		4	ギョ魚ッ、琵琶湖博物館と「うおの会」の守山での催しに親子連れ40人参加 中島経夫上席総括学芸員のコメント	朝日新聞
	20	[支局長からの手紙] 滋賀県とは何か県琵琶湖・環境科学研究センターの開所式で川那部浩哉琵琶湖博物館館長らが鼎談	毎日新聞		4	夏休みの自由研究手助け、琵琶湖博物館で講座	産経新聞
	22	子ら集いヨシ笛作り体験、琵琶湖博物館で体験教室 / 湖国の花 『シナノキ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひAI)滋		6	水生生物を捕まえ観察、ASA南郷洗堰・大戸川自然観察会(滋賀県朝日会主催)に	朝日新聞 (あひAI)滋
	22	ハス鑑賞はバスで 守山市観光協会が琵琶湖博物館などを巡るバスを7月から限定運行	みんなの 滋賀新聞				

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	6	前畑政善総括学芸員が同行指導 / [溶け込む] 湖国に移り住んで 右川洋一琵琶湖博物館水族飼育員 / 湖国の花『ハンゲショウ』 石田末基共同研究員		7	25	自由研究にチャレンジ 琵琶湖博物館で昆虫や植物標本作り	京都新聞
	7	加藤登紀子さんと子どもがコラボ、琵琶湖の歌のCD完成 「水と文化研究会」(代表、琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授)が希望者に配布	朝日新聞		27	湖国の花『クサギ』 石田末基共同研究員	朝日新聞 (あひいAI)類
	7	[湖と人間] 第5回 空から見た琵琶湖 布谷知夫 席総括学芸員	みんなの滋賀新聞		28	子どもたちへ贈る「生きている琵琶湖」 嘉田由紀子研究顧問と新しい琵琶湖の歌誕生まで、「水と文化研究会」小坂育子事務局長	みんなの滋賀新聞
	7	湖国名物「ふなずし」大ピンチ、写真資料提供『ニゴロブナ』と川那部浩哉館長のコメント	毎日新聞		29	固有の文化継承に貢献 博物館の研修生を海外から受け入れ、国立民族学博物館がJICAからの委託事業として琵琶湖博物館と連携して実施	毎日新聞
	8	民具とくらし(50) 琵琶湖博物館収蔵品から『ミノ(蓑)』	京都新聞		30	“紙の王様” 雁皮紙紹介、文書や絵図使い 琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	9	大津・びわこ文化公園の池に黄金ナマズ、琵琶湖博物館に問い合わせで外来肉食魚の突然変異体と分かる / 守山の公園でなぜ?はしご形のヨシ、下向きに葉からまり昆虫が成長阻害か 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞		30	琵琶湖博物館企画展「歩く宝石 オサムシ」の紹介と招待券読者プレゼント	みんなの滋賀新聞
	10	[近江百声] 洪水ハザードマップづくりを住民から求めよう 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授	みんなの滋賀新聞		31	真空式ソーラーシステムの広告、琵琶湖博物館本館棟の写真	京都新聞
	13	湖国の花『ユウスゲ』 石田末基共同研究員	朝日新聞 (あひいAI)類	8	1	「水辺の自然」「思い出」胸にフィナーレ、子ども環境特派員最終日 琵琶湖博物館で解剖・化石複製作り体験 谷口雅之主査の話	毎日新聞
	15	[ムサシトミヨ] 絶滅危惧種の淡水魚を琵琶湖博物館で公開	京都新聞		3	湖国の花『バイカモ』 石田末基共同研究員	朝日新聞 (あひいAI)類
	16	「歩く宝石」オサムシ紹介 きょうから琵琶湖博物館で企画展開催、八尋克郎主任学芸員の話 / 琵琶湖ブラックバス活用法 料理見切り加工品にシフト 琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」店長のコメント	京都新聞		4	[湖と人間] 第7回 田んぼと魚 一琵琶湖の魚が減ったひとつの訳ー 前畑政善総括学芸員	みんなの滋賀新聞
	16	「歩く宝石」って何の虫? きょうから琵琶湖博物館で「オサムシ」展 / 歩こう見よう探そう 里山からのプレゼント今森洋輔(協力 八尋克郎主任学芸員)	みんなの滋賀新聞		6	08年に琵琶湖博物館が昆虫記刊行100周年でフェアブル巡回展 川那部浩哉館長のコメント	京都新聞
	18	琵琶湖博物館で絶滅危惧のムサシトミヨを8月7日までトピックス展示	みんなの滋賀新聞		6	琵琶湖博物館2008年に「フェアブル100年展」の実施について仏国立博物館と合意、国内5館巡回展示(日本側実行委員長、川那部浩哉館長) 川那部館長のコメント	みんなの滋賀新聞
	19	飛ばない昆虫オサムシ紹介、琵琶湖博物館で企画展示開催	産経新聞		6	虫を通して世界を見る、琵琶湖博物館で養老孟司さん講演	京都新聞
	20	生息調査キットで手軽に 琵琶湖お魚ネットワーク(琵琶湖博物館うおの会事務局)「とと箱」無料配布	京都新聞		6	26日に守山の水環境考える研修講座で琵琶湖博物館うおの会会員が指導	みんなの滋賀新聞
	20	琵琶湖博物館うおの会「びわとと調査隊」協力団体など募集	みんなの滋賀新聞		7	琵琶湖博物館で「フェアブル展」、仏と共催合意	中日新聞
	20	湖国の花『オニユリ』 石田末基共同研究員	朝日新聞 (あひいAI)類		7	重文の収蔵数全国屈指、県立琵琶湖文化館の水族部門を平成8年に琵琶湖博物館に移管	産経新聞
	21	[湖と人間] 第6回 歩く宝石オサムシ 八尋克郎主任学芸員	みんなの滋賀新聞		7	企画展示「歩く宝石オサムシ」と施設の紹介 / 琵琶湖生き物たんけん(中井克樹主任学芸員・山川千代美主任学芸員・高橋啓一総括学芸員・亀田佳代子主任学芸員・前畑政善総括学芸員・松田征也専門学芸員・八尋克郎主任学芸員・楠岡泰主任学芸員)	京都新聞 タブロイド版

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	9	「お魚博士」2人が誕生、琵琶湖博物館うおの会が認定書を交付	京都新聞	8	23	楽しみながら生態調査、琵琶湖博物館「うおの会」 中島経夫上席総括学芸員の話	読売新聞
	10	湖国の花 『メマツヨイグサ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひあひ)		24	滋賀大が環境学習のリーダーに資格、県と連携で養成プログラム実施 琵琶湖博物館などの研究施設での実習など	毎日新聞
	11	[美術館・博物館] 「歩く宝石オサムシ」の案内	朝日新聞 (夕刊)		24	湖国の花 『センニンソウ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひあひ)
	12	来月、琵琶湖博物館で養老孟司さんが昆虫の世界公演 / 琵琶湖博物館の共同研究チームが県内淡水魚から新種寄生虫発見	中日新聞		25	琵琶湖博物館うおの会が大阪の小学生2人を「お魚博士」に認定	毎日新聞
	12	魚などに寄生、琵琶湖博物館が国内初「鉤頭虫」亜属の2新種確認と発表 マーク・J・グライガー総括学芸員の話	京都新聞		25	[美術館・博物館] 「歩く宝石オサムシ」の案内	朝日新聞 (夕刊)
	12	[湖岸道路] 琵琶湖博物館でスジシマドジョウの展示始まる	みんなの 滋賀新聞		26	[波] 市民も一緒に調査研究 中島経夫上席総括学芸員	朝日新聞 (夕刊)
	13	宝は「マイオサムシ」琵琶湖博物館で児童らが標本作り	京都新聞		27	科学って面白いネ 県中学校教育研究会理科部会主催の自然調査ゼミナール 琵琶湖博物館で1泊研修 布谷知夫上席総括学芸員のコメント	読売新聞 (しが県 民情報)
	13	歩こう見よう探そう 『ヨウシュヤマゴボウ』今森洋輔(協力 布谷知夫上席総括学芸員)	みんなの 滋賀新聞		27	楽しむ琵琶湖 琵琶湖博物館など観光スポットを掲載したマップを手に自転車で巡る湖南の秋	朝日新聞
	14	手すき和紙に挑戦、琵琶湖博物館で体験教室	京都新聞		27	琵琶湖博物館大入り 「トンネル水槽」にくぎ付け	みんなの 滋賀新聞
	14	琵琶湖博物館内、琵琶湖固有種や希少種の淡水魚などを繁殖させる施設の写真	朝日新聞		28	魚はどこ?ため池探検 東近江「ため池さかな調査隊」で琵琶湖博物館「うおの会」のメンバーが指導	中日新聞
	15	「歩く宝石」標本 3300点、琵琶湖博物館で企画展開催中	中日新聞		28	子どもら自然とふれあう、東近江の平尾「ため池さかな調査隊」琵琶湖博物館うおの会が指導	京都新聞
	15	[湖岸道路] 琵琶湖博物館でカイツブリの餌付けを公開	みんなの 滋賀新聞		29	こども環境特派員特集 琵琶湖で学びさあ実践 最終日に琵琶湖博物館で体験教室	毎日新聞
	15	琵琶湖博物館うおの会が「お魚博士」先駆け認定	産経新聞		29	夏休み最初の日曜日、県内各地でイベント 琵琶湖博物館では「夏休み自由研究講座」を開催昆虫の標本作りなどに挑戦	みんなの 滋賀新聞
	16	琵琶湖博物館うおの会が生育調査で「お魚博士」を先駆け認定	読売新聞		31	琵琶湖博物館「びわとと調査」着々、魚マップ作成へ箱設置	みんなの 滋賀新聞
	16	新種の鉤頭虫2種 堅田内湖で採取の魚から発見、琵琶湖博物館マーク・J・グライガー総括学芸員専門誌に発表	みんなの 滋賀新聞		31	湖国の花 『カワラナデシコ』 石田未基共同研究員	朝日新聞 (あひあひ)
	16	琵琶湖博物館・仏国立博と企画展共催(実行委員長川那部浩哉館長)へ、「昆虫記」100年ファーストの偉業紹介	産経新聞				
	17	楽しいよ!夏の水族館 琵琶湖博物館の紹介	赤旗しんぶん	9	1	景気回復で県内観光客増加、琵琶湖博物館も六月には前年比プラス	中日新聞
	18	[湖と人間] 第8回 びわとと調査隊集まれみんなで調べる水環境 中島経夫上席総括学芸員	みんなの 滋賀新聞		1	[湖と人間] 第9回 琵琶湖の外來魚 中井克樹主任学芸員	みんなの 滋賀新聞
	19	[波] 在来魚、流れのある上流に安住 中島経夫上席総括学芸員	朝日新聞		2	[波] フナ・コイ文化 縄文期西日本で開花? 中島経夫上席総括学芸員	朝日新聞 (夕刊)
	19	県が琵琶湖博物館などで環境学習地域リーダー養成講座を開催、受講生募集	みんなの 滋賀新聞		4	人や虫の話題など 琵琶湖博物館で養老孟司さん講演	中日新聞
	21	中村元さんが選ぶこの夏行きたい水族館トップ5、第2位に琵琶湖博物館	読売新聞 (日曜版)		4	子よ自然に触れよ 琵琶湖博物館で養老孟司さん講演	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	4	「虫通して感覚磨いて」琵琶湖博物館で養老孟司さんが講演 / 琵琶湖生態系SOS、中島経夫上席総括学芸員警鐘	みんなの滋賀新聞	9	27	特産アオバナで草木染、琵琶湖博物館で親子ら40人が体験	読売新聞
	7	琵琶湖博物館の催し物の案内 / 湖国の花『クズ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)		28	湖国の花『アメリカセンダングサ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)
	9	来年1月に「国際湿地再生シンポジウム2006」実行委員会設立総会で副会長に川那部浩哉館長選出	京都新聞		30	利用者本位の博物館に、布谷知夫上席総括学芸員「博物館の理念と運営-利用者主体の博物館学」を出版	京都新聞
	11	9月4日の社会面より、外来魚増加は琵琶湖生態系の崩れに起因中島経夫上席総括学芸員警鐘を鳴らす	みんなの滋賀新聞	10	1	草津市観光物産協会、烏丸半島を遊ぶバスポート(琵琶湖博物館などの入場券と近江鉄道バス利用券がセット)を発売	京都新聞
	15	「観て・触れて・感じて」子どもたちや地域の人々と一緒に楽しめる美術館を「SAGAWAキッズミュージアム」で「くるくるカラフル☆植物の種飛ばし」ブースを担当の布谷知夫上席総括学芸員のコメント / 湖国の花『キンミズヒキ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)		2	[びわこのうちそと] ヨシのすごい力の巻 水質悪化を自然浄化、布谷知夫上席総括学芸員のコメント	朝日新聞
	16	[湖と人間] 第10回 ヨシ帯のさまざまな機能と私たちの暮らし 楠岡泰主任学芸員	みんなの滋賀新聞		5	湖国の花『ミソソバ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)
	16	[波] オサムシ 飛べない「歩く宝石」中島経夫上席総括学芸員	朝日新聞(夕刊)		8	ゾウの足跡化石探そう、高島市教委が市民に参加を呼びかけ 高橋啓一総括学芸員ら専門家が事前調査	朝日新聞
	17	琵琶湖博物館がコクチバス7回も確認 中井克樹主任学芸員のコメント	京都新聞		8	琵琶湖の固有種 外来魚増え絶滅の心配も	京都新聞
	17	県立大院生らの水中調査などでコクチバス4匹確認と琵琶湖博物館が発表	中日新聞		15	北方4島から訪問団、琵琶湖博物館などを見学	産経新聞
	17	琵琶湖博物館がコクチバス複数確認 西浅井付近放流か / [湖と人間] 第11回 松原内湖に浮かぶ丸子船と鉄道 用田総括学芸員 / 歩こう見よう探そう『ヒガンバナ』今森洋輔(協力 布谷知夫上席総括学芸員)	みんなの滋賀新聞		16	[びわこのうちそと] オサムシの謎の巻 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介と八尋克郎主任学芸員のコメント / 里山の生き物不思議探ろう 日本鱗翅学会近畿支部が琵琶湖博物館で「第2回里山保全特別講演会」を開催、テーマは「オサムシの不思議」八尋克郎主任学芸員など	朝日新聞
	18	琵琶湖北部でコクチバスを確認、琵琶湖博物館が発表	朝日新聞		16	北方四島のロシア人 湖国を訪問琵琶湖博物館などを見学	京都新聞
	21	湖国の花『アキチョウジ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)		19	怖い増殖実態知って 「ボタンウキクサ」の展示が琵琶湖博物館で始まる	京都新聞
	22	琵琶湖博物館などの合同研究グループ遺伝子解析で判明、琵琶湖周辺のイワナ 祖先は同一→河川ごとに進化	京都新聞		19	湖国の花『イヌタデ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)
	22	琵琶湖水系のイワナ遺伝子型共通だった、琵琶湖博物館・県水産試験場・京大の研究で判明	中日新聞		20	外来種の影響学ぶ 琵琶湖博物館「ボタンウキクサ」紹介	産経新聞
	23	「ピワコイワナ」共通のDNA、琵琶湖博物館・県水産試験場京大の研究班、学会発表	読売新聞		21	アフリカの水草繁殖力見て、琵琶湖博物館でボタンウキクサ啓発展示「軽い気持ちで捨てないで」	読売新聞
	27	琵琶湖にコクチバス 密放流? 相次ぎ4匹見つかる 中井克樹主任学芸員のコメント	読売新聞		23	[びわこのうちそと] 風は陸から湖からの巻 「ピワコダス」毎日測定、前日までのデータは琵琶湖博物館の展示室や研究会のホームページで 戸田孝主任学芸員のコメント	朝日新聞
	27	琵琶湖水系のイワナ固有遺伝子 日本海側から進入独自に進化、県水産試験場・琵琶湖博物館・京大が共同で4年かけ解明	産経新聞		26	湖国の花『リンドウ』石田末基共同研究員	朝日新聞(あひかり)
					28	里山の生き物多様性を紹介、琵琶湖博物館で講演会	京都新聞
					31	里山保全の大切さ学ぶ、琵琶湖博物館で特別講演会 八尋克郎主任学芸員のコメント	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	2	湖国のケモノ 『ホンドギツネ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひいAI滋)	11		キクサ琵琶湖大浮遊、水生生物への影響懸念 琵琶湖博物館の話	
	3	南郷洗堰 100 周年コンサート、琵琶湖博物館はしかけ「湖をつなぐ会」を加藤登紀子さん指導	京都新聞		18	「お騒がせ外来生物」(2) コクチバス 琵琶湖博物館のコメント	朝日新聞 (夕刊)
	4	ビクトリア湖のナイルパーチ(外来魚) 外貨生む、ケニアで開催中の世界湖沼会議で外来魚問題が焦点の一つに 川那部浩哉館長のコメント	朝日新聞		19	水田ルーツ縄文期漁場弥生時代に稲作転用、琵琶湖博物館中島経夫 上総括学芸員らの研究班が学説、あす発表会	読売新聞
	5	環境保護 住民の生活が鍵、WWF ジャパン自然保護室淡水生態系担当の水野敏明琵琶湖博物館特別研究員が「琵琶湖博物館うおの会」に提案して「琵琶湖お魚ネットワーク」が誕生 中島経夫 上総括学芸員と水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	毎日新聞		19	あす研究発表会「コイが来た道」琵琶湖博物館で開催、中島経夫 上総括学芸員らの講演など	毎日新聞
	5	河川復元へ理解深める、韓国の研究チーム豊穡の郷(守山)や琵琶湖博物館などを見学	京都新聞		21	琵琶湖博物館でコイ科魚類の研究発表会「コイが来た道」を開催 中島経夫 上総括学芸員ら各分野の発表者が説明	中日新聞
	5	「WEEKLY ほっとホット」ほてじゃこのふるさと 琵琶湖博物館の施設案内と写真資料提供『トンネル水槽』 秋山廣光専門学芸員のコメント	京都新聞 (滋賀新聞)		23	湖国のケモノ 『イタチ類』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひいAI滋)
	7	船大工の夢琵琶湖走る湖上輸送担った「丸子船」を復元、琵琶湖博物館に展示 後世に伝える / 琵琶湖ブラックバス釣りの楽しみと両立、県主催の「ノーリリース釣り大会」開催	日本経済新聞		25	琵琶湖のプランクトンの模型作って特徴学ぶ 草津市の児童 琵琶湖博物館で環境学習	京都新聞
	8	絶滅危惧種・琵琶湖固有種のスジシマドジョウ 「田んぼ池」(高島)で大量繁殖 前畑政善総括学芸員のコメント	京都新聞		27	滋賀県からのおしらせ 「きんき環境館タウンミーティング 2005 in 滋賀」・「県民環境学習」を琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	9	湖国のケモノ 『ニホンノウサギ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひいAI滋)		28	琵琶湖と環境 身近な魚の保全② 琵琶湖博物館うおの会が中心となり「琵琶湖お魚ネットワーク」が誕生	中日新聞
	13	「びわこのうちそと」内湖って何? 上の巻 再生の担い手は誰か、自問を 牧野厚史主任学芸員の話 / コイの変遷から人間の生活探る、琵琶湖博物館で講演会 講演者は中島経夫 上総括学芸員・橋本道範主任学芸員ら	朝日新聞		29	「淡海と人と 10年目の琵琶湖博物館」<1> 獨創性 研究の成果展示に反映 高橋啓一総括学芸員と芳賀裕樹主任学芸員のコメント	京都新聞
	13	団体の来館者ゆっくり食事を 琵琶湖博物館、屋根付き施設整備へ 上原正男副館長のコメント	京都新聞		29	ビワコダス ネットで公開、戸田孝主任学芸員のコメント / 琵琶湖博物館催しの案内	読売新聞 (しが県民情報)
	14	増やせ固有種成果語り合う 県モロコ・フナ養殖研究会設立 1 周年で総会、前畑政善総括学芸員の講演など	京都新聞		30	「淡海と人と 10年目の琵琶湖博物館」<2> 環境・調査 魚が遡上できる水田に 牧野厚史主任学芸員・前畑政善総括学芸員・高橋啓一総括学芸員のコメント	京都新聞
	15	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞 (しが県民情報)		30	湖国のケモノ 『ニホンテン』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひいAI滋)
	16	湖国のケモノ 『ツキノワグマ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひいAI滋)	12	1	「淡海と人と 10年目の琵琶湖博物館」<3> 市民参加 手を取り合い成果着々 川那部浩哉館長と谷口雅之主査のコメント	京都新聞
	18	入場 7 万人突破琵琶湖博物館で開催中の「オサムシ展」さらに人気 / 観賞用、いつのまにやら 熱帯分布の移入種・ボタンウ	京都新聞		3	「淡海と人と 10年目の琵琶湖博物館」<4> 経営戦略 利用増へ学芸員が練る 上原正男副館長と布谷知夫 上総括学芸員のコメント	京都新聞
					4	児童ら壁新聞で活動紹介 「県民環境学習のつどい」を琵琶湖博物館で開催	読売新聞
					4	クリーンエネルギー考えよう 環境団体など活動報告 「きんき環境館タウンミーティング」を琵琶湖博物館で開催	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	6	[淡海人と 10年目の琵琶湖博物館] <5> 川那部浩哉館長に聞く 展示通じ議論起されれば / 周遊パスポート「わくわく観光パスポート」の利用者に琵琶湖博物館の手作りバッジとマグネットをプレゼント、上原正男副館長のコメント	京都新聞	1	5	古代ゾウ進化の解明へ 琵琶湖博物館がレプリカ製作 高橋啓一総括学芸員のコメント	京都新聞
	7	琵琶湖博物館催し物の案内 / 湖国のケモノ【ハクビシン】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋		8	[びわこのうちそと] 国際湿地再生シンポとはの巻 川那部浩哉・琵琶湖博物館長(シンポジウム企画委員会委員長)に聞く 見直し、今がぎりぎり成功の判断は、後から	朝日新聞
	14	湖国のケモノ【ヌートリア】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋		8	琵琶湖博物館にてため池を考えるフォーラム開催	京都新聞
	18	[びわこのうちそと] ビワコオオナマズの巻 前畑政善総括学芸員のコメントと写真資料提供【ビワコオオナマズ】	朝日新聞		11	琵琶湖・内湖でジャンボタニシ 自然観察会で「琵琶湖博物館うおの会」などが卵塊を確認、農作物被害植物に影響懸念	京都新聞
	21	2005 滋賀の主な出来事 琵琶湖博物館が500万人達成	京都新聞		11	琵琶湖博物館催し物の案内 / 湖国のケモノ【ニホンリス】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋
	21	湖国のケモノ【ニホンザル】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋		12	平安神宮のイチモンジタナゴ “偶然” 運んだ琵琶湖疎水 秋山廣光専門学芸員のコメントと写真資料提供【ビワコオオナマズ】	中日新聞
	22	[遊・You・友] ギャラリー展示「タガベエのため池探検」の案内	朝日新聞		12	県はギャラリー展示「タガベエのため池探検」の関連イベント「ため池里山人のにぎわいinしが」を琵琶湖博物館にて開催	報知新聞
	22	[美術館・博物館] ギャラリー展示「タガベエのため池探検」の案内	朝日新聞 (夕刊)		14	琵琶湖の外来魚駆除へ、市民団体「琵琶湖を戻す会」が研究者や漁業者らと交えた情報交換会を琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	25	[回想 2005 滋賀この1年] 琵琶湖にピラニア 生態系保全に問われるモラル 琵琶湖博物館のコメント	産経新聞		14	オオクチでがぶりっ! バスバーガー 琵琶湖博物館内、レストラン「にほのうみ」のバスバーガーの紹介	読売新聞 (しが県民情報)
	26	ため池の魅力多様性知って県内1350種生物紹介、ギャラリー展示「タガベエのため池探検」の紹介	京都新聞		15	[びわこのうちそと] 見直そう水の文化の巻 環境意識、洗い場に脚光 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授の話	朝日新聞
1	1	[湿地リバイバル 生かし、伝える] ① 澄んだ水田、魚呼ぶ スジシマドジョウすむ湖畔の楽園 水野敏明特別研究員のコメント	読売新聞		18	稲の若芽食べる外来巻き貝 ジャンボタニシ 彦根・野田沼で2匹と卵塊捕獲	中日新聞
	1	便利さと浪費はもう限界 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授にインタビュー	毎日新聞		18	湖国のケモノ【ムササビ】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋
	3	[湿地リバイバル 生かし、伝える] ② 先人の知恵学ぶ 牧野久実主任学芸員のコメント	読売新聞		20	黄色いビワコオオナマズ、捕獲の際の傷が治れば、2月中旬にも琵琶湖博物館で展示	朝日新聞
	3	湖国のケモノ【イヌ】 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あひあひAI) 滋		20	湖に黄金? 黄色いビワコオオナマズでした、2月中旬以降に琵琶湖博物館で展示予定 松田征也専門学芸員のコメント	読売新聞
	4	[湖国 みずひとくらし] 森(上) 枯らす“何か”が教えるもの 比良山系脅かす「ナラ枯れ」 草加伸吾主任学芸員のコメント	毎日新聞		20	琵琶湖博物館が黄色のビワコオオナマズを捕獲したと発表	毎日新聞
	4	琵琶湖博物館内に交流スペース、展示や情報交換の場 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	京都新聞		20	琵琶湖博物館が黄色のビワコオオナマズが捕獲されたと発表 松田征也専門学芸員のコメント	中日新聞
	5	ため池を楽しく学ぶ 来月26日まで ギャラリー展示「タガベエのため池探検」の紹介	朝日新聞		20	琵琶湖の使者 何告げる 黄金色に輝くビワコオオナマズ、琵琶湖博物館で2月中旬頃から公開展示	京都新聞
	5	[湿地リバイバル 生かし、伝える] ③ 観察会、国際交流で培う一守る責任 児童共有 谷口雅之主査のコメント	読売新聞				

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	20	湖の主とらえた 黄色のピワコオオナマズ、琵琶湖博物館で来月から展示 番組紹介、NHK「おうみ発 610」で県内にあるため池の効能について	産経新聞	1	30	大津で国際湿地再生シンポ閉幕、「琵琶湖宣言」を採択 座長の川那部浩哉館長のコメント	中日新聞
	22	ため池・里山守ろう、講演や討論で学ぶ 「第1回ため池里山人のにぎわいフォーラムin滋賀」が琵琶湖博物館で開催	朝日新聞	2	1	ため池の役割、劇で訴え里山づくり探る「第1回ため池里山人のにぎわいフォーラムinしが」が琵琶湖博物館で開催	読売新聞
	22	里山の大切さを再確認を「第1回ため池里山人のにぎわいフォーラム」が琵琶湖博物館で開催	毎日新聞		1	湖国のケモノ 『ニホンカモシカ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あゐAI滋)
	22	ため池保全の大切さ考える 草津で初のフォーラム「第1回ため池里山人のにぎわいフォーラム」が琵琶湖博物館で開催 / 堅田内湖で外来魚生息が在来魚を上回る、近大グループの調査で判明 中井克樹主任学芸員のコメント	京都新聞		5	[びわこのうちそと] 湿地再生シンポ振り返るの巻「成果の追跡」掲げる 15カ国保全の取り組み報告 企画委員会委員長の川那部浩哉館長のコメント	朝日新聞
	24	東近江の水路で またまた黄色いナマズ発見と琵琶湖博物館が発表 松田征也専門学芸員のコメント	読売新聞		5	琵琶湖の淡水魚 ワタカは「生きた化石」琵琶湖だけで生き残った遺存種であることが琵琶湖博物館の研究で判明 中島経夫上席総括学芸員のコメント	読売新聞
	24	今度は小川に金色ナマズ、東近江で捕獲 近く琵琶湖博物館で公開展示	京都新聞		5	[凡語] 琵琶湖博物館に近くお目見えする黄金色のナマズや黄金色のカエルと似て非なる「光るメダカ」	京都新聞
	24	また!?黄色ナマズ 今月2匹目、びっくり 琵琶湖博物館で保護	中日新聞		7	外来種 都市を“制圧” 「タンポポ調査・近畿2005実行委員会」(委員長布谷知夫上席総括学芸員)が近畿・タンポポ分布図を作成	毎日新聞
	25	黄色いナマズ また捕獲、琵琶湖博物館で展示へ 松田征也専門学芸員のコメント	産経新聞		7	夏の琵琶湖・南湖で水草繁茂 湖底は低酸素になることが琵琶湖博物館の調査で判明、貝類の生態系への影響が懸念される 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	京都新聞
	25	湖国のケモノ 『ニホンジカ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あゐAI滋)		7	琵琶湖などで猛威の外来魚 ブルーギル駆除に秘策、巻き貝と新型網 中井克樹主任学芸員のコメント	中日新聞
	26	幸せの?黄色いナマズ 東近江でも見つかる 捕獲時についた傷が治り次第琵琶湖博物館で展示	朝日新聞		9	琵琶湖博物館の黄色いナマズ11日デビュー	産経新聞
	26	[美術館・博物館] ギャラリー展示「タガベエのため池探検」の案内 / [遊・YOU・友] 琵琶湖博物館で 開催 第1回「外来魚情報交換会」の案内	朝日新聞 (夕刊)		9	「アートはみんなのもの」 草津市で文化催事の見本市、琵琶湖博物館など公立施設を中心に県内25の施設が参加	日本経済新聞 (夕刊)
	30	[湿地リバイバル 生かし、伝える] 水辺再生13か国誓う 琵琶湖宣言採択、国際シンポ閉幕 川那部浩哉館長が座長を務め各分科会の責任者や会場の一般参加者と意見交換	読売新聞		11	またまたまた黄ナマズ、琵琶湖博物館が発表 孝橋賢一主査のコメント	読売新聞
	30	国際シンポ閉幕 「湿地保全拡大」訴え 琵琶湖宣言を採択、企画委員会委員長の川那部浩哉館長のコメント 第1回「外来魚情報交換会」が琵琶湖博物館で開催	朝日新聞		11	黄色いナマズ3匹目を発見、琵琶湖博物館が発表	朝日新聞
	30	「国際湿地再生シンポジウム2006」が湿地再生宣言採択し閉幕 座長の川那部浩哉館長のコメント / 外来魚駆除有効策は、「琵琶湖を戻す会」が連携目指し情報交換会を琵琶湖博物館で開催	京都新聞		11	またまた黄色ナマズ、東近江の男性が自宅近くの水路で発見 琵琶湖博物館に持ち込み	中日新聞
	30	大津で国際湿地再生シンポ、「琵琶湖宣言」を採択し閉幕 座長の川那部浩哉館長のコメント	産経新聞		12	琵琶湖博物館で黄ナマズデビュー	読売新聞
					12	黄色いナマズ、見て 親子連れに人気、琵琶湖博物館で2匹を公開	朝日新聞
					12	金色ナマズにびっくり親子連れら歓声、琵琶湖博物館でお披露目	京都新聞
					12	黄色きらりピワコオオナマズ、琵琶湖博物館で一般公開	産経新聞
					15	金色のナマズ念じてご利益も 琵琶湖博物館で水槽デビューし一躍人気者	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載雑誌社名	月	日	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	15	湖国のケモノ 『ニホンイノシシ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あいち)滋賀	3	2	森へのカワウ害考える 琵琶湖博物館で研究セミナー開催 亀田佳代子主任学芸員の報告内容の紹介	京都新聞
	15	川那部浩哉館長が 『地球環境大賞顕彰制度』 (フジサンケイグループが創設) の審査講評	フジサンケイ ビジネスアイ		2	黄色いナマズが水槽デビュー	毎日新聞 (オ-!ミ-)
	16	斬新 縄文コースターをつくる催しを琵琶湖博物館で開催	読売新聞		4	草津の児童 環境エコクラブ「伯母Q五郎」が活動の成果を紹介するギャラリー展を琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	17	昨春 県内のタンポポ分布状況 6割外来種との雑種 布谷知夫席総括学芸員がコメント。調査結果は4月末から琵琶湖博物館で展示 / 外来魚 パクリ食せば駆除の味 「水環境学習講座」を琵琶湖博物館で開催、主婦ら調理法学ぶ講師に秋山廣光専門学芸員	京都新聞		5	[びわこのうちそと] 魚の分布を調べようの巻 住民を水環境に近づけたい中島経夫席総括学芸員の話	朝日新聞
	17	近畿の都市部では外来種のタンポポが在来種を圧倒 「タンポポ調査・近畿2005実行委員会」(委員長布谷知夫席総括学芸員)の呼びかけで市民1万人が協力してつくった「タンポポ分布図」から判明	朝日新聞 (夕刊)		6	Nature lovers work to save killifish. 中島経夫席総括学芸員のコメント	読売新聞
	21	博物館探検しよう すごろく仕立て興味津々の企画、ボランティアグループびわたんの活動紹介	読売新聞 (しが県民情報)		7	川の調査成果見て「こどもエコクラブ」が琵琶湖博物館でギャラリー展開催中	中日新聞
	21	ゆうゆう泳ぐ黄色いナマズ、琵琶湖博物館に人気者2匹	中日新聞		7	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞 (しが県民情報)
	22	輝く「弁天様の使い」水槽に琵琶湖博物館でデビュー / 湖国のケモノ 『アカネズミ類』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あいち)滋賀		8	湖国のケモノ 『アブラコウモリ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あいち)滋賀
	24	番組紹介、NHK「おうみ発610」でピワコダスについて	産経新聞		9	野洲川の環境守ろう 守山小学校で総合学習の一環として同校を訪れた琵琶湖博物館の学芸員がフナなどの生態を紹介	中日新聞
	26	時代と世界つなぐ縄文コースター、琵琶湖博物館でヨルダン人ら制作挑戦	読売新聞		11	[文化 につぼんの知恵] 水辺(上) 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授	朝日新聞
	26	琵琶湖お魚ネットワーク、琵琶湖博物館で交流会開催 中島経夫席総括学芸員らが活動報告	朝日新聞		12	小学生の環境学習を写真や年表で紹介、ギャラリー展示「こどもが見つめるふるさとの川」が琵琶湖博物館で開催中 谷口雅之主宰のコメント	朝日新聞
	26	黄金ナマズの交配シーン、湖北町の漁師松岡さん ビデオ撮影に成功 琵琶湖博物館のコメント	産経新聞		14	琵琶湖博物館の有効利用を 1年かけ県内小中校訪問へ、学芸員がPR活動	京都新聞
	26	黄色いピワココオナマズが展示水槽にデビューしました	各紙		14	価値生かす地域づくりを 関心を持ってもらうために琵琶湖博物館「うおの会」などしている水路や河川の調査のほかに琵琶湖の中でも魚類の生態実態調査をしたい 県琵琶湖環境政策室長の話	毎日新聞
	27	メダカ復活作戦 高島・今津のグループ自宅で飼育、放流へ うおの会事務局長の中島経夫席総括学芸員のコメント	読売新聞		15	湖国のケモノ 『コキクガシラコウモリ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞(あいち)滋賀
	27	ブルーギル、平野部まで 「琵琶湖お魚ネットワーク」の活動報告や交流会を琵琶湖博物館で開催 / [凡語] 滋賀県が進める「魚のゆりかご水田プロジェクト」は琵琶湖博物館などの専門家、農家や県職員でつくるたんぼ水辺研究会で情報を交換し、施策に反映させる	京都新聞		17	琵琶湖博物館で化石レプリカ作り開催	読売新聞
	28	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞 (しが県民情報)		18	[文化 につぼんの知恵] 水辺(下) 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授	朝日新聞
					19	琵琶湖博物館広報・経営戦略を策定 入館者年50万人を2010年までに復活	京都新聞
					21	琵琶湖博物館で環境調査の方法を住民が学ぶ講座「身近なくらしの調査法」を開講	朝日新聞
3	1	湖国のケモノ 『カヤネズミ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あいち)滋賀		21	子どもエコクラブ伯母Q五郎の多彩な活動ぶりを琵琶湖博物館で紹介	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	22	琵琶湖博物館で調査・研究支える団体を紹介したギャラリー展示が開催	京都新聞	3	26	[びわこのうちそと] キャラクター大集合の巻「タガベエ」の紹介と琵琶湖博物館の案内	朝日新聞
	22	市民の調査活動見て、「はしかけ」や「フィールドレポーター」の活動を紹介したギャラリー展示開催	中日新聞		28	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞 (しが県民情報)
	22	湖国のケモノ 『ヒミズ』 若狭喜弘共同 研究員	朝日新聞 (あいちA1版)		29	湖国のケモノ 『コウベモグラ』 若狭喜弘共同研究員	朝日新聞 (あいちA1版)
	25	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞 (しが県民情報)		31	琵琶湖の魚生態 経済の目で分析 水野敏明特別研究員	朝日新聞
					31	琵琶湖博物館に屋根付き屋外施設が完成、 障害者向け駐車場も	京都新聞

(3) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名	月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	施設だより 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌)	6	琵琶湖博物館の催し物案内	れいんぼう (県立安曇川文芸会館情報誌)
	ギャラリー展示の案内	滋賀旅人 (県イベント情報誌)		琵琶湖博物館の紹介	日経Kidsプラス
	シリーズ『この人に聞く』 亀田佳代子主任学芸員の話	日研ニュース		琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学
	琵琶湖博物館の施設紹介	電車&ウォーク (JR西日本)		琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究
	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学		琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま No.390, No.391
	琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究		イベント情報 琵琶湖博物館の催し物案内	PORTAL (ポータル)
	琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま		ギャラリー展「淡海の川 ー水害そして川とともに生きるー」の紹介	モーニングくさつ
	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学		〔湖国の住人〕『ハス』写真・資料提供と琵琶湖博物館の案内	Pado
	イベント情報 琵琶湖博物館の催し物案内、琵琶湖お魚ネットワークが『お魚流域マップ』作成のため琵琶湖の全流域で魚類の生息調査を行う参加者を募集・琵琶湖博物館で交流会を開催	PORTAL (ポータル)		琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる
	〔湖国の住人〕『カジカ』写真・資料提供と琵琶湖博物館の案内	Pado		琵琶湖博物館の催し物案内	NEEDS (県立草津文芸会館文化情報誌)
	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる		琵琶湖博物館の催し物案内	こどもがくしゅうじょうほう (彦根市教育委員会)
	琵琶湖博物館の催し物案内	NEEDS (県立草津文芸会館文化情報誌)		7	施設だより 琵琶湖博物館の催し物案内
琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀湖国MOOK (朝日新聞)	琵琶湖博物館の催し物案内	れいかる (湖国文化情報)		
琵琶湖博物館の施設紹介、松田征也専門学芸員のコメント	わーずわーす	琵琶湖博物館の施設紹介	電車&ウォーク (JR西日本)		
ギャラリー展示の案内	NHKスペシャル地球大進化	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学		
琵琶湖博物館の紹介	BY BLUE (琵琶湖・淀川水質保全機構)	琵琶湖博物館の催し物案内	日経サイエンス		
琵琶湖・淀川流域のグルメめぐり「動くものなら何でも食べる魚を食べる」、写真資料提供『ブラックバス』	関西おでかけ大好き ('04-05)	琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究		
琵琶湖博物館の施設紹介	人権学習プログラムと博物館	名誉総裁に就任された秋篠宮殿下を迎えて「日本水大賞」(水と文化研究会 代表嘉田由紀子研究顧問)の表彰式を開催、展示会情報 琵琶湖博物館企画展の案内	PORTAL (ポータル)		
琵琶湖博物館について	エンターティメントビジネス	琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀旅人 (県イベント情報誌)		
全国主要レジャー施設人込みデータ		琵琶湖博物館企画展示の案内	月刊むし		
5	女優 邑野みあさんの琵琶湖博物館での思い出、施設だより 琵琶湖博物館の催し物案内、秋山廣光専門学芸員の話と写真・資料提供『ニゴロブナ』・『ゲンゴロウブナ』・『ホンモロコ』・『ワタカ』	滋賀プラス1 (県広報誌)	琵琶湖博物館の催し物案内		にゅーすもりやま
	講演会「地球と共に活動する博物館」(布谷知夫上席学芸員)の案内	広報 くさつ	琵琶湖博物館の催し物案内		こがも通信
	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学	琵琶湖博物館の催し物案内		リビング (滋賀、京都東南、高槻・茨木、枚方・交野、大阪)
	琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究	「オサムシ探しに夢中です」八尋克郎主任学芸員のコメントと企画展の案内	リビング (滋賀)	
	[特集] 生命はぐくむ葦原 魚も鳥も虫も人も… 川那部浩哉館長の話と琵琶湖博物館の紹介	ひととき	写真資料提供『トウヨシノボリ』・取材協力、琵琶湖の水はだれのもの? 琵琶湖の水位とくらし 琵琶湖博物館研究顧問の嘉田由紀子京都精華大教授、[水と人]環境の目・人の目 水野敏明特別研究員	ピワズ通信	
	〔湖国の住人〕『ズナガニゴイ』写真・資料提供と琵琶湖博物館の案内	Pado	琵琶湖博物館の施設と催し物案内	ハスバスで巡るもりやま紀行	
	琵琶湖のプランクトンに魅せられて	読売ライフ	琵琶湖博物館の催し物案内	れいんぼう (県立安曇川文芸会館情報誌)	
	ギャラリー展示の紹介と楠岡泰主任学芸員の話、写真提供『ノロ』『コルボダ』『ネコゼミジンコ』『カルケシウム』『スナワムシ』		「はしかげさん」について 青木伸子囁託員	ミュージ	
	自然の宝庫琵琶湖を遊び尽くす琵琶湖博物館の施設紹介	CUBIC NEWS (トヨタファイナンス情報誌)	〔湖国の住人〕『ゲンゴロウブナ』写真・資料提供と企画展示の案内	Pado	
			琵琶湖博物館の紹介	ハート LIGHT しが (関西電力滋賀支店情報誌)	

	記事テーマ	掲載雑誌社名	月	記事テーマ	掲載雑誌社名	
7	琵琶湖博物館の紹介	けんぼニュース(松下電器健康保険組合)	9	琵琶湖の自然がわかるピワコダス・ホタルダス・ユキダス 戸田孝主任学芸員のコメント	女性セブン	
	琵琶湖博物館の紹介	家庭画報特選(海外向け)				
	琵琶湖博物館の紹介	お宿(トラピックス倶楽部別冊)	10	琵琶湖博物館の催し物案内	れいかる(湖国文化情報)	
	琵琶湖博物館の施設と催し物の紹介、招待券プレゼント	あさひゆめほっと		わくわく観光パスポート(琵琶湖博物館とみずの森の入場券がセット)を発売 企画展示解説書「歩く宝石オサムシ」の紹介 琵琶湖・淀川流域のグルメめぐり 鮎を食わずして 写真資料提供「ピワコオオナマズ」・「イワトコナマズ」	広報 くさつ 月刊むし	
8	夏休み子どもイベントだより 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌)		琵琶湖博物館の催し物案内	BY BLUE(琵琶湖・淀川水質保全機構)	
	琵琶湖博物館の催し物案内	月刊むし		琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学	
	琵琶湖博物館の催し物案内	NEEDS(県立草津文芸会館文化情報誌)		琵琶湖博物館の催し物案内	日経サイエンス	
	琵琶湖博物館の施設紹介	関西じゃらん		琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究	
	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学		琵琶湖博物館の施設紹介	電車&ウォーク(JR西日本)	
	琵琶湖博物館の催し物案内	日経サイエンス		琵琶湖博物館の催し物案内	NEEDS(県立草津文芸会館文化情報誌)	
	琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究		琵琶湖博物館の催し物案内	モリメイトニュース	
	企画展示の案内と招待券プレゼント	Pado		琵琶湖博物館の催し物案内	関西じゃらん	
	はしかけグループ「近江はたおり探検隊」の紹介と中藤容子学芸員のコメント	染織α		琵琶湖博物館の催し物案内	東海じゃらん	
	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる		琵琶湖博物館の催し物案内	ドキドキサックス	
	琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま		琵琶湖博物館の紹介	Pado	
	琵琶湖博物館と企画展示の紹介	るるぶじゃぱん100(関西、名古屋・東海)		[湖国の住人][スズキケイソウ]写真・資料提供と企画展示の案内	びいめーる	
9	オススメおでかけ情報 琵琶湖博物館の施設案内とイベント情報	滋賀プラス1(県広報誌)		琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる	
	琵琶湖博物館企画展示の案内	滋賀旅人(県イベント情報誌)		11	施設だより 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌)
	「深泥池」川那部浩哉館長が推奨する秋の景色	サライ			企画展示、ギャラリー展の案内	全科協ニュース
	滋賀の夢中人 琵琶湖博物館うおの会より「びわとと調査隊のお魚博士」に認定された小学生の紹介	リビング(滋賀)			田んぼに生命のにぎわいを「琵琶湖博物館うおの会」の協力により生物調査を実施	ピワズ通信
	琵琶湖博物館の催し物案内	れいんぼう(県立安曇川文芸会館情報誌)			イベント情報 琵琶湖博物館の催し物案内	PORTAL(ポータル)
	企画展示「歩く宝石オサムシ ～飛ばない昆虫のふしぎ発見～」の紹介	モーニングくさつ			琵琶湖博物館の催し物案内	れいんぼう(県立安曇川文芸会館情報誌)
	琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学			琵琶湖博物館の催し物案内	子供の科学
	琵琶湖博物館の催し物案内	日経サイエンス			琵琶湖博物館の催し物案内	日経サイエンス
	琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究			琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究
	企画展示の案内	全科協ニュース			[湖国の住人]『シガラキオサムシ』写真・資料提供と企画展示の案内、招待券プレゼント	Pado
	[湖国の住人]『オオクチバス』写真・資料提供と企画展示の案内	Pado			琵琶湖博物館など「関西文化の日」参加施設の紹介	元気UP!関西
	琵琶湖博物館の催し物案内	関西じゃらん			琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま
琵琶湖博物館の施設紹介	CLUB(金沢・富山・福井)	琵琶湖博物館の紹介	アットホーム通信(大阪ガスサービスチェーン情報誌)			
琵琶湖博物館の催し物案内	スパイラル(COOP暮らしの情報誌)					
企画展示の案内、招待券プレゼント	いっとく					



## (4) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内 容	媒 体	担当者	
4	3	うおーたんのこどもプラスワン	琵琶湖の魚を調べてみよう	びわ湖放送	松田専門学芸員
	5	目で聴くテレビーそれいけくいしんぼー	「バス天井」・「バスバーガー」	C S 障害者放送	孝橋主査
	9	NHKニュース	わくわく探検隊 草花のしおりをつくろう、はしかけさん紹介	NHK 大津	青木囑託員 石川寛子(はしかけ)
	19	NHKニュース	琵琶湖の移動	NHK 大津	里口主任学芸員
5	4	WATER FOREST 21	琵琶湖博物館の見所など施設紹介	KBS 京都ラジオ	孝橋主査
	6	ニュース	ギャラリー展示「淡海の川」	びわ湖放送	武部主任主査
	6	NHKニュース	ギャラリー展示「淡海の川」	NHK 大津	武部主任主査
	17	「午後は〇〇 おもいきりテレビ」 今日は何の日	ナマズについて	日本テレビ	孝橋主査
	17	県政テレビタ刊プラスワン	UDとは、UDを考えた設計	びわ湖放送	芳賀主任学芸員
	27	県政テレビタ刊プラスワン	わくわく探検隊 世界オサムシの模型をつくろう	びわ湖放送	孝橋主査
	28	ウェイクアップ+	特定外来生物法とびわこ	読売テレビ	中井主任学芸員
6	3	滋賀プラスワン インフォメーション	琵琶湖博物館 6月の行事について	FM 滋賀	孝橋主査
	4	これいち	ビワコオオナマズの撮影、写真貸出、採取したナマズの種類の確認	読売テレビ	前畑総括学芸員
	7	県政テレビタ刊プラスワン	カワウ対策について	びわ湖放送	亀田主任学芸員
	10	県政テレビタ刊プラスワン	わくわく探検隊 世界の楽器をつくろう	びわ湖放送	孝橋主査
	11	NHKニュース	わくわく探検隊 世界の楽器をつくろう	NHK 大津	谷口主査
	14	ぐるっと関西お昼前	わくわく探検隊 世界の楽器をつくろう	NHK 大津	谷口主査
	14	NHKニュース	昆虫が語る琵琶湖の自然史	NHK 大津	八尋主任学芸員
	15	NHKニュース	琵琶湖水位基準について	NHK 大津	戸田主任学芸員
	28	Natty Times	博物館のテーマ、企画展の内容などについて紹介、固有種の魚数種についての特徴	エフエム石川	孝橋主査
7	5	NHKニュース	魚は、なぜエリに入るのか	NHK 大津	松田専門学芸員
	10	湖国な気分	博物館紹介など	KBS 京都ラジオ	草加主任学芸員
	11	笑福亭見瓶のほっかほっかラジオ	オサムシの話	KBS 京都ラジオ	八尋主任学芸員

放送日	番組名	内 容	媒 体	担当者	
7	12	森脇健児出演の番組	A展示室、C展示室、水族展示室など	KBS京都テレビ	松田専門学芸員
	13	平和堂 MY DAILY LIFE	「マンモスが地球を歩いていたとき」の紹介	エフエム滋賀	高橋研究部長
	13	スーパーチャンネル	文化公園(瀬田)の池に放されたアルビノヨーロッパナマズについて	朝日テレビ	前畑総括学芸員
	20	県政テレビタ刊プラスワン	夏休みお出かけ情報	びわ湖放送	孝橋主査
	30	ぐるっと関西プラス	企画展と関連展示	NHK総合	孝橋主査
	30	ニュースワイドTAKE 5	カワウ増加による琵琶湖の現状など	山陽放送	亀田主任学芸員
8	1	ムーブ!	琵琶湖や竹生島でカワウが増えている理由、対応の考え方などについて	朝日放送	亀田主任学芸員
	1	NHKニュース	水族バックヤード探検	NHK大津	孝橋主査
	5	知っとこ滋賀	企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介	KBS京都テレビ	八尋主任学芸員
	9	県政テレビタ刊プラスワン	夏休み自由研究講座① 昆虫コース	びわ湖放送	孝橋主査
	10	県政テレビタ刊プラスワン	夏休み自由研究講座② 植物コース	びわ湖放送	孝橋主査
	11	県政テレビタ刊プラスワン	夏休み自由研究講座③ 地学・化石コース	びわ湖放送	孝橋主査
	12	NHKニュース	オサムシの標本作成	NHK大津	八尋主任学芸員
	17	あっちこっちほっかほかだより	うおの会「お魚博士」	KBSラジオ	中島上席総括学芸員
	22	滋賀プラスワン インフォメーション	企画展示「歩く宝石オサムシ」	FM滋賀	孝橋主査
28	こどもプラスワン	質問コーナーの紹介	びわ湖放送		
10	11	NHKニュース	ピワマスについて	NHK大津	桑原主任学芸員
	14	県政テレビタ刊プラスワン	観察会 ピワマス採卵現場を見学してみませんか	びわ湖放送	孝橋主査
	15・16	ニュースワイド京都	博物館紹介	洛西ケーブルビジョン(京都新聞提供)	孝橋主査
	27	そこが知りたい特捜!板東リサーチ“秋の琵琶湖湖畔 草津・守山ぶらり旅”	博物館紹介とレストラン「にほのうみ」のバス料理	CBCテレビ(中部日本放送)	孝橋主査
11	2	NHKニュース	C展示室 昔の暮らしに学ぼう、富江家の案内	NHK大津	牧野厚史主任学芸員
	11	県政テレビタ刊プラスワン	わくわく探検隊 昭和のおうちで探検しよう	びわ湖放送	孝橋主査

放送日	番組名	内 容	媒 体	担当者	
11	12	PROTO ZIP-CITY STREET	琵琶湖博物館の紹介	ZIP-FM FM 77.8	孝橋主査
	29	NHKニュース	コイが来た道	NHK大津	中島上席総括学芸員
12	2	県政テレビタ刊プラスワ ン	わくわく探検隊 もちつきを しよう	びわ湖放送	孝橋主査
	16	県政テレビタ刊プラスワ ン	水族展示室とギャラリー展タ ガベェのため池探検	びわ湖放送	孝橋主査
	17 ・ 18	ニッポン早わかり 科学 館がスゴイ!	学校連携など	BBC テレビ神奈川	中島上席総括学芸員
	20	関西ラジオワイド	カワウが増えた要因と対策、 今の個体数など	NHKラジオ第一 放送	亀田主任学芸員
	28	くらしこの一年	カワウが増えた要因と対策、 今の個体数など	NHKラジオ第一 放送	亀田主任学芸員
1	6	県政テレビタ刊プラスワ ン	琵琶湖地域をみんなで調べる 実践講座	びわ湖放送	孝橋主査
	19	各局ニュース	黄色いビワコオオナマズ	放送局各社	孝橋主査
	20	田淵岩夫の得ダネ! てれ び	ため池 ギャラリー展	KBS京都テレビ	杉谷専門員
	22	Theサンデー	黄色いビワコオオナマズ	日本テレビ	孝橋主査
	24	NHKニュース	ため池 ギャラリー展	NHK大津	杉谷専門員
	25	各局ニュース	黄色いナマズ	読売テレビ、B BC、NHK	松田専門学芸員
	29	うおーたんのこどもプラ スワン	琵琶湖の固有種ってなあ に?~	びわ湖放送	孝橋主査
2	10	県政テレビタ刊プラスワ ン	見学会 水族展示の舞台裏、 黄色いビワコオオナマズの展 示水槽デビュー	びわ湖放送	孝橋主査
	11	県政テレビタ刊プラスワ ン	黄色いナマズのデビュー	びわ湖放送	孝橋主査
	14	ぐるっと関西お昼前	黄色いビワコオオナマズのデ ビュー	NHK大津	孝橋主査
	15	NHKニュース	黄色いビワコオオナマズのデ ビュー	NHK大津	松田専門学芸員、孝 橋主査
	16	びびっとびわこ	体験学習「琵琶湖の魚に親し もう」	びわ湖放送	秋山専門学芸員、青 木嘱託員
	28	NHKニュース	ビワコダスの紹介など	NHK大津	戸田主任学芸員
3	17	知っとこ滋賀	ギャラリー展示「こどもが見 つめるふるさとの川」「博物 館を楽しもう」	KBS京都	中井主任学芸員
	20	滋賀プラスワン イン フォメーション	ギャラリー展示「こどもが見 つめるふるさとの川」「博物 館を楽しもう」	FM滋賀	孝橋主査
	24	県政テレビタ刊プラス1	わくわく探検隊 紙すきをし よう、ギャラリー展示「博物 館を楽しもう」	びわ湖放送	

(5) 予 算

2005年(平成17年)度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	177,539,117
財 産 収 入	1,621,050
諸 収 入	543,466
合 計	179,703,633

2005年(平成17年)度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管 理 運 営 費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費	360,029,066
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	188,936,635
展 示 事 業 費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	171,570,478
情 報 交 流 事 業 費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	55,206,293
	合 計	775,742,472

#### 4 存在基盤の確立

##### (1) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

###### 第1回

開催日時 2005年11月8日(火) 13:30～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

###### 第2回

開催日時 2006年3月17日(金) 13:30～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

##### 第5期委員

(任期：2004年9月1日～2006年8月31日)

氏 名	区 分	現 職 (2006年3月現在)
伊 部 加 代	学 校 教 育	長浜市立びわ南小学校 教諭
長 瀬 良 文	学 校 教 育	東近江市立五個荘中学校 教諭
西 尾 久 美 子	社 会 教 育	エコ村ネットワーク 副理事長
佐 藤 祐 子	社 会 教 育	全国旅館生活衛生同業組合連合会青年部
永 田 俊	学 識 者	京都大学生態学研究センター 教授
篠 原 徹	学 識 者	国立歴史民俗博物館民俗研究部 教授
内 田 紘 臣	学 識 者	串本海中公園センター 館長
村 井 良 子	学 識 者	(有)プランニング・ラボ 代表取締役
岡 村 恵 子	学 識 者	毎日新聞社大津支局 記者
横 山 俊 夫	学 識 者	京都大学大学院地球環境学堂 三才学林長 教授 同大人文学研究所 教授 (両任)
西 野 麻 知 子	学 識 者	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 総括研究員
木 上 秀 保	学 識 者	滋賀県脊髄損傷者協会 副会長
ブライアン ウィリアムズ	学 識 者	風景画家
沼 井 哲 男	学 識 者	公募委員
福 田 正	学 識 者	公募委員

##### (2) 企画・計画

###### 1) 第2段階(2006年度～2010年度)活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としてその具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画を策定した。また、2006年度は計画の第2段階の初年度にあたることから、第2段階(2006年度～2010年度)活動計画を2006年3月に策定した。

###### 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

琵琶湖博物館の「利用されることで成長・発展する博物館」という博物館の理念は、一定の支持をいただき、これまでに多くの来館者を迎えることができた。しかし、ここ数年は来館者数の落ち込みが目立つようになり、博物館利用を促すための効果的な広報活動と効率的な運営を行うため、上席総括学芸員をリーダーとする広報・経営戦略検討チームを立ち上げて検討を行い、2006年3月に「琵琶湖博物館広報・経営戦略」を策定した。

## Ⅲ 2005 年度をふり返って

### 1 研究部

#### 研究調査活動

研究部の業務は、①「湖と人間」というテーマを追求するための活発な資料、情報の収集活動、②収集した資料や情報の整理・保管活動および研究・調査活動、③研究・調査成果の速やかな学術的発信、④事業部と共同した学術的成果の様々な事業展開である。

以下に 2005 年度のこれらの活動の現状と課題を概観する。

#### (1) 組織・運営

まず、研究部の業務を推進するための組織体制について触れる。2004 年度は、研究部長、生態系研究領域担当、博物館学研究領域担当などのリーダーが替わり新たな体制でスタートしたが、今年度はその体制が維持され安定してきた。

研究部の計画の立案・推進は、第 2 金曜日と第 4 金曜日の午後に研究部代表者会議を開催して行っているが、今年度は 20 回開催した。また、各研究領域の会議も 4 回開催し、領域ごとの研究の推進を図った。

#### (2) 研究・調査活動

2005 年度の研究は、総合研究 1 件、共同研究 11 件、申請専門研究 2 件、専門研究 31 件を行った。開館以来の総合研究や共同研究などの件数は減少傾向にあるが、今年度は総合研究が 1 件となった。来年度は生態学研究系や博物館学研究系の研究を課題とした総合研究を早急に立ち上げる必要がある。

このほか、外部の助成による研究を 11 人の学芸職員が 27 件行った。これは昨年よりも増加しており、今後も外部からの資金も活用しながら研究を活発化することが求められている。

#### (3) 成果の発信

成果の発信については、学術的あるいは一般的な著述、講演、館内事業としての講座、セミナー、企画展示、ギャラリー展示など様々な形がある。このうち、学術的な成果の発信としては、学術論文 35 件、専門分野の著作 48 件が、また一般向けの著作としては新聞への原稿も含め 83 件が行われた。その他、学会・研究会・講演会での発表は 79 件が行われた。最も基本的な研究成果の発信である論文等の発表数が若干であるが昨年度よりも増加したことは評価できる。今後も継続して増加できるような研究体制の確立が必要である。館内事業のうち企画展示やギャラリー展示などは展示活動の中で総括される。その他、館内事業としては、研究発表会、博物館講座（全 6 回）、研究セミナー、特別研究セミナーを開催した。毎月 1 回開催される研究セミナーへの学芸職員の参加率は年間平均 70.0%であり、昨年よりは出席率が若干上がったが、まだ同日に開催される学芸会議よりも参加率が低いことには変わりはなく、個々の研究を鍛えるための研究セミナーの意義が軽視されているように思われる。

#### (4) 研究交流

本博物館には特別研究員制度があるが、これに基づいて 4 名の外部研究員が琵琶湖博物館の施設を利用して研究を行い、またセミナーで発表を行った。その他、3 名の外部研究者が施設利用手続きの後、水族魚病研究室、液浸収蔵庫、生態進化実験室、共同利用研究室などの施設を利用した。外部の研究者との共同研究を活発化し、互いに議論をする中で研究能力が向上していくことを考えると施設利用者が増加する傾向が望まれる。

本年度は、琵琶湖博物館の中長期基本計画の第 1 段階の終了年である。博物館全体としては、今後の設備の老朽化の問題がでてくるのが懸念されるが、現段階における研究施設・設備はひとまず整備されたといえる。来年度に出版予定の開館以来の 10 年間の研究成果のまとめの出版物が出ることによって、これまでの研究の到達点と今後の課題が示される予定である。これらをもとに、第 2 段階の計画を進めていく必要があるが、現状においては、地域の機関、人々との研究協力体制がまだ十分とはいえない状態にあり、これらをどのようにして向上させていくかが、第 2 段階の大きな課題であると考えられる。

## 2 事業部

### (1) 展示交流

展示交流空間の更新にむけて、老朽化した情報機器類の全体的な見直しを行い、同じ展示効果を他の機種で安価に実現できるものについては速やかに更新し、情報機器類を使わずに展示効果が期待できるものについては、別の手法に変更した。また、内容が時代にあわなくなったものについても随時更新を行った。

展示交流活動については、展示交流員、水族飼育員やディスカバリールーム嘱託職員による来館者との交流活動を強化した。

企画展示では、地域の人たちとの共同研究「滋賀県のオサムシの分布」を基盤に、身近な自然に生息しているのに意外と知られていないオサムシにスポットをあてた「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」を開催し、「飛ばない昆虫」であることや「歩く宝石」と呼ばれる理由など、オサムシの不思議な生態について紹介した。8万人以上という、企画展示としては開館以来最高の入場者数となった。また、ギャラリー展示「淡海の川ー水害、そして川とともに生きるー」では河港課との共催によって、また「タガベエのため池探検ー人と歩む歴史と未来ー」では農政水産部農村振興課との共催によって、それぞれ行政と地域の人々をより密接に結ぶ展示を作ることができた。いずれも入場者は3万人を超えた。また、地域のひとびとの活動を支援し、交流の幅を広げる「集う・使う・創る新空間」を情報利用室を一部改造することで具体化することができた。

### (2) 資料の整備・活用

中長期基本計画の実現に向け、より一層の資料の整備と利用に向けての体制作りを推進している。2005年度末現在、収蔵資料数は総数60万点を超え、登録資料数は、379,805点となった。博物館にとって、資料の収集は根幹をなす業務であり、完結することはない。そのことから、受け入れ資料の整理保料の整備は急務である。また登録資料は、利用の便宜を考慮し、順次インターネット上で検索できるようにしている。本年度は、脊椎動物の3ジャンル（両生・爬虫類、鳥類、哺乳類）のデータベースの作成が完了し公開準備中である。また、民具データベースに加える画像データの作成が終了し、公開に向け作業中である。

収蔵庫の維持管理に関しては、IPMによる収蔵庫空間の安定的環境維持を目指し、今年度は昆虫トラップ、空中菌、pH、床上ゴミ調査など収蔵庫空間の現状把握調査を実施し、昆虫の進入経路の特定および環境基準の設定を行った。その結果、環境基準値を指標生物チャタテムシ1匹/日以下と定めた。またカビの発生に対する処置、燻蒸待ち倉庫の確保と運用を開始した。

水族資料に関しては、希少淡水魚の保護増殖について、一層の努力を行っている。30種もの淡水魚の繁殖を手がけている館は、(社)日本動物園水族館協会加盟園館としては最多である。本年度は、県内の希少種イトモロコについて人工繁殖を試みた。

### (3) 交流・サービス活動

体験学習プログラムの充実や「はしかけ」、「フィールドレポーター」の活動充実を中心に交流・サービス事業を進めてきた。その結果、新たに4本の体験学習プログラムを開発することができた。また、新たに3つのはしかけグループを立ち上げ、総数は14となり登録人数も361人と増加した。フィールドレポーターについては、登録者が169人となり、調査は3回、県外での活動紹介、交流も行った。観察会、講座等は27件、約6割は地域団体等との協働で実施した。

2005年度の大きな成果として、ギャラリー展示「博物館を楽しもう はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」の開催がある。これはフィールドレポーター、はしかけグループの活動を紹介するギャラリー展示で、相互の交流が深まるとともに、活動の充実を図ることができた。

課題として、「はしかけ」会員の具体的な参加を求めるしくみづくりや、はしかけグループ間の相互交流、内容をより魅力的にしていくことが必要となっている。フィールドレポーターについては、活動成果等の電子化により会員および会員以外の方々にも積極的に情報を提供していくことが必要である。観察会、講座等については、地域団体との協働を意識した見直しを行いたい。

#### (4) 情報発信

今年度の最も大きな成果は、いまや電子情報発信の要となっているWWWサイトについて、「調べごとには便利だが、初めての方には利用しにくい」という状況を改善するための大規模な更新が実現できたことである。年度末に駆け込みで実現させたような部分もあり、過去イベント情報を中心に十分な検証ができていないことや、英語ページの更新が取り残された形になっていることなど、いくつかの懸案を残している。これは新年度の早期に解決したい。

組織体制としては、中長期基本計画の個別計画の1つである「柔軟な運営組織」を先取りする形で、2004年度に二次資料（具体的には図書映像資料）の取扱を「資料整備活動」に統合する形の組織変更を行ったが、その結果、情報センターが非常に少人数となる不都合が生じていたため、これを暫定的に「事業部」の中で解決する方法として、2005年度は交流センターに統合して運営した。交流センターの中で多少不自然な運営を余儀なくされる結果となったが、このことで情報発信活動の懸案であった「インターネットwwwによる情報発信の改善」を進めるに際して、イベント情報の取扱を効率的に改善することができた。

### 3 総務部

#### (1) 来館者の状況

琵琶湖博物館の来館者数は、開館当初の1996年度は開館日数が130日であったにもかかわらず50万人弱が来館し、翌年の1997年度は100万人に迫る来館者を記録している。しかし、その後は減少傾向となり2004年度には44万人台となった。2005年度の年間来館者数は、約45万人となり、対前年度比で約9千人の増加となった。来館者数が増加に転じたのは、1997年度以来のことである。増加要因としては企画展が好調であったことと、来館者アンケートや旅行会社・学校教員へのグループフォーカスインタビューなどを実施し、当館の現状と課題を整理し、その認識を基に、積極的に広報活動を展開したことが考えられる。

#### (2) 来館者アンケート結果

毎回のアンケート調査結果はほぼ同じ傾向を示し、きわめて安定したデータであることは2005年度についてもいえる。満足度については、博物館を訪ねてみて「非常に満足した」と「満足した」をあわせて、アンケート開始以来初めて80%以上となった。特に第2回目の調査では86.4%とこれまでにない高率であった。これは企画展示が好評であったこと、A展示室、B展示室、水族展示室、ディスカバリールームで開催されたトピック展示や、水族展示室での給餌解説などの活動が満足度の向上に結びついたと考えられる。満足度の数値については「琵琶湖博物館中長期基本計画」第1段階の「年3回平均目標値75%」を達成することができ、同計画第2段階での目標値の上方修正が可能となった。

#### (3) 広報・経営戦略

前年度から広報・経営戦略検討チームを中心として、琵琶湖博物館広報・経営戦略の検討に着手しており、琵琶湖博物館協議会への審議を経て、2006年3月にこれを策定した。この戦略は、中長期基本計画と連動しながら、2010年度には年間来館者50万人を回復し、以後この数字を維持し、県民の認知と支持を得て今後も成長発展していくことを目標としている。

この目標達成のためには、何よりも全職員が広報を担当するつもりで、博物館の運営に目を向け、意識的に活動することが求められる。2006年度以降は毎年度広報・経営戦略に基づく行動計画を立て、広報・経営戦略会議で進行管理を行うことで着実に遂行していきたい。

また、琵琶湖博物館がメディア等に紹介される件数は、昨年度よりも約50件ほど増えている。これは黄色いピワコオオナマズや黄色いナマズが相次いで捕獲された記事がテレビや新聞で取り上げられたこともあるが、積極的な資料提供などによる成果とも考えられる。これからもパブリシティの充実を図り、博物館の活動をより広く知っていただくように努めたい。

#### (4) 施設整備

来館者、特に学校団体の方からの要望が多く、開館時からの懸案事項であった、雨天時の昼食・集合の場所の確保のため、全天候型昼食・集合施設の整備を行った。今後、昼食・集合の場所としての機能だけでなく、野外での観察会などの多目的な利活用も検討していきたい。

また、車いす使用者駐車場を増設し、屋根を設置することや、障害者用トイレの一部をオストメイト対応トイレに改善するなどユニバーサルデザイン化事業を実施した。

#### (5) 来館者サービスの向上

来館者サービス向上の一環として、2004年4月から新たに、1年間何回でも観覧できる年間パスポートの販売を始め、2005年度では670人の方に購入いただき、延べ3,242回の入館観覧をしていただいた。当館の来館者はリピーターの方が多く、利用者ニーズに応えることができるとともに、顧客の定着化による利用促進が図れた。また、新たな顧客開発のため、JR西日本等との連携による周遊パスポート「わくわく観光パスポート びわ湖・草津へ行こう。」に取り組み、2005年10月からの3か月で653人の販売実績があった。

今後により一層の利用促進を図るため、近隣の観光施設や交通機関等との連携による観覧券の導入を検討していきたい。

#### (6) 国際交流活動

JICAからの委託事業として「博物館集中コース」研修を国立民族学博物館との共催で実施し、10名の研修生を受け入れた。JICA研修についてはその内容をさらに充実して、海外からの研修生との関係の強化を図っている。

視察については、アジア地域をはじめ、北アメリカ、中東、アフリカ、ヨーロッパ地域などから、合計48件、約720人が博物館を訪れた。このうち、中国からの視察が増加していることが2005年度の傾向として見てとることができた。

国際交流活動については中長期的な視点を持ち、今後さらに増えるであろうJICAの琵琶湖博物館利用や視察対応について、将来にわたる関係構築につながるきっかけとなるよう努力したい。

## IV 博物館利用のご案内

■開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）

■休館日 毎週月曜日（祝日・休日の場合は、翌日休館）

年末年始（12月26日～1月2日）

その他館長が定める日

■観覧料（常設展示）（2006年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	750円	320円
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	600円	480円	2,400円	730円

(\*) 草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません

※未就学児、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

### ■交通案内

●JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。

「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。

タクシーで約20分。

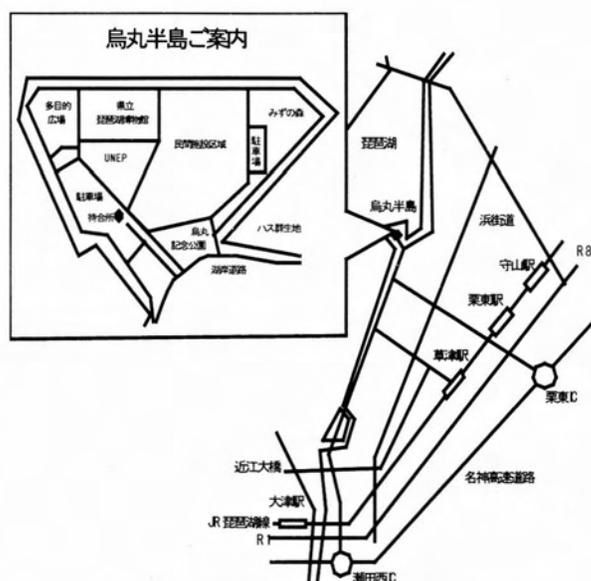
「守山駅西口」からタクシーで約20分。

●車では、名神高速道路「栗東I.C.」から国道1号線～栗東志那中線～湖周道路を経て約25分。

または「瀬田西I.C.」から湖周道路を経て約30分

●航路では、琵琶湖汽船シャトルボートで「大津港」、「琵琶湖大橋港」から「草津烏丸半島港」へ（不定期）

\* 問い合わせ先：琵琶湖汽船 (077)-524-5000



■駐車料金（2006年4月1日現在）

大型バス	1,700円	マイクロバス	1,100円
普通車	550円	二輪車	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

### ■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

滋賀県立琵琶湖博物館

TEL (077)-568-4811 FAX (077)-568-4850

インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

職員

(2006年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 寺田 治雄
- 上席総括学芸員 布谷 知夫
- 上席総括学芸員 中島 経夫

総務部

- 部長 寺田 治雄
- ◇総務課
- 課長 白井 莊一郎
- 主幹 南堀 貞雄
- 副主幹 中島 知子
- 主査 田中 順子
- 主任主事 西田 千恵子
- 主事 井上 裕士

◇企画調整課

- 課長(兼) 松田 征也
- 課長補佐 杉野 和彦
- (兼) 孝橋 賢一
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 里口 保文
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス

事業部

- 部長(兼) 用田 政晴
- ◇展示担当
- G.L.(兼) 牧野 久実
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 武部 強
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 榊永 一宏

◇交流担当(交流センター)

- G.L.(兼) 八尋 克郎
- (兼) 前畑 政善
- 主査(併任) 中村 公一
- 主査(併任) 中野 正俊
- (兼) 小川 雅広
- (兼) 西村 知記
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 牧野 厚史

◇資料活用担当

- G.L.(兼) 桑原 雅之
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 山川千代美
- (兼) 矢野 晋吾
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 大塚 泰介

研究部

○部長(兼) 高橋 啓一

- ◇環境史研究担当
- G.L. 総括学芸員 高橋 啓一
- S.G.L. 主任学芸員 里口 保文
- 専門学芸員 牧野 久実
- 主任学芸員 山川千代美
- 同 橋本 道範
- 学芸員 宮本 真二
- 同 榊永 一宏

◇生態系研究担当

- G.L. 総括学芸員 前畑 政善
- S.G.L. 専門学芸員 亀田佳代子
- 専門員(兼) 小川 雅広
- 専門学芸員 松田 征也
- 同 桑原 雅之
- 主任主査(兼) 武部 強
- 主査(兼) 西村 知記
- 主査 孝橋 賢一
- 主任学芸員 草加 伸吾
- 同 楠岡 泰
- 同 中井 克樹
- 同 牧野 厚史
- 同 芳賀 裕樹
- 同 矢野 晋吾
- 同 大塚 泰介
- 学芸技師 ロビン・ジェームス・スミス

◇博物館学研究担当

- G.L. 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- S.G.L. 主任学芸員 戸田 孝
- 総括学芸員 用田 政晴
- 専門学芸員 秋山 廣光
- 同 八尋 克郎
- 主任学芸員 芦谷美奈子
- 学芸員 中藤 容子
- (兼) 中村 公一
- (兼) 中野 正俊

注) G.L. はグループリーダー、S.G.L. はサブグループリーダーを示す。

---

平成 18 (2006) 年度 職員紹介

**館長 兼 滋賀県顧問 川那部 浩哉 (かわなべ ひろや)**

**略歴** 1960年京都大学大学院理学研究科博士課程修了・京都大学理学博士。同年京都大学助手、1961年同講師、1967年同助教授、1977年同教授、1991年同生態学研究センター長を経て、1996年退官。同年4月より現職。

**賞罰** 1960年朝日奨励賞、1995年カナダ国ゲルフ大学 (U. of Guelph) 名誉理学博士、1996年京都大学名誉教授・日本学士院賞エディンバラ公賞、1997年アメリカ芸術・科学アカデミー (AAAS) 外国人名誉会員・世界科学協会 (IMS) 会員、1999年京都新聞文化学術賞、2001年世界芸術・科学アカデミー (WAAS) 会員、2002年京都府自治功労賞、2003年日本生態学会功労賞・応用生態工学会名誉会員。

**役員** 日本生態学会元会長、国際生態学連合 (INTECOL) 元副会長・第5回大会会長、応用生態工学会研究会前会長、国際古代湖生物学会 (SIAL) 前会長、国際理論応用陸水学会 (SIL) 生物多様性委員会委員長・前日本代表、生物多様性科学国際研究計画 (DIVERSITAS) 科学委員会前委員・西太平洋アジア地域ネットワーク (DIWPA) 前委員長、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「アジア地域の環境保全」研究推進委員会前委員長、世界自然保護基金ジャパン (WWFJ) 常任理事、第9回世界湖沼会議企画委員会委員長、第3回世界水フォーラム運営委員会委員、など。

**専門分野** 生態学

**研究テーマ** 社会と群集の生態学 文化多様性と生物多様性との歴史的関係

1995年以来、アユの社会構造や川や湖の魚の種間関係を、おもに調べてきたつもり。京都府宇川の魚について50年間毎年調査してきた愚直さを、本人は大いに誇りにしている。また、アフリカ大陸のタンガニイカ湖などで、1977年ごろから国際共同研究を進めてきたが、極端なまでに地域主義的な発想を持ち、「当該地域の人々が調査のリード役を果し、さまざまな決定はその地域の人々が行うべきだ」との考えのもと、現地の研究者のアドバイザーの役割に徹することに努めてきた。「生物間の関係の総体」の研究が重要だと、40年以上言い続けてきたところ、近年の生態学の国際的流れはこの方向にかなり近づいており、いささか満足している。「生物の多種共存機構を促進する相互作用機構」すなわち「地球共生系」の共同研究に引き続いで、「生物多様性を促進する生態複合」すなわち「共生生物圏」の共同研究は、国内的には2002年3月に一応終わったが、その国際共同研究はさらに続いている。

琵琶湖博物館に来てからは、従来からの「生物間の関係の総体」を拡張して、「湖と人間の関係の総体の歴史性」を自分なりに考え直しており、「古代湖は生命文化複合体」などと、奇妙な用語を口走ってもいる。

『原色日本淡水魚類図鑑』(1963、76)、『川と湖の魚たち』(1969)、『生物と環境』(1978)、『カラー名鑑日本の淡水魚』(1989、2001)、『生物界における共生と多様性』(1996) など、比較的題名のおとなしい著書もあるが、『偏見の生態学』(1987)、『曖昧の生態学』(1996)、『魚々食記』(2000) など、鬼面人を驚かすような題のものもある。また、私淑していたイギリスの研究者エルトンさんの本を3冊翻訳し、『シリーズ地球共生系』(全6巻)、『共生の生態学』(全8巻)、『ビジュアル科学講座生命の地球』(全13巻)を監修したりもした。近年編集したものには、『古代湖：その文化的・生物的多様性』(1999、英文)、『古代湖：生物多様性・生態・進化』(2000、英文)、『博物館を楽しむ：琵琶湖博物館ものがたり』(2000)、『生物多様性の世界』(2003) などがある。また、『日本の魚類生物学：川那部浩哉に捧げる』(1998、英文) や『川の自然を残したい—川那部浩哉先生とアユ』(2000)などを贈って頂き、光栄に思うと同時にいささか恥ずかしい気もしている。

**上席総括学芸員 布谷 知夫 (ぬのたに ともお)**

**略歴** 1974年京都大学大学院農学研究科博士課程中退、農学修士、2004年総合大学院大学博士(文学)取得、1974年大阪市立自然史博物館、1991年滋賀県教育委員会事務局文化部文化施設開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 博物館学

研究テーマ 利用者の視点からみた博物館 遺跡木材遺物による古環境復元

大学では林学を学び、林縁植生をテーマに研究を行ったが、実際には自分の研究よりも研究室仲間の仕事を手伝って、日本各地の山を見ることができたことのほうが有意義であったような気がする。博士過程に進んですぐに博物館に就職し、学芸員としての仕事を始めたが、博物館の学芸員にたいして、多くの利用者が期待する内容と大学時代に身につけた知識との差は大きく、とまどった覚えがある。

就職した博物館は、利用者との関係においては日本でも最も先進的な試みを行っていることで評価の高い博物館であり、博物館の在り方については貴重な体験ができた。そして博物館の学芸員は専門分野の知識をいかしながら、博物館そのものについてももっと積極的に発言をすべきであると考えてようになった。博物館について議論する日本の博物館学は、大学の研究者が中心になっていて、現場の学芸員の声があまりに少ないためである。

琵琶湖博物館開設の仕事を担当するようになってからは、理想とする博物館像に近づけるための努力をしてきたつもりではあるが、まだまだゴールは遠い。

**上席総括学芸員 中島 経夫** (なかじま つねお)

略歴 1972年東京都立大学理学部化学科卒業、1980年京都大学理学研究科博士課程動物学専攻単位取得、同年日本学術振興会奨励研究員、岐阜歯科大学歯学部、1982年理学博士(京都大学)取得、1990年滋賀県教育委員会事務局文化部文化施設開設準備室を経て、1997年より現職。1997年生態学琵琶湖賞を受賞。

専門分野 魚類形態学

研究テーマ コイ科魚類の咽頭歯の研究

コイ科魚類に特有な咽頭歯の形の美しさに魅かれて、研究を始めた。コイ科魚類の仔稚魚の数10ミクロンの小さな歯からコイ科の進化をさぐり、化石のデータと合わせながらユーラシア大陸や日本列島の数千万年の大地の歴史を紐解いている。その一端を「東アジアの化石コイ科魚類の時空分布と古地理学的重要性」に著した。また、小さな咽頭歯は化石としてよく残り、琵琶湖やそこにすむコイ科魚類の生い立ちを語っている。そのささやきから、明らかにされた琵琶湖の環境の移り変わりを「琵琶湖の自然史」(八坂書房)に著した。最近では、遺跡に残された咽頭歯化石から当時の人の活動やそのフィルターを介した古生態系の復元に興味をもち、「縄文時代遺跡から出土したコイ科のクセノキプリス亜科魚類咽頭歯遺体」(地球科学)、「赤野井湾遺跡から出土した絶滅種を含むコイ属咽頭歯遺体」(COPEIA)を著し、歴史時代にも琵琶湖魚類の絶滅したことを明らかにしている。

## ◇ 環境史研究領域

**総括学芸員 高橋 啓一** (たかはし けいいち)

略歴 1979年日本大学文理学部応用地学科卒業、1979年～1980年京都大学理学部研修員、1980年～1990年日本歯科大学新潟歯学部口腔解剖学教室助手、講師、1990年歯学博士(日本歯科大学)、2004年理学博士(日本大学)取得、1990年滋賀県教育委員会事務局文化部文化振興課を経て、1996年より現職。

専門分野 古脊椎動物学

研究テーマ ゾウ化石を中心とした東アジアの古脊椎動物の変遷

大学入学と同時にに入った野尻湖発掘調査団をきっかけに、幾つかのゾウ化石の発掘を経験し、ゾウ化石の研究を行うようになった。大学に就職してからは、比較解剖学に興味を持ち、人体解剖や歯の形態を学生に教育する傍らで基本的な体制を堅持する軟骨魚類の頭部解剖を実体顕微鏡下で毎日続けた。学位論文は「軟骨魚類の口腔底を支配する顔面神経の解剖学的研究—鼓索神経の相同性について—」。

ゾウ化石の研究を始めたのは、単なる偶然のように思っていたが、実はここに日本の鮮新?更新世という地質時代にみられる日本列島の動物相の特徴があることに気づいた。それは、この時代の脊椎動物化石は、非常にゾウが多いのである。そのために、私は度々ゾウの発掘にめぐりあうことになったのである。いわば、日本列島の動物相がもつ特異性によって、必然的に私の研究対象が決定したのである。

古琵琶湖層群からは、多量の足跡化石や比較的豊富な脊椎動物化石が産出する。脊椎動物化石の産出する地層で、400万年間も連続し、地質学的に詳細に調査された地域は他ではみられない。このようなよいフィールドを活用して、古琵琶湖から産出する脊椎動物化石がどのような意味をもつのか東アジア全体の中で位置づける仕事を現在続けている。

#### 専門学芸員 牧野 久実 (まきの くみ)

略歴 1988年慶応義塾大学大学院文学研究科修士課程修了、1989～91年テルアビブ大学考古学研究所留学、同期間日本学術振興会特別研究員、1991年慶応義塾大学大学院博士課程中退、1991年国立民族学博物館外来研究員、1992年国立民族学博物館共同研究員、2005年史学博士(慶応義塾大学)取得、1992年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 民族学

研究テーマ 湖環境の比較文化史的研究

私は水辺が好きだ。育った神戸では瀬戸内海を、留学先のテルアビブでは地中海を、そして今は琵琶湖を、日々眺めながら暮らしている。オーストラリアの先住民が描く絵に砂漠とオアシスを描いたものがあるが、私の頭の中にもちょうどあの様な水辺を中心にした心の地図がある。各地の水辺の文化にはさまざまなものがある。通常歴史学ではその地域性に目を向けるが、地域性と同時に普遍性にも目を向けていこうとするのが民族考古学の立場である。一見異なるものに潜んでいる同じもの、一見同じものに潜んでいる異なるもの、そういった事象を比較研究することで、琵琶湖の文化により深く迫って見たいと思う。

#### 主任学芸員 山川 千代美 (やまかわ ちよみ)

略歴 1987年北海道教育大学釧路分校中学理科課程卒業、1989年兵庫教育大学修士課程学校教育自然系コース修了、教育学修士、1989年滋賀県教育委員会事務局文化部文化振興課を経て、1996年より現職。

専門分野 古植物学

研究テーマ 新生代における植物化石の研究

私は、新生代の大型植物化石を対象に、過去の植物相を解明し、その変遷や古環境を紐解いていく研究をしている。大学時代、研究室の教授に私の郷里で化石採集をするから、よかったら来てみないかと誘われたのが、きっかけであった。もともと、幼少の頃から植物に接することが好きだったので、訳なくのめり込んだ。また、「博物館大好き子」だったので、博物館へ出入りするようになり、気がつけばこの道を歩んでいた。今後、古琵琶湖層群をはじめ、日本や東アジアにおける新生代の植物群の変遷や古植生、さらに種の移り変わりを形態学的な視点から系統進化を究明していきたいと思っている。

#### 主任学芸員 橋本 道範 (はしもと みちのり)

略歴 1993年京都大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻中退、同年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 文献史学

研究テーマ 13世紀における社会経済構造の変動

私の手元にはいま、1963年に撮影された一枚の空中写真がある。現在の写真と見比べてみると、ここ数十年の間に一変した景観に驚かされる。私たちは伝統的なたんぼの姿、日本の農村の姿を見ることができた最後の世代である。

ところで、そうした「伝統的な」たんぼの姿や村の景観は、決して大昔からかわらずあったわけではない。それぞれの時代の人々が、それぞれの自然条件や社会的条件に応じてそのときどきでもっとも望ましい形に変化させてきたのである。それは、どのような変化であったのであろうか。過去の人々の達成と限界を捉える作業は、現在を相対化し、常に未来をみすえるという姿勢を我々に与えてくれるはずだ。

いま私の手元にある空中写真は、犬上川中流域のものである。たんぼの規格化が進み、かつての様子はもはや空中写真や地形図などと実際にその場所で生活をしていた方々の記憶の中にしか残されていない。今後、それらの方々から聞き取り調査を行い、過去の変化を捉えるための基礎資料としたいと考えている。また、過去の記憶をよびおこすこの調査が、身近な自然や文化の変化を見つめ直してもらうきっかけとなればと願っている。

#### 主任学芸員 里口 保文 (さとぐち やすふみ)

略歴 1997年大阪市立大学理学研究科後期博士課程地質学専攻学位取得後修了、理学博士、同年より現職。

専門分野 層序学

研究テーマ 古琵琶湖層群の火山灰層と他地域の鮮新?更新統中の火山灰層との関係

“滋賀県の近くに火山なんか無いのに火山灰をやっているんですか?”この問に対する答えは、“琵琶湖周辺に火山は無いが、火山灰層は多く存在する”である。この事実はあまり一般の人に知られていない。火山灰は火山の爆発的な噴火活動によって広域に拡散する。それが堆積し、地層中に残っている。その拡散範囲は火山噴火の規模や形態にもよるが、最大級のものになると本州全土を覆うものもある。日本全国どこにでもあるのではないかとと思われるほど火山灰はある。

古琵琶湖層群には、多くの火山灰層が挟まっている。これらはどこから来たのか。また、他の地域に同じ火山灰があるのだろうか?それぞれの火山灰はどんな特徴があるか?それらはいつ、どこで、どのように噴火して、どこまで拡散したのか?自然が残してくれたヒントを頼りにその答えを解明するにはどうすればよいのか、それを考えていきたい。

#### 学芸員 宮本 真二 (みやもと しんじ)

略歴 1993年立命館大学文学部地理学科地理学専攻卒業、1996年東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻博士課程中退、同年5月より現職。2005年博士(理学、東京都立大学)取得。

専門分野 微古生物学

研究テーマ 堆積物試料の各種分析(おもに花粉化石)・測定による第四紀の古環境変動の復原

まだ過去を振り返るほど老いていないが、今の研究の原点は幼年期にあったと思う。田舎だったので、美しい自然に囲まれて成長してきた。それが、そもそものきっかけだったと感じている。

おもに堆積物中に含まれている花粉化石の分析から、自然環境の変化と人との関係の歴史を復原するという、研究をやっている。

自然のイメージを色にたとえると、私は森の緑と答える。その緑は、世界的に急速に減少している。その破壊の一番の原因が、我々人類なのだ。

中東、アフリカ、ヒマラヤ、オーストラリアなど、海の外のフィールドから感じる日本の森は、とても、とても美しい。自然の偉大さを痛感せずにはいられない。

博物館では研究から展示という流れを通じて、自然の偉大さ、大切さ、また恐さも知っていただける活動を行ってゆけたら、と思っている。

#### 学芸員 榎永 一宏 (ますなが かずひろ)

略歴 1994年九州大学農学部農学科卒業、2000年九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程単位取得、同年より現職、2002年九州大学博士(理学)取得。

専門分野 水生昆虫学

研究テーマ 水生昆虫の分類、系統進化、生物地理

小学生の頃からの新種を見つけないという思いが、昆虫の研究ができる大学を選択させた。なぜ、ハエを研究しているのかと聞かれることがよくある。理由は2つある。一つに小型の昆虫はほとんど研究されておらず新種が多いこと、もうひとつは人に話してもなかなか理解されにくいのだが、アシナガバエは非常に美しいということである。

大学学部時代から現在まで双翅目アシナガバエ科の系統分類学的研究を行ってきた。現在は分子系統学的手法を用いた系統推定も行っている。アシナガバエ科は150属6000種からなる、双翅類のなかでも大きな一群である。本科の成虫は淡水域から海水域まで、様々な水辺環境への進出に成功し、適応放散により進化してきたグループである。大学院時代には海岸の岩礁域に棲むイソアシナガバエの研究に力を入れ、日本中の海岸線をなぞるようにテントを積んだ原付バイクで走ったことがある。中国大陸の海岸も中国人の大学院生と2人でバスと車を利用し、中華料理を楽しみながら、分布調査をした。また日本周辺の離島の調査数も30島に及ぶ。

今後は、滋賀県において双翅目を中心とした水生昆虫相の解明を進めたい。また代表的な世界の古代湖の水生昆虫を収集し、各古代湖における歴史的、地理的、気候的環境を踏まえて、それぞれのもつ動物相の固有性や類似性に関する分類学的・進化的研究を行いたい。世界の古代湖の生物相の成り立ちの比較研究により、琵琶湖の特殊性や重要性を浮かび上がらせるような研究活動をしたいと考えている。

## ◇生態系研究領域

総括学芸員 前畑 政善（まえはた まさよし）

略歴 1974年高知大学大学院農学研究科修士課程栽培漁業学専攻中退、1974年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1997年より現職。2002年理学博士（京都大学）取得。

専門分野 水族繁殖学

研究テーマ 日本産ナマズ類の産卵生態

魚類を選んだのは、小さい時から魚を取ったり食べたりするのが大好きだったから。高知大学在学中は、ダムのない大河・四万十川の下流部で、アユの産卵生態や生理を研究していた。もちろんアユはたらふくたべた。1974年4月から1996年の3月まで滋賀県立琵琶湖文化館に勤務し、この間、日本産希少淡水魚の繁殖やブラックバスの食性、それから最近ではピワコオオナマズをはじめイワトコナマズ、ナマズなど日本産ナマズ類3種の繁殖生態・行動等を研究している。特に、ナマズ類の研究のきっかけは、1988年にたまたまピワコオオナマズの産卵を間近に見、ひどく感動したことから始まり、それは現在の研究のテーマともなっている。昔からそうだが、感動しないものに対しては、研究対象としないという性分らしいと本人は考えている。最近では、種の保全、あるいは生態系の保全は地域の人びとの関心なしではありえないと確信するに至っているが、その各論のありかたになやんでいる。

専門員 小川 雅広（おがわ まさひろ）

略歴 1984年中央大学理工学部土木工学科卒業、1993年滋賀県職員（農業土木技術吏員）採用、農村整備課、湖北地域振興局田園振興課を経て、2006年4月より現職。

専門分野 農業工学

研究テーマ 農村地域における生物多様性直接支払い制度について

農村地域には水田や水路などの資源が存在する。このような資源は、食料を生産する生産基盤としての面と多様な生物の生息空間や美しい田園風景などを有しているといった面を持っている。行政施策としてもこれらの資源を保全することは非常に重要な課題となっている。滋賀県においては、過年度より環境直接支払い制度を導入し、環境改善的を絞った施策を展開しているところである。H18年度においては、生物多様性の再生を焦点とした直接支払い制度を導入した。ついては、この制度の実施により生物的效果の検証、施策の有効性・妥当性を検討したいと考えている。

**専門学芸員 松田 征也 (まつだ まさなり)**

略歴 1983年近畿大学農学部水産学科卒業、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。

専門分野 底生動物学

研究テーマ 淡水産貝類の滋賀県内における分布状況調査。琵琶湖湖底に生息するピワコミズシタダミ、水田に棲むマルタニシ、移入種のカワヒバリガイの生態調査

滋賀県下にはおよそ60種類の淡水棲貝類が生息しているが、その分布状況および生態については一部の種類を除いてほとんど分かっていない。また、環境変化に伴い淡水棲貝類の中にも絶滅の危機に瀕する種類が見られるようになった。このようなことから、知られないうちにいなくなる種類が一つでもいなくなり、貝類が人間と共存できるような環境を提案できるよう研究を進めたい。

**専門学芸員 桑原 雅之 (くわはら まさゆき)**

略歴 1982年愛媛大学理学部生物学科卒業、1984年三重大学水産学研究科修士課程中退、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。

専門分野 水族生理学

研究テーマ 琵琶湖固有亜種であるピワマスと、琵琶湖流入河川に生息するアマゴとの関係

海に囲まれた長崎県で育ったため、もっぱら海水魚に興味を持っていたが、ひょんなことからサケ科魚類であるイワナとアマゴの関係について卒業研究を行った。それ以来淡水魚（というよりもサケ科魚類）にのめり込み、三重大学修士課程ではアマゴの成長と社会行動の関係について研究を進めていた。しかし、中退して滋賀県に来てからは、琵琶湖の固有亜種とされるピワマスと流入河川に生息するアマゴとの関係、さらにはピワマスの成立機構に興味を持ち、現在はその前段階として、十分に解明されたとは言い難いピワマスの生活史に焦点を当て研究を進めている。

**専門学芸員 亀田 佳代子 (かめだ かよこ)**

略歴 1996年京都大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻修了、博士（理学）取得、京都大学生態学研究センター研修員を経て、同年12月より現職。

専門分野 鳥類学

研究テーマ 生態系における鳥類の役割に関する研究

特に鳥だけが好きだったわけではないが、子供の頃から野生動物や自然について興味があった。その中で鳥を研究対象にしている理由は何かといわれると、ひとつは鳥の「飛ぶ」という能力にある。もちろん全ての鳥が飛べるわけではないが、飛翔能力を得たことで渡りなど長距離移動が可能になったり、さまざまな生息環境を利用して生活することができるようになった。たとえば、琵琶湖を訪れるガンやカモの仲間は、湖だけでなく陸上のたんぼでえさをとったりヨシ帯で休憩したりしている。春になれば日本を離れてロシアにまで渡り、そこで繁殖を行う。こうした鳥の移動が、水域と陸域、繁殖地と越冬地の環境にどのような影響を及ぼしているのか。またここまで広範囲でなくても、湖で魚を食べ森林で営巣しフンを落とすカワウは、水域から陸域への物質移動にどのくらい関与しているのだろうか。こうした鳥のダイナミックな動きは、生態系や他生物になんらかの影響を及ぼしていることは確かだ。また逆に、食物条件や他生物などの環境の違いによって、鳥の側も柔軟に反応する。大学院時代に研究したキジバトではピジョンミルクという物質を分泌し、雛の食物とすることで繁殖期間が延長し、1年で何回も繁殖することがわかっている。つまり雛を育てるために必要な食物があれば、ハトでなくても何回も繁殖したり繁殖期間が延びる可能性があるわけである。このように、鳥と環境との相互作用において鳥類の役割とは何なのか、少しでも明らかにすることができればと考えている。

滋賀県あるいは琵琶湖は、たくさんの面白い特徴を持っていながらまだまだそれが十分に生かされていない。博物館が県内各地の人のネットワークを作ったり、世界と琵琶湖をつなぐパイプ役をつとめることで、広く世界に情報発信していけたら、というもの大それた夢の一つである。

#### 主任主査 武部 強 (たけべ つよし)

略歴 1983年 舞鶴工業高等専門学校土木科卒業、同年滋賀県職員(土木技術吏員)採用、大津土木事務所、河港課を経て、2004年4月より現職。

専門分野 河川工学

研究テーマ 多自然型川づくりに関する研究

これまでは、河川改修や道路改築事業を県の地方機関で直接実施する業務に携わる事が多かったのですが、昨年度は県庁河港課で「河川整備計画」の策定に関する業務に携わっていました。

滋賀県では、今後概ね20年間の具体的な河川の整備の内容を示す「河川整備計画」の策定を進めています。

この計画に、流域の皆さまの生の声を反映させるため、公募によるメンバーから構成する「川づくり会議」を開催し意見や課題を提案して頂き、これを学識経験者等で構成する「淡海の川づくり検討委員会」で議論し、その結果を河川整備計画に反映させるものです。

しかし、近年川づくりに対する住民の意見は、価値観の多様化も相まって多岐にわたっています。これは、川づくり特に「多自然型川づくり」が、河川工学のみならず生物、生態、社会、景観面等、様々な要素を含んでいるからであり、多自然型川づくりを計画するに当たっては、その効果を総合的・客観的・定量的に評価する必要があると考えています。

博物館では、川づくりに対する様々な要望に対し実施事例を検証評価することで、今後に活かせるような「多自然型川づくり」の方向性を探ると共に事業効果・影響を客観的に評価できる手法を探っていきたいと考えてます。

#### 主査 西村 知記 (にしむら ともき)

略歴 1994年3月、高知大学大学院農学研究科林学専攻を修了。同年4月滋賀県職員として採用、東近江地域振興局森林整備課を経て、2006年より現職。

専門分野 林学

研究テーマ 野生動物と人とのかかわり ~今までとこれから~

「森林」を取り扱う学問が「林学」(最近では「森林学」とも言われたりします)だと思ったら大間違い。「林学」という学問の範疇で学ぶのはそのほんの一部で、じつは「森林」に関わる学問の守備範囲は、森の木々や森に棲む生き物のことから、人々の利用、山に伝わる風習・民俗まで、果てしなく広がりつながる世界あるのです!そこから、私は発見と驚きをもらい続けてきました。それだけ森林は、生き物の集合体であると同時に、周辺環境に大きな影響を及ぼし、さらには人々の生活や歴史に関わり続けてきたのでしょう。そしてこれからも私たちと関わり続けていくとてつもなく大きな存在なのだと思います。琵琶湖博物館では、水を得た魚のように、これらの世界がさらに肥大していくのではという期待と妄想を抱きながら、利用客のみなさんと一緒に、新たな発見をしたいと思います。原色昆虫図鑑のオオスズメバチ収集に意欲を燃やす。今は原色両生類カエル図鑑のアマガエルをねらっている。

#### 主査 孝橋 賢一 (こうはし けんいち)

略歴 1990年近畿大学農学部水産学科卒業、1992年三重大学大学院生物資源学研究科修了、同年滋賀県水産試験場、水産課、再度水産試験場を経て、2004年より現職。

専門分野 水族環境学、水産微生物学

研究テーマ エリ網汚損原因糸状藻類の生理・生態について

大学には、理工学部建築学科へ入学したものの、パス(建物の完成イメージ図みたいなもの)の講義で芸術家肌の同級生たちにセンスの違いを見せつけられ、子供の頃から釣りが好きだったということと、ちょうどその頃、近大水産研究所がキンダイ(イシガキダイとイシダイの交雑種)を作り出したというニュースをテレビで見たという単純な理由で農学部水産学科へ転学部した。

滋賀県に来てからは、重要漁獲対象魚種であるニゴロブナ、アユの資源調査などでは、真夏の炎天下に胴長をはいて湖岸を歩き回り、調査は「体力」ということを実感した。その後水産課で行政を経験し、再び水産試験場で大正15年から連続と続き、琵琶湖における水質等調査の先駆である琵琶湖定点定期観測や、漁業者からの聞き取り等によって、実際に直面している漁場環境上の問題（農業濁水、北湖のエリ網に大量の藻類が付着し、操業困難にしている等）を抽出し、その現状把握から原因検討まで一連のプロセスを経験した。これらの経験から毎日、琵琶湖に出ている漁業者の「眼」が、いかに鋭いかということに今更ながら気づかされた。また、それら情報が最も受けやすい位置にある水産関係職場の琵琶湖に対する責任を痛感した。

博物館にいる間も、なるべく多くの時間を琵琶湖に足を運び、漁業者との対話を大切にし、自らも漁業者の「眼」になって琵琶湖を見つめていきたい。

#### 主任学芸員 草加 伸吾（くさか しんご）

略歴 1990年大阪市立大学大学院理学研究科博士課程単位取得、学術修士。同年滋賀県教育委員会事務局文化振興課を経て1996年より現職。

専門分野 森林生態学、森林水文学

研究テーマ 植生の水質調節機能、森林土壌での水質形成過程と伐採前後の変化

「空青し山青し海青し・・・」と歌われた自然豊かな熊野の地に育ち、おいしい水を飲んで育った。山歩きが好きであったことも手伝って、森と水の両方に興味を持つようになった。そして、これまで、森林と水の間を解きほぐす研究を中心に行ってきた。南アルプスの山々を歩き回り、大学時代には、寸又川流域の植生調査・植物相調査などを手がけた。その後、広島江田島では山火事が森林の水や栄養塩類など物質の循環に与える影響を調べ、また貴重な原生林の残る奈良春日山地域では、植生の発達度の違いが水質調節にどのように影響するかなど、主に森林の水質調節機能に関する研究を手がけてきた。現在は琵琶湖の安曇川流域で、森林伐採が環境に及ぼす影響について、伐採前後の水質や土壌の変化などの解明を担当し、あわせて、博物館の環境展示に役立つ新しいデータを得るため、調査を続けている。

これらの研究を通して、人間の森林に対する管理・働きかけが、森林の物質循環や水質調節機能にどのような影響を及ぼすか、水量・水質調節機能の大きい森林とはどのようなものか、また下流域の河川や琵琶湖、海などの水環境に対する負荷の少ない森林管理の方法を探ってみたい。

博物館の展示では環境展示の「水をはぐくむ森林」や「森林、農地、市街地を通る水」、「多雪地の植物」等、野外展示全体のとりまとめと森の育成計画および植栽を担当した。

#### 主任学芸員 楠岡 泰（くすおか やすし）

略歴 1985年東京都立大学理学研究科博士課程生物学専攻単位取得、理学博士（東京都立大学）取得、日本学術振興会特別研究員を経て、1991年滋賀県教育委員会事務局文化部文化施設開設準備室、1996年より現職。

専門分野 微生物生態学

研究テーマ 繊毛虫の生態学

物心ついたころから、虫やカエル取りが大好きな少年。横浜市立大学では授業をさぼって大学の裏山をほっつきまわる。チョウと食草の関係について卒業研究をおこなう。筑波大学修士課程では、水生昆虫と付着藻類の関係について研究するつもりが、水中の石をおおっている付着藻類のマットにハゲができていたのをたまたま見つけ、その原因を探っているうちに、アメーバが付着藻類にあたえている影響について研究。博士課程では毎日どぶ川にかよい、原生動物のツリガネムシを個体識別して、その生活史を追っかける。

現在は琵琶湖の繊毛虫と共生藻類について、研究している。

**主任学芸員 中井 克樹 (なかい かつき)**

略歴 1992年京都大学理学研究科博士課程動物学専攻単位取得、日本学術振興会特別研究員(1990～1992年)を経て、1992年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室、1996年理学博士(京都大学)取得、1996年より現職。

専門分野 魚類生態学

研究テーマ 湖沼沿岸域の生態系、外来水生生物の生態、陸生貝類の地理的変異

大阪のベッドタウン、豊中市の団地に生まれ、物心ついたときには捕虫網を振り回していた。幼稚園の時、南紀白浜の海岸でタカラガイを拾ったことで貝にも興味を持ち始め、小学校低学年以来、だんだんと陸貝に染まっていき、昆虫からは遠ざかる。大学の卒業研究では溪流の水生昆虫、修士1年では比叡山麓のカタツムリの変異を扱う。修士2年にアフリカ・タンガニーカ湖の調査に参加させてもらい、魚類に寄生する甲殻類の生態と、魚類のなわばり行動を潜水調査する。博士課程でもタンガニーカ湖に丸1年潜り続け、魚の繁殖生態を研究する。1990年からは、琵琶湖の北端部でオオクチバスとブルーギルの繁殖生態を調べ始め現在も継続している。勤め始めた1992年に琵琶湖で見つかったカワヒバリガイも、継続して追いつけている。「虫屋」のいなかった博物館準備に関わって、長年眠っていた虫への関心もよみがえり、開館までの3年ほどは、県内の公衆便所にも捕虫網を手に出没した。

**主任学芸員 牧野 厚史 (まきの あつし)**

略歴 1984年関西学院大学経済学部卒業、1990年関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学、関西学院大学社会学研究科研究員を経て、1999年より現職。

専門分野 地域社会学

研究テーマ 環境問題についての地域社会学的研究

最近の環境問題の研究には、生活や生活者ということばがやたらに使われるようになってきた。それはとてもよいことだろうけど、生活という言葉を使うとき、私は少しばかり考えこむことがある。琵琶湖博物館には「湖の環境と人々の暮らし」をテーマとした展示室があり、ごく最近まで琵琶湖の周囲で人々が営んでいた日常生活が紹介されている。この展示室は、琵琶湖博物館の特色をよく表していると同時に、みる人によって評価が分かれる展示室でもある。たとえば、実際の暮らしの中で、展示の世界を経験してきた人々が、展示をみて常識的と判断するのは理由のあることだ。けれども新興住宅地で生まれ、物心ついた頃から、水道の蛇口をひねれば水がでて、トイレは水洗という生活をおくってきた私にとって、展示されている「生活」は、全く経験したことのない未知の世界である。このように、博物館の展示を常識と受けとめる人々の暮らしがある一方で、展示の内容を未知の世界と感ずる人たちの生活がある。それらのことなる暮らしを営んできた人々によって生活世界が成り立っているならば、私たちは、地域環境に生じてくる問題について判断をどのように下していくことになるのだろうか。また私たちの下す判断は、私たち自身の生活を変えていくけれども、それはどのような方向へと向かっているのか。ここに私の基本的な研究テーマがある。

**主任学芸員 芳賀 裕樹 (はが ひろき)**

略歴 1994年名古屋大学理学研究科博士課程大気水圏科学専攻単位取得、同年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年理学博士(名古屋大学)取得、1996年より現職。

専門分野 陸水化学

研究テーマ 湖水中の生態系と環境の相互作用

私たちの体の中には無数の細胞がいて、それぞれが大切な仕事をしている。私たちが健康な日々を送るためには、各細胞がバランスよく働いていなければならない。なにかの病気になったときには、どのようにバランスが崩れたのかを調べることで、病気の原因や直し方、予防法がわかる。こうしたバランスを研究する分野は、人間を対象にする場合には生理学(代謝学)、そしてその応用の医学ということになる。

「湖沼代謝学」というのは、湖をひとつの生き物に見立て、その中身(生態系)がどのようなバランスで働いているかを調べる研究分野である。内容としては、基礎科学の生理学に近く、病気の直し方よりも、生態系のなり立ちや調節の仕組みを調べることに主眼をおいている。

### 主任学芸員 矢野 晋吾 (やの しんご)

略歴 1988年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、日経マグローウヒル社(現・日経BP社)入社、経済・経営雑誌、建築雑誌の記者を歴任、1993年同社退社、1995年早稲田大学大学院人間科学研究科(生命科学専攻・地域環境論講座)修士課程修了、2000年早稲田大学人間科学研究科博士後期課程修了、同年博士(人間科学・早稲田大学)取得、2000年より現職。

専門分野 環境社会学

研究テーマ 地域(主として農・山・漁村)社会における生活と自然環境の関連についての社会学的研究  
幼い頃、私の育った東京・練馬は武蔵野の雑木林(平地でもヤマと呼ぶ農用林)に囲まれ、ミヤマクワガタが捕れた。しかし、その林はことごとくマンションになっていった。周りの大人は「経済が発展した」とか「近代化して便利になった」と言ったが、私には大切なものが、どんどん失われていったとしか思えなかった。そんな疑問から学部は経済に進むが、人間が見えない“科学”に大きな違和感を感じ、民俗学のサークルに入り村に通い始める。村の生活を通して、自分の生きた「高度経済成長期」と、それを支える論理である「市場」を考える必要性を痛感する。マスコミの世界に入ってから企業経営者(特にベンチャービジネス)に取材する日々を送りながら、日本企業は経済学の生まれた欧米とは異質の合理性で動いている現実を目の当たりにする。その合理性とは、「家」や「村」にみられる行動論理であった。家・村は、今でこそマイナスのイメージが強いが、本来はその地域の人々が、生活空間である自然環境(人為的なものを含めて)をうまく利用しながら日常生活を送るために長時間をかけて作り上げた仕組みである。それをもう一度考えることが現代、そして将来の日本社会を考える上で重要だということを改めて理解した。その後、日本社会を知るために、農・山・漁村に滞在し、そこで生活する人々と共に時間と体験を共有しながら、人間社会と自然との関係について教えていただいている。

### 主任学芸員 大塚 泰介 (おおつか たいすけ)

略歴 1998年京都大学大学院農学研究科博士課程熱帯農学専攻修了、博士(農学)取得、島根大学汽水域研究センター非常勤研究員(講師)を経て、2000年より現職。

専門分野 陸上生態系学

研究テーマ 付着珪藻の分布

魚を研究しようとして水産学科に入ったのに、気がついたら「珪藻」などというマイナーな生物を研究していた。川にはいるとよく、石に付いたヌルヌルに足をとられるが、あのヌルヌル(水垢)の主な成分が珪藻である。もっとも、珪藻がマイナーなのは大半の人間の認識においての話である。実際には水気のある場所ならばどこにでもいて、水域で光合成をする生物としては最も重要なものの一つである。種類も多く、少なくとも万の単位だと言われている。

しかしこの珪藻、どこに、どんな種類が、どれくらいいるのか、ほとんど解っていない。研究している人も結構多いのだが、何せ種類と生息場所が著しく多様なので、とても調べきれないのである。そこで私も、この問題に取り組むことにした。水田、水たまり、動物の体表など、まだ珪藻がほとんど調べられていない場所が、すぐ近くにたくさんある。多分、一生かかっても研究のネタが尽きることはないだろう。移り気なので、10年後に何をやっているかは自分でも見当がつかない。今のところ、付着珪藻の群落を、統計手法を用いて記述することに精を出している。

### 学芸技師 ロビン ジェームス スミス (Robin James Smith)

略歴 1999年英国レスター大学地質学部卒業、古生物学博士取得。2000年から2002年日本学術振興会特別研究員として金沢大学、2002年から2003年英国学士院研究員として英国グリニッチ大学、2003年から2004年英国学士院研究員として英国自然史博物館、2004年COE研究員として金沢大学にて研究に従事。2004年12月より現職。

専門分野 国際湖沼学

研究テーマ カイミジンコ (Ostracods) の分類と発達

私はカイミジンコ (ちょうつがいの背中を持つ微小な甲殻類) の分類と、発達、生態と進化について研究しています。レスター大学 (イギリス) の博士論文では、有名なブラジル北東部のサンタナで見つかった世界で最も保存状態のいい化石のカイミジンコを研究しました。その化石は1億年前のものでしたが、まだその殻の中に触角等の一部を残していました (めったにないことです)。それによって現存するカイミジンコと直接比較することができました。大学院のあとに現存するカイミジンコの研究を続け、特にどのように成長するかについて研究しました。異なるグループにおける発達の違いを研究することによって、あるグループが他のグループとどのように関連しているか、さらにその進化がみえてきます。日本に來てからは淡水カイミジンコの分類について研究を始めました。日本ではカイミジンコはとても多様かつ豊富ですが、たくさんの種が名前を持たず、記述もされていません。カイミジンコは気候学や公害学など様々な分野でとても有益ですが、その可能性が完全に解明されるためにはまず名前をつけ記述をすることが不可欠です。琵琶湖博物館で研究を始めてからは、琵琶湖のカイミジンコについても研究しています。すでに新種をたくさん見つけ、琵琶湖はとても興味深い研究対象であることが分かってきました。

#### ◇博物館学研究領域

総括学芸員 マーク ジョセフ グライガー (Mark J. Grygier)

略歴 1984年米国カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリッス海洋生物学研究所海洋生物学博士取得。コペンハーゲン大学及びワシントンD.C.のスマソニアン研究所国立自然史博物館研究員、1988年から90年、1992年から93年、1996年から97年琉球大学研究員。日本学術振興会特別研究員として京都大学瀬戸臨海実験所、團国際生物科学基金を得、広島大学研究員。この間オーストラリア、ロシア、フランス、米国、オーストリアの博物館及び大学で短期研究、スマソニアン研究所国立自然史博物館では独立研究。1997年より現職。

専門分野 生物多様性学

研究テーマ 甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにおけるエビの生態発生学、海洋寄生虫

大学院の論文には囊胸類の分類学、比較形態学、幼生の生育を扱った。このグループの研究は現在も続いている。コペンハーゲンでは“y 幼生”の研究に着手し、瀬戸臨海実験所では、著名な甲殻類研究学者、故伊藤立則博士の研究課題を引き続いて研究した。沖縄の瀬底島では珊瑚礁寄生虫を研究、又多様な甲殻類グループの幼生生育を比較研究した。広島大学では主としてカイアシ類モンストリラ目の研究に専念、スマソニアン研究所では棘皮動物の寄生性の研究を中心に行った。

大学院では囊胸類をテーマに選んだ。今まで知らなかった分野だったからだ。13歳から海洋生物学や無脊椎動物学の教科書を読んでいたが、これに関しては未知であったため、研究に値するフィールドであると思い、これを選んだ。その後、甲殻類の系統学に関する多くの疑問が徐々に解明出来始めたことから、将来は同じようにまだ解明されていない無脊椎動物に焦点を当ててみようと思った。この内の多くが寄生虫であることを強調したことが、日本で研究を始めるきっかけとなった。1997年までは海洋動物だけを研究対象としてきたが、淡水の琵琶湖や水田ではほぼ同じテーマで未知の分類群に取り組み、系統学的な謎を解明して行きたい。特に、カイエビという甲殻類に興味を持っている。

総括学芸員 用田 政晴 (ようだ まさはる)

略歴 1979年岡山大学法文学専攻科史学専攻考古学コース修了、岡山県総務部県史編纂室、滋賀県教育委員会文化財保護課、琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 考古学

研究テーマ 古代国家成立前史

遺跡は文化財であり、国民共有の財産であるといわれている。永く後世に伝えることは、人類の義務でさえあるといわれている。では、何のために残し、伝えようとするのか。将来の研究のため、歴史学習の素材として活用するため？

私をはじめ古墳の上に立った時、土器のかけらを手にした時、城跡の石垣に触れた時、いい知れぬ思いがこみあげてきた記憶がある。人は、生まれながらにして、時間をさかのぼって感動をおぼえる能力を潜在的に備え、また、その権利ももっている。これは歴史環境享有権、あるいは文化環境甘受権と言いかえられるかも知れない。

私は、こうした感動を、みんなが受けられる世界を残しておきたいと考えている (琵琶湖博物館C展示室『考古学徒からみた歴史環境』より)。

### 専門学芸員 秋山 廣光 (あきやま ひろみつ)

略歴 1974年日本大学農獣医学部水産学科卒業、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。

専門分野 水族病理学

研究テーマ ズナガニゴイの繁殖行動、ギギの発音機構

子供の頃は無類の虫好き。でも、どういう訳か、標本にするのが嫌で、飼育観察するのみ。しばらくして、魚を飼育し始め、昆虫の飼育では難しかった環境を作り出すことが容易であることに魅せられる。以後魚一辺倒の人生を歩むことになる。しかし、一人で飼育をしたり、研究したりするのではなく、魚に対する想いを少しでも多くの人に伝え、魚大好き人間を増やしたいと念じている。琵琶湖文化館時代に、水族部門で撮り貯めした写真映像資料(主に35mmフィルム)の整理を行い、写真活用が十分にできるようにした。百聞は一見に如かず、の例えのように実物から得られる知識は必要十分なものであるが、映像資料からも聞いたり読んだりすることより実物にずっと近い知識が得られる。蓄積された写真資料は多岐にわたり、6万点を超える資料数に達していた。完全な整理にはまだ時間を要するものの、今後撮影してゆく映像とともに、琵琶湖博物館の貴重な資料となるだろう。写真撮影とその整理・利用は、博物館の重要な業務と考えるが、私自身の興味は生態学や行動学にあり、現在は魚の産卵行動や声の研究を行っている。

### 専門学芸員 八尋 克郎 (やひろ かつろう)

略歴 1994年九州大学大学院農学研究科博士後期課程昆虫学専攻修了、博士(農学)取得。九州大学農学部研究生、国際協力事業団派遣職員を経て、1996年より現職。

専門分野 陸上昆虫学

研究テーマ オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究

大学に入ってから現在まで、オサムシ上科甲虫の色彩の美しさ、形の不思議さ、生態のおもしろさにひかれて研究を行ってきた。漫画家の手塚治虫が、ペンネームをこの虫にちなんでつけたことを知る人は以外に多い。オサムシは他の昆虫にはあまりない”飛べない”という大きな特徴を持っている。そのため、地方色豊かな方言と同じように、同じ種でも地域ごとに違いが見られる。地域特性の代弁者であるオサムシから、日本あるいは世界の中で琵琶湖とその集水域がどのような地域なのかを考えてみたい。そして、オサムシがどのような過程で現在の分布に至ったのかを明らかにしたい。

琵琶湖とその集水域はその豊かな自然環境から、オサムシのほかにも実に多くの種の昆虫類が生息している。しかしながら、何がどこに生息しているのかという基礎的な事さえほとんど解明されていない。琵琶湖とその集水域の昆虫相を地域に住む一般の人達や専門家と一緒に調べて明らかにしていきたい。

琵琶湖周辺には古琵琶湖層群をはじめ昆虫化石も多く出てくる。他の分野の研究者とも連携し、博物館でしかできないような研究を行い、展示、交流、資料整備、情報事業などの博物館活動に展開させたい。

### 主任学芸員 戸田 孝 (とだ たかし)

略歴 1991年京都大学理学研究科博士課程地球物理学専攻単位取得、同年科学技術庁防災科学技術研究所特別研究員(非常勤)、1992年理学博士(京都大学)取得、同年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 地球物理学

研究テーマ 人工衛星や航空機からの観測による琵琶湖の流動の実態解明

「地球物理って何ですか。」と、聞かれたら「気象庁の仕事にかかわる基礎研究全て」だと答えることにしている。大気の動きはもちろん、海水や雨水の動き、地震の発生などについて、その原因まで含めて探求する学問である。私の専門は、その中でも海や湖などの「大きな水たまり」の中の水の動きを調べることだ。この水の動きを、人工衛星や飛行機などで遠くから観測する「リモートセンシング」という方法で調べるのを得意としている。琵琶湖博物館へ来るまでは、黒潮の暖かい水がどのように沿岸へやってくるのかを、人工衛星のデータで調べていた。琵琶湖博物館では、同じような方法で、琵琶湖の水の流れの細かいところを調べていこうと思っている。リモートセンシングを使うと、広い範囲の細かい情報を一度に観測することができる。つまり、一度の観測で大量のデータが得られる。リモートセンシングでは、この大量の観測データをどうやって効率的に処理するかが重要になる。そこで、コンピュータの使い方も並行して研究していたら、ずいぶん詳しくなってしまった。こういう縁で、琵琶湖博物館では、情報システムの整備も担当させていただき、最近では「博物館情報論」も研究テーマに加えている。

**主任学芸員 芦谷 美奈子 (あしや みなこ)**

略歴 1990年千葉大学理学研究科修士課程生態学専攻修了、理学修士、同年滋賀県教育委員会事務局文化部文化施設開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 水生植物学

研究テーマ 水生植物の繁殖と成長の研究

水生植物の生態学が専門。沈水植物の繁殖生態の研究の一環として、イバラモを対象とした調査を行っているほか、沿岸帯の種類組成やその役割についても調べている。最近では、水中だけではなく水辺の植物にも興味が広がりつつあり、特にヨシ(およびヨシ帯)の生態系に人の利用がどのように絡み合っているかについても、そのうち調べたいと考えている。生物の研究以外には、博物館の教育活動や触れる展示手法と利用者のメッセージの受け取り方について、実践的な取り組みも含めて調べてきた。

事業部では、長年ディスカバリールームの計画と運営に関わってきたが、平成12年度から情報センターで図書の仕事を担当、平成15年度半ばよりは平成16年度企画展担当として専念した。いずれの仕事においても、利用者の方々にとって博物館という場が、利用しやすく、楽しく知的刺激にあふれた場所にしたと考えている。

**学芸員 中藤 容子 (なかとう ようこ)**

略歴 1996年京都大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻修了、文学修士、同年5月より現職。

専門分野 民俗学

研究テーマ 琵琶湖水系における伝統的な資源利用とその変化

長い学生生活に終止符をうち、琵琶湖博物館開館の年、民俗学部門担当の学芸員となる。大学では文学部の地理学研究室に籍をおき、日本の地域社会に見られる社会集団と空間との関係を解明すべく、学部時代は村落を、修士課程時代は都市を駆けめぐった。近代化した生活様式の裏側でなおムラ的な社会集団が残っていることに非常に興味を覚えたのである。

学芸員となってからは、近江の祭を見てまわったり、観察会の広報ポスターをつくったり、生活実験工房の田んぼの田植えをしたり、収蔵庫にこもって民具資料の整理をしたりと慌ただしい。これらの民具たちを研究の材料として、これから少しずつ彼らが語ってくれる物語を紹介していきたいと思っている。

**主査(教員) 中村 公一 (なかむら こういち)**

略歴 1988年滋賀大学教育学部理科教育研究室卒業、滋賀県公立中学校教員、在職中2001年滋賀大学大学院教育学研究科理科教育専攻修了、教育学修士、2005年より現職。

専門分野 教育学(中学生対象)

研究テーマ 琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発

京都生まれ京都有ちだが、子どもの頃から琵琶湖へ遊びに来ていた。滋賀大学に入学した縁で、滋賀県教員になる。

教員としての経験上、おぼろげながら子どもに認知的な葛藤を起こすと理解が深まるのでは、と思っただけで、何の裏づけもない経験論であった。教員11年目に現職大学院生として再び、滋賀大学理科教育研究室で学び、認知心理学や授業評価の方法を知り、知識を構成する子どもの学びに興味をもつようになる。博物館は子どもが概念転換をする機会にあふれているところである。どういう「しかけ」が子どもの学びにとって有効か、考えていきたい。

**主査(教員) 中野 正俊 (なかの まさとし)**

略歴 1988年大阪教育大学教育学部教育学科小学校教員養成課程卒業、滋賀県公立中・小学校教諭。在職中2000年滋賀大学大学院教育学研究科学校教育専攻修了、教育学修士、2006年より現職。

専門分野 教育学（小学生対象）

研究テーマ 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究

小学3年生時、父といっしょに蓬莱浜近くの八屋戸川でビワマスをつかんだり、天川でオオサンショウウオを見つけて夏休みの科学研究にまとめたりしたことが、琵琶湖に関心を持つきっかけとなる。

小学校教員になった頃、子どもたちや保護者、地域の方々といっしょに稲作りをはじめ、命を育む「水の流れ」に興味を持つようになった。この学習活動から身近な田と河川から（含逆水）琵琶湖へと流れる「水」に焦点化し、第5学年理科「流れる水のはたらき」学習と総合的な学習の時間を組み合わせた。同様に、第6学年「水よう液の性質」学習では、湖水の分析を題材とした発展的な学習を実践した。学習に対する知的側面はもちろん、内発的な動機付けに的を当てたまとめが、平成16年度東書教育奨励賞で紹介された。

子どもたちには、かつて自分が父といっしょに感じた琵琶湖の不思議にふれさせたいと思ってきた。まずは子どもたちが自然にふれることによって、そのみずみずしさを「感じ」ることができると考えたからである。自然の奥深さを感じれば、その不思議を「考え」る契機となり、その経験の蓄積が、科学に対する「実感」となって、果ては自らの生活や生き方までを変えられるかもしれない。「理科離れ」は、種々の要因がからんでいるが、自然環境が失われつつあることだけでなく、生活様式の変化によって自然との関わりが希薄になったことや学校での学びが日常に生かしきれないことなどが考えられる。こういった課題の解消に向け、ささやかではあるが、博物館のなかで子どもたちや大人が目輝かせて学び、「実感」できる場を創っていきたいと考えている。

琵琶湖博物館 年報 10号

平成18年(2006年)11月 発行

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811

印刷 株式会社 土肥印刷

©滋賀県立琵琶湖博物館 2006

*Printed in Japan*

**R100** この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

